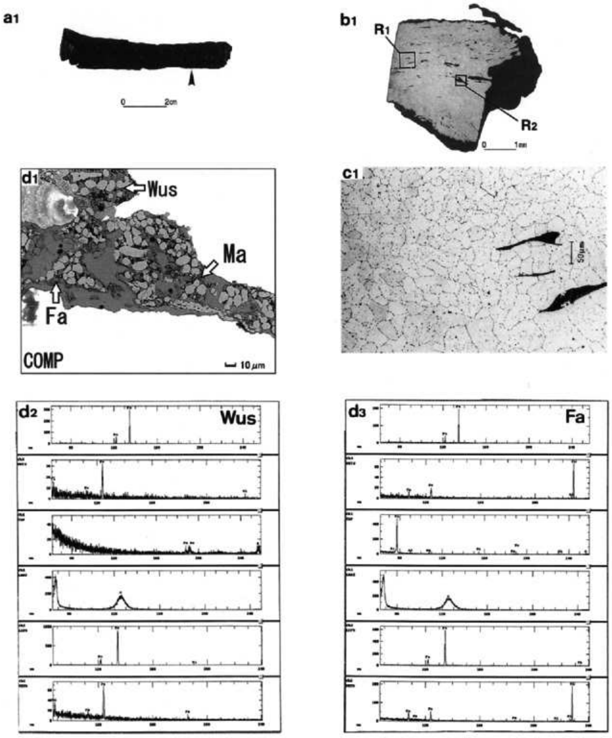


図1　No 1の外観と摘出した試料の組織観察結果

a_1:外観の矢印は試料摘出位置。b_1:摘出した試料のナイタールによるマクロエッチング組織。c_1:領域R_1内部のミクロエッチング組織。d_{1-3}:b_1領域R_2内部に残存する非金属介在物のEPMAによる組成像(COMP)と定性分析結果。Wus:ウスタイト、Fa:FeO−MgO−SiO_2系化合物、Ma:マトリックス。

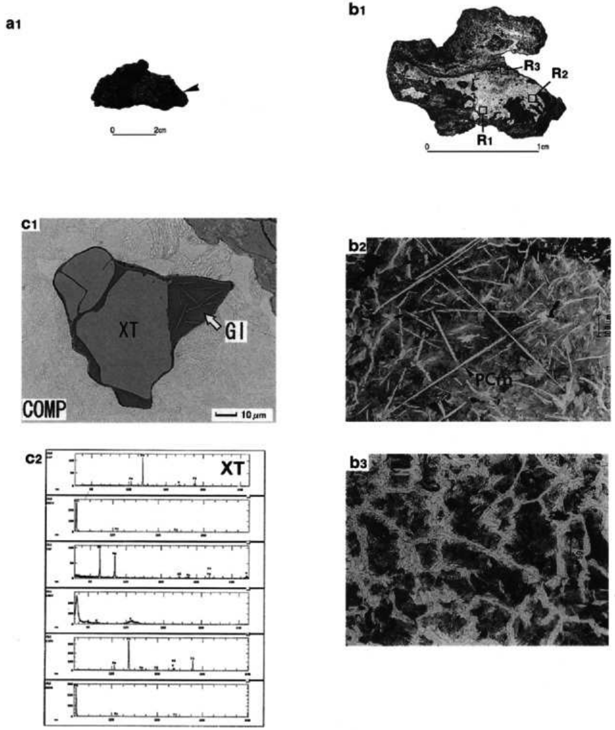


図2　No.2の外観と摘出した試料の組織観察結果

a_1:外観の矢印は試料摘出位置。b_1:摘出した試料のナイタールによるマクロエッチング組織。$b_{2\cdot3}$:それぞれb_1領域R_1、R_2内部のミクロエッチング組織。PCm:初析セメンタイト。$c_{1\cdot2}$:領域R_3内部に残存する非金属介在物のEPMAによる組成像(COMP)と定性分析結果。XT:Fe-Ti-Al-Mg-O系化合物、Gl:ガラス質ケイ酸塩。

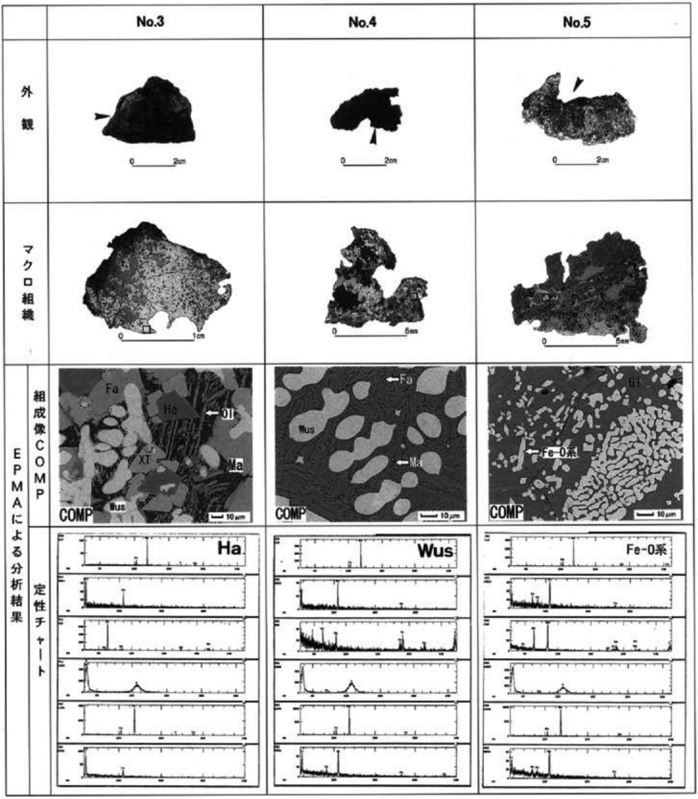


図3　No.3～No.5の外観と摘出した試料の組織観察結果

外観の矢印は試料摘出位置。EPMAによる組成像はマクロ組織の枠内部。Wus:ウスタイト、Fa:Fe-Si-Mg-O系化合物、Ol:Fe-Ca-Si-O系化合物、Ha:Fe-Al-O系化合物、XT:Fe-Al-Ti-Mg-O系化合物、Ma:マトリックス。

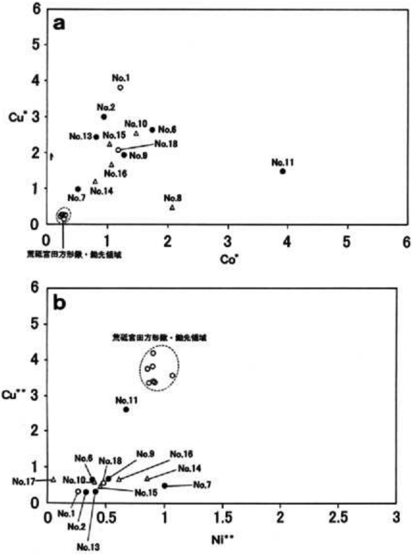


図4　鋼製鉄器に含有されるCu・Ni・Co三成分比
No.は表1・5に対応。
Cu*：(mass%Cu) / (mass%Ni)、　Co*：(mass%Co) / (mass%Ni)、
Cu**：(mass%Cu) / (mass%Co)、　Ni**：(mass%Ni) / (mass%Co)。
黒丸（●）：非金属介在物中に鉄チタン酸化物が見出されたもの。
白丸（○）：非金属介在物中に鉄チタン酸化物が見出されなかったもの。
白三角(△)：非金属介在物が見出されなかったもの。

表5　古代群馬県出土鋼製鉄器の分析結果

No.	資料名	出土地	推定時期	化学組成（mass%）								非金属介在物組成	Cu・Ni・Co三成分比			
				T.Fe	Cu	Ni	Co	Mn	P	Ti	Si		Co*(Co/Ni)	Cu*(Cu/Ni)	Ni**(Ni/Co)	Cu**(Cu/Co)
6	鎌	前橋市荒砥	8世紀後半	61.60	0.019	0.011	0.029	0.002	0.022	0.024	0.755	XT	2.64	1.73	0.38	0.66
7	鉄塊系遺物	上ノ坊遺跡	8世紀後半	54.70	0.010	0.020	0.020	—	—	0.170	3.15	XT·Gl	1.00	0.50	1.00	0.50
8	板状の鉄	新田郡	7世紀中～後葉（古段階）	63.50	0.031	0.015	0.007	0.142	0.005	0.002	<0.001	no	0.47	2.07	—	—
9	鎌	新田町	8世紀中葉	63.80	0.042	0.033	0.064	0.003	0.033	0.027	0.642	XT	1.94	1.27	0.52	0.66
10	鎌	中江田	9世紀後半～10世紀前半	61.80	0.025	0.017	0.043	tr	0.025	0.015	1.16	no	2.53	1.47	0.4	0.58
11	刀子	八ツ縄遺跡	10世紀後半	59.50	0.047	0.012	0.018	0.007	0.184	0.142	1.21	XT	1.50	3.92	0.67	2.61
12	釘	前橋市今井	8世紀後半～9世紀前葉	83.01	0.197	0.027	0.010	0.326	0.075	0.005	0.124	Gl	0.37	7.30	2.70	19.7
13	刀子	道上・道下遺跡	8世紀後半～9世紀前葉	52.61	0.013	0.016	0.039	0.008	0.037	0.061	2.27	XT	2.44	0.81	0.41	0.33
14	鋤先	前橋市二之	8世紀前葉	67.35	0.022	0.028	0.033	0.001	0.131	0.027	0.680	no	1.18	0.79	0.85	0.67
15	鎌	宮谷地遺跡	9世紀前葉	80.17	0.032	0.031	0.069	tr	0.026	0.007	0.372	no	2.23	1.03	0.45	0.46
16	器種不明	沼田市	10世紀後半	65.42	0.018	0.017	0.028	0.001	0.075	0.022	0.734	no	1.65	1.06	0.61	0.64
17	刀子	石墨遺跡	9世紀後半～10世紀前葉	63.30	0.026	0.002	0.041	0.003	0.042	0.042	0.346	no	—	—	0.05	0.63
18	器種不明		9世紀前半	63.18	0.014	0.012	0.025	0.003	0.068	0.023	1.01	Gl	2.08	1.17	0.48	0.56
19	鉄塊		10世紀前半	48.37	0.001	0.005	0.008	0.016	0.122	0.166	5.48	L	—	—	—	—

2．荒砥宮田遺跡出土人骨

楢崎修一郎

はじめに

荒砥宮田遺跡は、群馬県前橋市荒口町に位置し、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が昭和58(1983)年8月～昭和59(1984)年3月まで行われた。

本遺跡の2区2号・3号・12号・18号の4基の火葬跡から火葬人骨が、また、2区25号・40号・42号・45号・48号・50号土坑の6基の土坑より土葬人骨が出土したので以下に報告する。出土人骨の時代は、層位及び出土遺物より、中近世に比定されている。

人骨は、清掃あるいは水洗後できる限りの接着復元を行った後、注記・写真撮影・計測・観察を行った。なお、歯の計測は藤田の方法(1949)に従い、比較データは、中近世人のものはMATSUMURA(1995)を、現代人のものは権田(1959)を用いた。

表1．荒砥宮田遺跡2区出土人骨一覧

土坑番号	個体数	性別	死亡年齢	備考
2号	不明	不明	不明	火葬人骨
3号	不明	男性	成人	火葬人骨
12号	不明	不明	成人	火葬人骨
18号	不明	不明	不明	火葬人骨
25号	不明	不明	成人	土葬人骨
40号	1個体	女性	約40歳代	土葬人骨
42号	1個体	男性	約50歳代	土葬人骨
45号	1個体	不明	成人	土葬人骨
48号	1個体	男性(男児)	約10歳	土葬人骨
50号	1個体	男性	約50歳代	土葬人骨

1．2区2号土坑出土火葬人骨（1983年10月13日出土）

隅丸長方形の火葬跡より出土している。土坑の大きさは、長軸約109cm・短軸約66cm・深さ約19cmである。副葬品は検出されていない。長軸の北辺中央部に約10cmの突出部が検出されている。このような煙道を持つ構造の火葬遺構は、群馬県では主に中世の遺跡から検出されている(清水、2001；楢崎、2002；綿貫、1997)。この煙道は、恐らく火の焚き口であろう。従って、火葬する際の風向きを考慮してのことと推測されるので、火葬当時、風は北から吹いていたのであろう。群馬県の場合、多くは冬に北から風が吹くので、火葬の時期は冬の可能性がある。

人骨は、約9片出土しているが、どれも細片であり、出土部位の同定及び被火葬者の性別・死亡年齢等を推定するのは不可能である。このように、火葬人骨を丁寧にほとんど収骨する方法は、現代の日本にも認められる東日本タイプの葬法であろう(楢崎、2002)。

なお、人骨の色は白色を呈しているので、火葬の際の温度は、約900℃以上であろう。人骨の残存量が少ないため、死体をそのまま火葬にしたか、白骨化させて火葬に付したかは、判定できない。

2．2区3号土坑出土火葬人骨（1983年10月12日・17日出土）

隅丸長方形の火葬跡より出土している。土坑の大きさは、長軸約150cm・短軸約74cm・深さ約25.5cmである。副葬品は検出されていない。長軸の東辺中央部に約20cmの突出部が検出されている。このような煙道を持つ構造の火葬遺構は、群馬県では主に中世の遺跡から検出されている(清水、2001；楢崎、2002；綿貫、1997)。この煙道は、恐らく火の焚き口であろう。従って、火葬する際の風向きを考慮してのことと推測されるので、火葬当時、風は東から吹いていたのであろう。

人骨は、6つに分けて取り上げられている。頭蓋骨片・鎖骨片・上腕骨片・寛骨片・大腿骨片・脛骨片等が同定できた。このように、火葬人骨を丁寧に収骨する方法は、現代の日本にも認められる、東日本タイプの葬法であろう(楢崎、2002)。

なお、人骨の色は白色を呈しているので、火葬の

際の温度は、約900℃以上であろう。また、人骨には亀裂やゆがみやねじれが認められるので、白骨化させたものを火葬にしたのではなく、死体をそのまま火葬に付したと推定される。ただし、これらは細片であり、被火葬者の性別及び死亡年齢等を推定するのは困難である。しかしながら、右上腕骨破片を観察すると、収縮を考慮しても大きさが大きく頑丈なので、被葬者の性別は男性で、死亡年齢は恐らく成人であろう。

3．2区12号土坑出土火葬人骨（1983年10月17日出土）［写真1参照］

隅丸長方形の火葬跡より出土している。土坑の大きさは、長軸約126cm・短軸約57cm・深さ約28cmである。副葬品は検出されていない。

人骨は、23に分けて取り上げられている。頭蓋骨片・大腿骨片・脛骨片等が同定できた。しかしながら、ほとんどの骨はすでに火葬後に収骨されている。このように、火葬人骨を丁寧に収骨する方法は、現代の日本にも認められる、東日本タイプの葬法であろう（楢崎、2002）。

なお、人骨の色は白色を呈しているので、火葬の際の温度は、約900℃以上であろう。また、人骨には亀裂やゆがみやねじれが認められるので、白骨化させたものを火葬にしたのではなく、死体をそのまま火葬に付したと推定される。

右頭頂骨の乳突角部を観察すると、頭頂乳突縫合は開放の状態であり閉鎖していない。しかしながら、この縫合は、加齢しても閉鎖しない縫合として知られているため、死亡年齢推定の指標とはならない。その他の人骨は、どれもが細片であり、被火葬者の性別及び死亡年齢等を推定するのは困難である。性別不明で、死亡年齢は恐らく成人であろう。

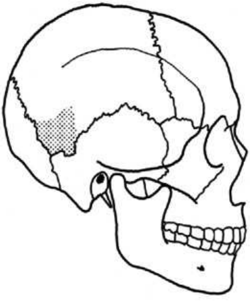


写真1．2区12号土坑出土火葬人骨（左：右頭頂骨乳突角部、右：出土部位図）

４．２区18号土坑出土火葬人骨（1983年10月18日出土）

楕円形の火葬跡より出土している。土坑の大きさは、長軸約107cm・短軸約63cm・深さ約12cmである。副葬品は検出されていない。

人骨は、７点出土しているが、どれも細片であり、出土部位の同定及び被火葬者の性別・死亡年齢を推定するのは不可能である。このように、火葬人骨を丁寧に収骨する方法は、現代の日本にも認められる、東日本タイプの葬法であろう（楢崎、2002）。

なお、人骨の色は白色を呈しているので、火葬の際の温度は、約900℃以上であろう。人骨の残存量が少ないため、死体をそのまま火葬にしたか、白骨化させて火葬に付したかは、判定できない。

５．２区25号土坑出土人骨（1983年10月19日出土）

不整長方形の土坑より出土している。土坑の大きさは、長軸約99cm・短軸約80cm・深さ約60.5cmである。

人骨は、四肢骨片が出土しているが、どれも細片であり、被葬者の性別及び死亡年齢を推定するのは困難である。被葬者は、性別不明で死亡年齢は恐らく成人であろう。

６．２区40号土坑出土人骨（1983年10月25日出土）［写真２・３参照］

①人骨の出土状況

隅丸長方形の土坑より出土している。土坑の大きさは、長軸約105cm・短軸約55cm・深さ約47.5cmである。

②人骨の出土部位

出土人骨は、左右側頭骨片及び永久歯の遊離歯の歯冠12本が出土している。

③被葬者の頭位・埋葬状態

調査時の写真及び実測図より、被葬者の頭位は北側で、右側を下にして顔を西側に向け横（側）臥屈葬で埋葬されたと推定される。

④被葬者の個体数

全体的に人骨の残存量は少ないが、出土人骨特に歯に重複部位が無いため、被葬者の個体数は１個体と推定される。

⑤被葬者の性別

永久歯12本の歯冠計測値より、計測値が全体的に大きく、被葬者の性別は男性と推定される。しかしながら、右側頭骨の乳様突起を観察すると、男性にしては発達していないので、被葬者は女性である可能性もある。恐らく、女性であろう。

⑥被葬者の死亡年齢

永久歯12本の歯冠の咬耗度を観察すると、一部象牙質が点状に露出する状態のブローカの２度である。従って、被葬者の死亡年齢は約40歳代と推定される。

⑦出土歯の古病理

すべての出土歯に、歯石あるいは歯石が付着していた痕跡が認められた。この歯石は、柔らかい食物を摂取すると発生すると考えられている。

また、俗に虫歯と呼ばれる齲蝕が、上顎右第１小臼歯の遠心面歯頸部・上顎左第1大臼歯の遠心面歯頸部・下顎右第２大臼歯の頬側面歯頸部に、それぞれ象牙質に達する齲蝕が認められた。これらは、第２度齲蝕（C2）である。また、下顎右第1大臼歯の頬側には歯冠が崩壊するほどの齲蝕が認められた。これは、第4度齲蝕（C4）である。

７．２区42号土坑出土人骨（1983年10月25日出土）［写真４・５参照］

①人骨の出土状況

円形の土坑より出土している。土坑の大きさは、長軸約83cm・短軸約80cm・深さ約60cmである。

②人骨の出土部位

人骨は、頭蓋骨（前頭骨片・右頬骨片・右上顎骨・右側頭骨）と遊離歯15本が出土している。

③被葬者の頭位・埋葬状態

人骨の出土位置より、被葬者の頭位は南西である。埋葬状態は不明であるが、ほぼ円形の土坑であるこ

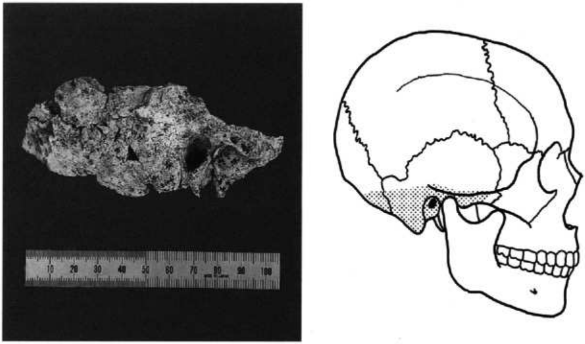


写真２．２区40号土坑出土人骨（左：右側頭骨・後頭骨右部）、右：出土部位図）

上顎右	上顎左
P2 P1 C	P2 M1
M2 M1 P2 P1 C	C M1
下顎右	下顎左

註：Ｃ（犬歯）・Ｐ１（第１小臼歯）・Ｐ２（第２小臼歯）・Ｍ１（第１大臼歯）・Ｍ２（第２大臼歯）を意味する

写真３．２区40号土坑出土歯（上：出土歯咬合面観、下：出土歯歯式）

とから座葬であった可能性が高い。

④被葬者の個体数

出土人骨の残存量は少ないが、人骨、特に出土歯に重複部位が認められないため、被葬者の個体数は１個体と推定される。

⑤被葬者の性別

眼窩上縁部は円みを帯びており、頬骨も大きく頑丈なので、被葬者の性別は男性と推定される。さらに、永久歯13本の歯冠計測値より、計測値が全体的に大きく、被葬者の性別は男性と推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

永久歯13本の歯冠の咬耗度を観察すると、象牙質が面状に露出する状態のブローカの２度から３度である。この咬耗は、通常の咀嚼のみによるのではなく、歯を使用して何かの作業を行ったことを推測させる。従って、被葬者の死亡年齢は約50歳代と推定されるが、実際にはもう少し若い可能性もある。しかしながら、一部残存している頭蓋骨の冠状縫合及び矢状縫合が、外板及び内板共に癒合がかなり進んだ状態であることから、死亡年齢は約50歳代であろう。

⑦被葬者の頭蓋骨の形態

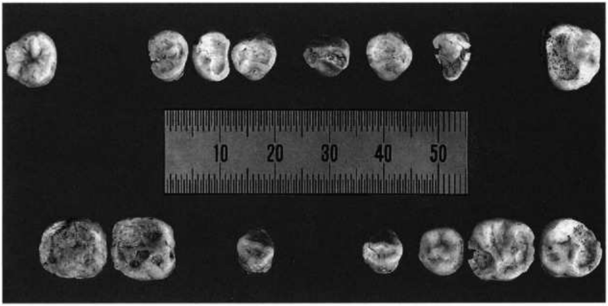
出土人骨の残存量が少ない上、破片であるので、頭蓋骨で計測できる部位は無かった。しかしながら、明らかに上顔高は短い(低い)。

⑧出土歯の古病理

すべての出土歯に、歯石あるいは歯石が付着していた痕跡が認められた。この歯石は、柔らかい食物を摂取すると発生すると考えられている。

また、俗に虫歯と呼ばれる齲蝕が、上顎左犬歯の遠心面歯頸部に認められた。これは、第２度齲蝕(C2)である。

写真４．２区42号土坑出土人骨（左：前頭骨・右頬骨・右上顎骨、右：出土部位図）



上顎右	M3			P2	P1	C	I1	C	P2		M2	上顎左
下顎右		M2	M1			C		C	P2	M1	M2	下顎左

註：Ｉ１（第1切歯）・Ｃ（犬歯）・Ｐ１（第１小臼歯）・Ｐ２（第２小臼歯）・Ｍ１（第１大臼歯）・Ｍ２（第２大臼歯）・Ｍ３（第３大臼歯）を意味する

写真５．２区42号土坑出土歯（上:出土歯咬合面観、下:出土歯歯式）

８．２区45号土坑出土人骨（1983年10月25日出土）

隅丸長方形の土坑より出土している。土坑の大きさは、長軸約105cm・短軸約55cm・深さ約47.5cmである。

現場での写真及び実測図から判断すると、頭位は北側で仰臥屈葬で埋葬された可能性が高い。しかしながら、歯が出土していないため、その頭位は定かではない。

出土人骨の残存量は非常に少なく、四肢骨片が出土している。従って、被葬者の性別・死亡年齢等を推定するのは困難である。性別不明で、死亡年齢は恐らく成人であろう。

９．２区48号土坑出土人骨（1983年10月25日出土）［写真６・図１参照］

①人骨の出土状況

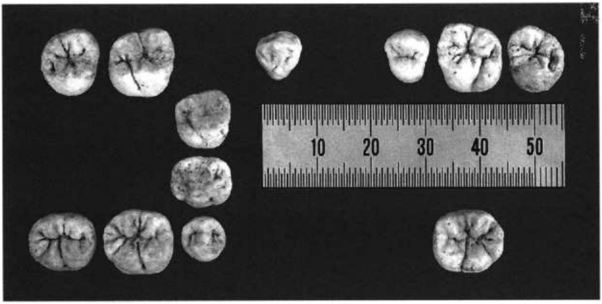
隅丸長方形の土坑より出土している。土坑の大きさは、長軸約81cm・短軸約67cm・深さ約15cmである。

②人骨の出土部位

遊離歯の歯冠部12本が出土している。内訳は、乳歯が２本と永久歯が10本である。

③被葬者の頭位・埋葬状態

歯の出土位置より、被葬者の頭位は北側で顔面部は西側を向けた状態で、右側を下にした横(側)臥屈葬であったと推定される。被葬者の死亡年齢は、



上顎右	上顎左
M2　M1　　C	P2　M1　M2
m2	
m2	
M2　M1　P2	M1
下顎右	下顎左

註：m２（第２乳臼歯）・C（犬歯）・P２（第２小臼歯）・M１（第１大臼歯）・M２（第２大臼歯）を意味する

写真６．２区48号土坑出土歯（上：出土歯咬合面観、下：出土歯歯式）

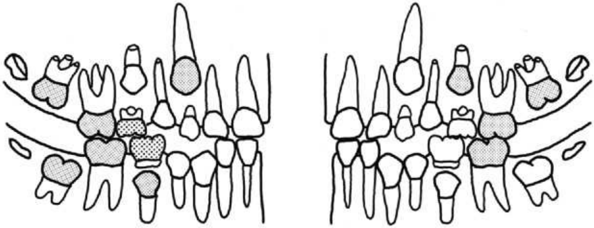


図１.２区48号土坑出土歯残存図（疎の点は乳歯、密の点は永久歯）

約10歳の男性(男児)と推定された。四肢骨が出土していないので、骨から直接生前の身長を推定することは不可能である。しかしながら、1975年の日本人男子の平均身長は約135.4cm・女子の平均身長は約136.6cmである。中近世人であれば、もう少し身長が低かったことが予測される。いずれにしても、土坑の長軸は約81cmであるので、伸展葬ではなく、屈葬であったと推定される。

④被葬者の個体数

歯は、乳歯と永久歯との混合歯列であるが、出土歯には重複部位は無く、また、出土状況からも被葬者の個体数は1個体と推定される。

⑤被葬者の性別

永久歯10本の歯冠計測値より、計測値は全体的に大きく被葬者の性別は男性(男児)と推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

出土歯は、乳歯と永久歯との混合歯列である。上顎右第2乳臼歯と下顎右第2乳臼歯の2本の乳歯には象牙質にまで達する咬耗が認められるが、10本の永久歯はエナメル質にわずかに咬耗がある歯と全くない歯とが認められる。このことは、永久歯が萌出して間もないかあるいはまだ未萌出の状態であることを示唆する。また、現場での出土状況の写真より、乳歯がほとんど脱落した状態であることが判明した。従って、歯の萌出状態より、被葬者の死亡年齢は約10歳と推定される。

⑦出土歯の古病理

出土歯12本には、歯石も俗に虫歯と呼ばれる齲蝕も認められなかった。

10.　2区50号土坑出土人骨［写真7・8参照］

①人骨の出土状況

地下式土坑より出土している。土坑の大きさは、隅丸方形で、長軸約2m・短軸約2m・深さ約2mである。

②人骨の出土部位

人骨は、頭蓋骨片(右頭頂骨・左右側頭骨・後頭骨)・永久歯3本・右大腿骨骨幹部等が出土している。

③被葬者の頭位・埋葬状態

被葬者の頭位及び埋葬状態は、不明である。今回、右側頭骨及び右頭頂骨を復元することができ、歯も下顎骨右側の永久歯3本が検出されている。経験則ではあるが、右側の保存状態が左側に比して良い場合は、右を下にした横(側)臥屈葬である場合が多いので、今回もその可能性が高い。

④被葬者の個体数

出土人骨の残存量は少ないが、明らかな重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体と推定される。

⑤被葬者の性別

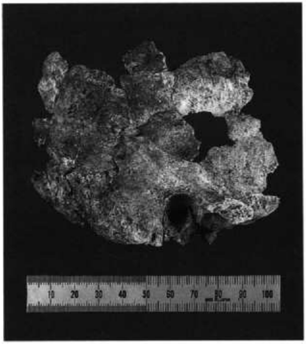
一部破損しているが、右側頭骨の乳様突起部が比較的大きい。また、同骨の頬骨突起の後根部が発達しているため、被葬者の性別は男性と推定される。ちなみに、外後頭隆起部と内後頭隆起部との距離は、18mmである。さらに、永久歯3本の歯冠計測値は全体的に大きいため、被葬者の性別は男性と推定される。

⑥被葬者の死亡年齢

出土した永久歯3本の咬耗度を観察すると、象牙質が面状に露出するブローカの2度の状態である。従って、被葬者の死亡年齢は約50歳代と推定される。

⑦出土歯の古病理

出土歯3本には、歯石も俗に虫歯と呼ばれる齲蝕も認められなかった。



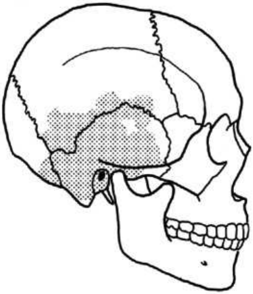
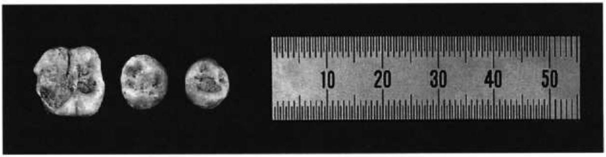


写真７．２区50号土坑出土人骨（左：右頭頂骨・右側頭骨、右：出土部位図）



註：Ｐ１（第１小臼歯）・Ｐ２（第２小臼歯）・Ｍ１（第１大臼歯）を意味する

写真８．２区50号土坑出土歯（上：出土歯咬合面観、下：出土歯歯式）

表２．荒砥宮田遺跡出土人骨歯冠計測値及び比較表

	歯種	計測項目	荒砥宮田遺跡								鎌倉時代人*		江戸時代人*		現代日本人**	
			40号土坑		42号土坑		48号土坑		50号土坑							
			右	左	右	左	右	左	右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀
上顎	I 1	MD	−	−	−	(8.2)	−	−	−	−	8.48	8.29	8.78	8.38	8.67	8.55
		BL	−	−	−	7.8	−	−	−	−	7.29	7.00	7.52	7.06	7.35	7.28
	C	MD	8.6	−	(8.2)	(8.3)	8.4	−	−	−	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	8.7	−	(8.9)	(9.2)	9.1	−	−	−	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	P 1	MD	7.7	−	(6.9)	−	−	−	−	−	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
		BL	9.7	−	(9.3)	−	−	−	−	−	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
	P 2	MD	6.5	7.0	(7.3)	((6.9))	−	8.1	−	−	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		BL	9.0	8.8	(9.6)	((9.3))	−	9.6	−	−	9.39	8.88	9.55	9.29	9.41	9.23
	M 1	MD	−	10.7	−	−	12.0	12.0	−	−	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47
		BL	−	13.0	−	−	12.4	12.4	−	−	11.81	11.30	11.87	11.39	11.75	11.40
	M 2	MD	−	−	−	(9.6)	11.0	[10.5]	−	−	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
		BL	−	−	−	(12.3)	12.4	[12.0]	−	−	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31
	M 3	MD	−	−	9.2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	8.94	8.86
		BL	−	−	10.1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	10.79	10.50
下顎	C	MD	7.5	7.5	(6.8)	(7.1)	−	−	−	−	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.68
		BL	7.8	6.4	(8.0)	(8.2)	−	−	−	−	7.82	7.33	8.04	7.39	8.14	7.50
	P 1	MD	7.9	−	−	−	−	−	8.2	−	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19
		BL	8.7	−	−	−	−	−	9.6	−	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77
	P 2	MD	7.5	−	−	7.6	8.2	−	8.7	−	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
		BL	8.5	−	−	8.9	8.4	−	9.8	−	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26
	M 1	MD	13.0	13.3	12.6	11.9	12.8	12.9	(12.7)	12.3	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
		BL	齲歯	12.0	11.4	11.6	11.8	11.6	−	−	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
	M 2	MD	12.6	−	12.1	10.8	12.1	−	−	−	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89
		BL	11.9	−	(11.5)	(10.5)	10.6	−	−	−	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20

註１：計測値の単位は、すべて、「mm」である。
註２：歯種は、I1（第1切歯）・C（犬歯）・P1（第1小臼歯）・P2（第2小臼歯）・M1（第1大臼歯）・M2（第2大臼歯）・M3（第3大臼歯）を意味する。
註３：MD（歯冠近遠心径）・BL（歯冠唇頬舌径）を意味する。
註４：「齲歯」とあるのは、齲歯（虫歯）のために歯冠が崩壊しており計測できなかったことを示す。
註５：計測値が「（　）」で囲まれているのは、咬耗の影響を受けていることを示す。
註６：計測値が「((　))」で囲まれているのは、咬耗の影響を大きく受けていることを示す。
註７：計測値が「[　]」で囲まれているのは、破損の影響を受けていることを示す。
註８：*はMATSUMURA（1995）より、**は権田（1955）より引用。なお、MATSUMURA（1995）には、第3大臼歯のデータは含まれていない。

まとめ

荒砥宮田遺跡の土坑10基から、人骨が出土した。この内、４基は火葬跡で、６基は土葬墓である。

２号・３号・12号・18号の４基の火葬跡から火葬人骨が出土した。２号土坑には性別及び死亡年齢不明個体が、３号土坑には成人男性が、12号土坑には性別不明の成人が、18号土坑には性別及び死亡年齢不明個体が火葬に付されたと推定された。この４基の火葬人骨は残存量が少なく、ほとんどの人骨を収骨する東日本タイプの収骨が行われた火葬跡と推定された。

25号・40号・42号・45号・48号・50号土坑の６基の土坑から土葬人骨が出土した。25号土坑には性別及び死亡年齢不明個体が、40号土坑には約40歳代の女性が横臥屈葬で、42号土坑には約50歳代の男性が座葬で、45号土坑には性別不明の成人が仰臥屈葬で、48号土坑には約10歳の男性（男児）が横臥屈葬で、50号土坑には約50歳代の男性が横臥屈葬で埋葬されたと推定された。

謝辞

本出土人骨を報告する機会を与えていただき、出土人骨に関する様々な情報をいただいた、（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団の小島敦子氏に感謝いたします。

引用文献

藤田恒太郎　1949　歯の計測基準について、「人類学雑誌」、61(1)：1−6.

権田和良　1959　歯の大きさの性差について、「人類学雑誌」、67(3)：47−59.

MATSUMURA, Hirofumi　1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from morphology, National Science Museum Monographs No. 9, National Science Museum

楢崎修一郎　2002　下小島神戸遺跡出土火葬人骨、「群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要」、20:43-50.

清水　豊　2001　「第６章　遺跡から見る中世の墓葬」、「群馬町誌通史編上」、群馬町誌刊行委員会、p.445−454.

綿貫邦男編　1997　「下小島神戸遺跡」、（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

3．荒砥宮田遺跡出土馬歯

楢崎修一郎

はじめに

荒砥宮田遺跡は、群馬県前橋市荒口町に位置し、（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が昭和58(1983)年8月～昭和59(1984)年3月まで行われた。

本遺跡の2区東谷地東岸溝群G･H間及び同H･I間より馬歯が出土したので以下に報告する。出土馬歯の時代は、層位及び出土遺物より、どちらも近世以降に比定されている。

馬歯は、清掃あるいは水洗後できる限りの接着復元を行った後、注記・写真撮影・計測・観察を行った。なお、馬歯の計測はﾌｫﾝ･ﾃﾞﾝ･ﾄﾞﾘｰｼｭ［von den DRIESCH］(1976)の方法を用いた。また、馬歯の計測値の比較は大江他(1990)を用いた。

1．2区東谷地東岸溝群G・H間出土馬歯
（1983年10月29日出土）

①出土部位

馬の上顎臼歯が2本出土している。1本は、接着復元することができたが、もう1本は破損が激しく復元できなかった。馬歯の色は、茶色を呈しており、水に浸かっていたことを示唆する。接着復元できた馬歯の出土部位は、上顎左第3小臼歯（P3）である。

②個体数

上顎臼歯2本が出土しているが、色も似通っており、恐らく同一個体であろう。従って、個体数は1個体と推定される。

③性別

馬の場合、性別は上下顎にある犬歯の有無あるいは、寛骨により推定できる。今回、これらの部位は出土しておらず、性別の推定は困難である。

④死亡年齢

臼歯の計測値より、本個体の死亡年齢は、約5歳と推定される。

⑤古病理

歯石の付着は、認められなかった。

2．2区東谷地東岸溝群H・I間出土馬歯
（1983年10月29日出土）

①出土部位

馬の下顎臼歯が2本分出土している。1本は、残存状態が良かったが、もう1本は破損が激しく復元できなかった。馬歯の色は、茶色を呈しており、水に浸かっていたことを示唆する。残存状態が良かった馬歯の出土部位は、下顎左第3小臼歯（P3）である。

②個体数

下顎臼歯2本が出土しているが、色も似通っており、恐らく同一個体であろう。従って、個体数は1個体と推定される。

③性別

馬の場合、性別は上下顎にある犬歯の有無あるいは、寛骨により推定できる。今回、これらの部位は出土しておらず、性別の推定は困難である。

④死亡年齢

臼歯の計測値より、本個体の死亡年齢は、約5歳と推定される。

⑤古病理

歯石の付着は、認められなかった。

3．考察

この両馬歯共に、溝から出土していることから、祈雨祭祀に伴い水神に捧げるために殉殺したかあるいは水の便の良い溝の近くで屠殺・解体・皮剥ぎ・骨の加工等を行い残滓を投棄した可能性が疑われる。

しかしながら、どちらも死亡年齢約5歳と、まだ若く老馬ではないので、加工された後の残滓というよりも、祈雨祭祀に伴い殉殺された可能性が高いと考えられる。ちなみに、獣医学の分野では、馬の年令を5歳以下を幼齢馬・6歳～15･16歳を壮齢馬・16～17歳以上を老齢馬と分類している。

計測値の比較からは、G・H間出土馬歯は大形馬、

H・I間出土馬歯は小形馬である可能性が高い。

まとめ

荒砥宮田遺跡の2区東谷地東岸溝群G・H間及び2区東谷地東岸溝群H・I間より、馬歯が出土した。G・H間からは、上顎左第3小臼歯が1本出土し、性別不明で死亡年齢約5歳の大形馬と推定された。また、H・I間からは、下顎左第3小臼歯1本が出土し、性別不明で死亡年齢約5歳の小形馬と推定された。この両馬歯共に、溝から出土していることから、祈雨祭祀に伴い水神に捧げるために殉殺したかあるいは屠殺・解体・皮剥ぎ・骨の加工等を行い残滓を投棄した可能性が疑われる。しかしながら、死亡年齢が若いことから、本報告者は殉殺された可能性が高いと考える。

謝辞

本出土馬歯を報告する機会を与えていただき、出土馬歯に関する様々な情報をいただいた、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の小島敦子氏に感謝いたします。

引用文献

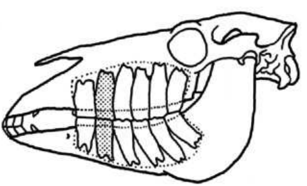
大江正直・木津博明・桜岡正信・友廣哲也　1990　付章上野国分僧寺・尼寺中間地域出土の動物遺存体、『上野国分僧寺・尼寺中間地域(4)』、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、p.707－938.

von den DRIESCH, A. 1976 *A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Sites.* Peabody Museum Bulletin 1. Harvard University Peabody Museum.

表1．荒砥宮田遺跡出土馬歯計測値及び比較表

		荒砥宮田遺跡		大形馬*		中形馬*		小形馬*	
		MD	BL	MD	BL	MD	BL	MD	BL
G・H間	上顎左第3小臼歯	29mm	26mm	28.8mm	26.3mm	27.2mm	26.2mm	25.6mm	25.1mm
H・I間	下顎左第3小臼歯	26mm	14mm	29.2mm	15.9mm	26.8mm	16.8mm	25.1mm	14.8mm

※大江(1990)より引用。数値は、平均値である。また、時代は、中世及び中世以降である。



左：写真1．荒砥宮田遺跡出土馬歯
　上段：左・上顎左第3小臼歯頬側面観
　　右・同舌側面観
　下段：左・下顎左第3小臼歯頬側面観
　　右・同舌側面観
右：図1．荒砥宮田遺跡出土馬歯残存図
　（左側面観）

第7章　発掘調査の成果と問題点

1．荒砥宮田遺跡･荒砥前田遺跡の調査の成果

小島敦子

荒砥宮田遺跡の調査から18年、荒砥前田遺跡の調査から20年の時間が過ぎ、ここに調査報告書を完結するにあたり、それぞれの発掘成果のまとめと、隣接する両遺跡の総合化をしておきたい。また個々の遺構・遺物についての成果と今後の課題について別にまとめることとする。

1）荒砥宮田遺跡の調査成果

荒砥宮田遺跡では第Ⅰ分冊古墳時代編(既刊)および第Ⅱ分冊古代・中近世編(本報告書)で報告したとおり、縄文時代前期の住居・土坑、古墳時代の居住域・墓域、古代の居住域、生産域、中世から近世にかけての屋敷遺構が検出された。特に第164図に示したように1区では、古墳時代の遺構と中近世遺構が著しく重複して検出された。検出された遺構の数は第3表(P.13)の通りである。

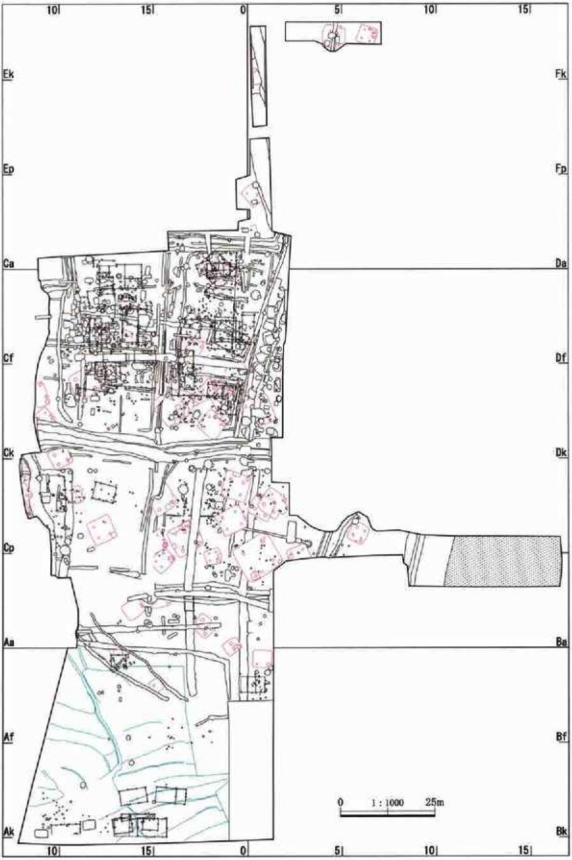
縄文時代　縄文時代の遺構・遺物は少なく、1区で縄文時代前期の住居1軒と土坑が、2区で細別時期不明の落し穴が4基検出されただけである。赤城山南麓の縄文時代前期集落分布は1～数軒の住居で構成されることが特徴であり、荒砥宮田遺跡1区の住居や土器出土状態は、このような赤城山南麓の前期集落構造に合致していることが確認された。

古墳時代　古墳時代の遺構は、前期後半から6世紀後半までの住居が1区から2区にかけての南北に細長いローム台地に分布していた(第164・165図赤色)。このうち古墳時代前期の住居は、1区南西部の低地との境に沿うように16軒の大型の住居と小型の住居が混在していた。2区の住居は3軒が東谷地の縁辺に偏在していた(第Ⅰ分冊第125図)。台地縁辺に住居が偏在するありかたは古墳時代前期の農耕集落の典型的なものといえる。一方、2区の台地で検出された1辺15mの方形周溝墓は1基単独で、その時期は1区や2区の住居と同様な時期と考えられる。この時期の周溝墓は群在することが多いが、発掘区が限定されているので検出されなかったのかもしれない。

1区の古墳時代中期(5世紀)の住居分布は、ほとんど前期段階の住居と同様であるが、後期(6世紀)の住居分布は、台地内部に広がっていく傾向が看取できる。また重複も著しく継続的な居住があったものと推定される。7世紀以降の住居は発掘区内では検出されなかった。この間に土地利用の変化があったものと考えられる。(第Ⅰ分冊第125図)

古墳時代の生産域は、明確にはとらえられなかった。1区・2区の東谷地では浅間C軽石直下面を検出したが、いずれの谷でも、浅間C軽石は谷底の狭い範囲にしか残っていなかった。軽石直下ではアゼ・水路等の施設も確認できなかったので、水田化されていた可能性はほとんどないと思われる。なお、浅間C軽石直下のプラントオパール分析は実施できなかった。谷地を望む住居の時期は、土器の様相から浅間C軽石降下以降と考えられるので、この東谷地は軽石降下後、4世紀後半代に水田化され、1108年の浅間B軽石降下までその耕作は継続されたものと考えたい。この際浅間C軽石の下半部は耕作による攪乱が及ばないで残されたと考えられよう。

1区南部の微高地から低地にかかる地点で検出された最も古い水田面は、弘仁九(818)年の洪水堆積物に覆われたものである。台地上には古墳時代前期から集落が存在することから、この微高地が古墳時代に水田化されていた可能性はあるが、いつ開田されたかは明確にできなかった。微高地の開田にあたっては新たな用配水施設が必要となるが、水田に伴う溝は一部で検出されたものの、開田時期を確定する調査所見は得られなかった。洪水砂で水田が甚大な被害を受けるまで、徐々に傾斜地に水田域を拡大させながら水田耕作を継続させてきたのであろう。



第164図　１区・１北区遺構全体図

古代　古代の遺構は、１区南部で弘仁九(818)年の洪水堆積物に覆われた水田(第164図青色)と、２区で２軒の住居が検出されたにとどまる。１区台地上には目立った遺構は検出されなかった。居住とは別の土地利用がなされていたと推定される。１区南部の洪水層下水田は細長い棚田状の傾斜地水田で、荒砥前田遺跡でも同じ層位の水田面が検出されており、古代における傾斜地水田開発の進展を推定させる。

１区南部の水田は洪水層が堆積した後、畠作耕地となる。この畠も荒砥前田遺跡の同じ層位で検出されており、一定の広さで展開していたと推定される。この畠作耕地は、荒砥前田遺跡の調査成果では、水田が洪水被害を受けた後、その復旧として作られたと推定されている[文献1]。荒砥宮田遺跡では具体的な復旧の所作は検出できなかったが、荒砥前田遺跡と同じ層位で検出されていることから、荒砥前田遺跡と同様に洪水被害を受けた水田耕地の復旧として作られたと推定しておきたい。

１区南部では、畠作耕地土層より上位で浅間Ｂ軽石が一部で検出された。この直下面では水田の明確な遺構はとらえられなかった。荒砥前田遺跡では浅間Ｂ軽石直下でアゼの一部を検出していることから、荒砥宮田遺跡１区にも連続した面があったと考えておきたい。１区東谷地・２区東谷地・３区・４区でも浅間Ｂ軽石層は検出されている。水田と判断したのは２区東谷地のみで、ここではアゼと平坦面を確認した。他地点では浅間Ｂ軽石下面の記録をとるにとどまった。

中近世　中世・近世の遺構は１区が屋敷跡(第164図黒色)、２区が墓域(第165図黒色)として明確な土地利用の差としてあらわれた。１区では掘立柱建物29棟を整理作業時に抽出できた。これらの建物を構成する柱穴は、１区南部では弘仁九(818)年の洪水層を切って掘られている。建物群は主軸方向の違いから４群に分けることができた。(詳細は後述する本章－４を参照)さらに、これらの建物群は、建物の型式や、建物および他の遺構との重複関係を検討することによって４時期に分けることができた。これらの４分類は厳密な建物の同時性を示すものではないが、大まかな建物配置すなわち屋敷構成の変遷を示すことも可能となった。建物からの出土遺物は皆無に等しく、建物の時期は関連する溝等からの出土遺物で推定することになった。

これによれば荒砥宮田遺跡の屋敷は、14・15世紀を中心とした区画屋敷の２時期(２段階：Ｃ群、３段階：Ｂ群＋Ｃ′群)と、その前のＡ群の時期(１

第６表　主な溝出土遺物の時期

段階	溝番号	12世紀	13世紀	14世紀	15世紀	16世紀	17世紀	18世紀	近現代	
2	43									遺物無し
	62			中世内耳			17C天目			
3	21			中世陶器·焙烙			江戸？焙烙			
	42			中世内耳			17C鉄絵皿			
	44									遺物無し
	59									遺物無し
	68	12·13C常滑片口		中世内耳鍋·焙烙		16Cかわらけ	17C瀬戸美濃陶器	江戸焙烙		
	72			14~15C内耳鍋			17~18C灰釉皿			
	73			14C黄瀬戸皿	中世内耳鍋·焙烙		17C瀬戸美濃陶器			
	75				15C内耳鍋	16C焙烙				
	91									遺物無し
	94		13C常滑甕	中世~江戸内耳鍋·焙烙			17C瀬戸美濃皿	18C丹波すり鉢		
4	40·41			中世常滑甕(2点)	中世~江戸内耳鍋·焙烙		江戸瀬戸美濃陶器	18C志戸呂灯明皿	土管	
	52						江戸瀬戸美濃碗			
	53								鍋·焙烙	
	54									遺物無し
	55									遺物無し
	58									遺物無し
	64									遺物無し
	65									遺物無し
	85									遺物無し
	88					16~17C焙烙			内耳鍋·焙烙	

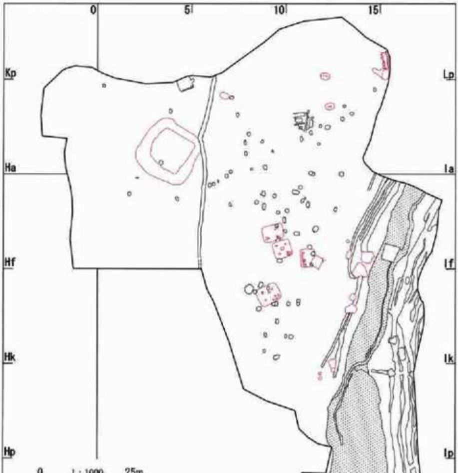
段階)、江戸期と考えられるC′群６号掘立柱建物の時期(４段階)に変遷すると考えられる。このうち、１段階から２段階への変化は方形区画の溝の出現、３段階から４段階への変化は方形区画の地割りの変化を伴う。しかしこの変化の中でも、建物群の北側にある赤城神社は溝に残された土橋や橋脚跡から２段階以降のいずれの時期にも意識されている。赤城神社の造営は１段階と２段階の間にあったものと推定される。

中世から近世にかけては掘立柱建物以外に溝・井戸・土坑・竪穴状遺構が検出されているが、建物に伴うと明確に把握できたものはない。溝と竪穴状遺構と掘立柱建物は、それぞれの重複から先後関係があきらかになったものもあるが、ほとんどの遺構の時期は確定できなかった。井戸や土坑は、出土遺物が少ない上に、時期を確定する編年が未確定の五輪塔や大型磨り石などが出土した遺構が多いことから、時期を明確にすることは困難な状況であった。

溝は圃場整備事業の直前の地割りに一致するものが多くあり、中世あるいは近世から続く地割りが残存していたことを推定させる。しかし、溝からの出土遺物は新旧のものが混在している(第６表)。

溝内部C群の建物に関連すると考えられている43号・62号溝のうち、43号溝は出土遺物がない。しかし主として中世遺物を出土する竪穴状遺構列と平行する位置関係からは中世である可能性が考えられる。62号溝は17世紀瀬戸美濃天目碗と中世内耳鍋が出土しているのみで時期は明確ではないが、主軸方位の近似からC群建物との関連を考えておきたい。

C′群建物との関連が考えられている21号から94号溝も中世から近世の遺物が混在している。遺物量は全体に中世の遺物が多く、18世紀以降の遺物は少



第165図
２区遺構全体図

ない。C′群建物の時期は複数の段階を経るものと見られ、関連する溝も継続や掘り直し等の時間幅があったものと推定される。

C′群建物のうち6号建物・7号建物・1号柱穴列はやや後出する時期が考えられている。関連する溝のうち40・41号溝や68号溝には中世遺物が多く出土するが、その他の溝は16～17世紀以降であり、建物の型式差との整合性をみせる。40・41号溝や68号溝は前段階から継続して機能していたのであろう。

2区の墓域では火葬跡5基、土坑墓25基が検出された。このうち火葬跡4基、土坑墓6基から人歯骨が出土した。これらの性別・死亡年齢・残存部位は第6章－2で報告した。火葬跡の人骨については性別・死亡年齢の推定が困難な残存状況であった。土坑墓の土葬人骨は6体のうち、40～50代、あるいは成人であり、2区48号土坑のみ年齢10歳ほどの男児の歯が出土している。

墓の時期は確実に伴う土器はなく、副葬された古銭も新旧が混然としており、直接時期を示さない状況であり、本銭と模鋳銭の分類も完全には出来ない状況である(第7表)。したがって墓の時期は不明と言わざるを得ないが、板碑の存在、近世墓に特徴的な皿・碗類の副葬がないこと等からすれば、2区は中世から墓域となり、近世初期まで墓がつくられたと考えておきたい。また2区の土坑の中には、人歯骨や副葬品が出土しないことから、積極的に墓坑といえない土坑が多数検出されている。形態は土坑墓と近似したものが多く、墓域の存続や形態について明確な成果をあげることは困難であった。

2）荒砥前田遺跡の調査成果

荒砥前田遺跡は、荒砥宮田遺跡の南30mに隣接する。5面の遺構確認面で下記のような中近世・中世・古代・古墳時代の遺構を検出した。

中近世では掘立柱建物5棟と井戸・土坑が検出された。特に掘立柱建物には、庇を設けた総柱建物2棟や複雑な柱配置をもつ建物、簡素な側柱建物が混在しており、建物変遷の把握が困難であった。中世初期の浅間B軽石直下ではアゼの一部と溝を検出した。天仁元(1108)年には水田化されていたと推定されるが、後世の屋敷造成で残らなかったのであろう。

古代の遺構は弘仁九(818)年の大地震に伴う洪水層を掘り込む畠と同じ洪水層の直下で水田を検出した。この畠は地震災害で埋まった水田の復旧として

第7表　土坑墓出土古銭の初鋳年代

遺構名	10世紀	11世紀	12世紀	13世紀	14世紀	15世紀	模鋳銭か
1区　99号土坑	太平通寳(976)	熙寧元寳(1069) 皇宋通寳(1038)				永楽通寳(1408)	
1区153号土坑					洪武通寳(1368)		
2区　27号土坑						永楽通寳(1408)4	
2区　31号土坑		皇宋通寳(1039)	大観通寳(1107)	嘉泰通寳(1201)		永楽通寳(1408)3	
2区　40号土坑		天祐通寳(1086) 天宝通寳(1078) 天聖元寳(1023)				永楽通寳(1408)2	洪武通寳
2区　41号土坑		天聖元寳(1023) 皇宋×寳(1039)					
2区　44号土坑			大観通寳(1107)				
2区　45号土坑		熙寧元寳(1068) 元祐通寳(1086) 治平元寳(1064)				永楽通寳(1408)	
2区　50号土坑		熙寧元寳(1068) 皇宋通寳(1039)			洪武通寳(1368)		
2区　53号土坑		景徳元寳(1004)	政和通寳(1111)			永楽通寳(1408)	
2区　61号土坑		天禧通寳(1017)	聖宋元寳(1101)			永楽通寳(1408)	
2区　62号土坑		治平元寳(1064) 皇宋通寳(1039) 元豊通寳(1078)	宣和通寳(1119)		洪武通寳(1368)	永楽通寳(1408)	
2区　63号土坑		景徳元寳(1004)				永楽通寳(1408)2	
2区　65号土坑						永楽通寳(1408)	

開発されたと考えられている。赤城山麓にはこの地震による洪水層で埋まった水田が多くの遺跡で検出されている。この洪水層は9世紀初頭段階での開発状況を明らかにする鍵層となっている。

古墳時代以前の遺構は少ないが、水田耕土の下位から前期および中期の土器が出土する溝を検出した。これらの溝は低地との間にある傾斜地の開田の時期を考える上で重要な遺構であるが、溝の機能に迫る広域なデータがとれていないことから、今後の課題としておきたい。

3）荒砥宮田遺跡と荒砥前田遺跡

荒砥宮田遺跡と荒砥前田遺跡は市道を挟み、同一の遺跡である。開発事業が異なるため発掘調査は別になったが、平安時代の田畑や中近世と考えられる屋敷群の連続する遺構面を確認することができた。

掘立柱建物からなる屋敷群は、荒砥宮田遺跡と荒砥前田遺跡にわたって展開しており(第168図)、建物の形態や主軸方位によって関連性のある建物群が想定される。詳細は本章－4に拠られたい。

屋敷群がつくられる以前、荒砥宮田遺跡1区南部と荒砥前田遺跡は生産域として土地利用されていた。浅間B軽石下の水田は残存状態が悪かったので全体像は明確にならなかったが、弘仁九(818)年の地震に伴う洪水層下の水田やその上層で確認された畠跡は荒砥宮田遺跡1区南部と荒砥宮田遺跡にかけて広がっていた。低地から台地に移る傾斜面の水田開発がこの時期には達成されていたと推定される。

この水田開発の開始は、荒砥宮田遺跡1区の台地部に展開する古墳時代集落との関連から古墳時代までさかのぼると見られるが、今回の調査では確認することができなかった。近年では、荒砥前田遺跡の西側には上武道路建設工事に伴って荒砥前田Ⅱ遺跡が調査され、同様の遺構面を確認している。荒砥前田Ⅱ遺跡の調査報告は先になるが、今回の調査成果と総合化することによってさらなる成果が期待できると思われる。

2．荒砥宮田遺跡・荒砥前田遺跡の洪水災害復旧について

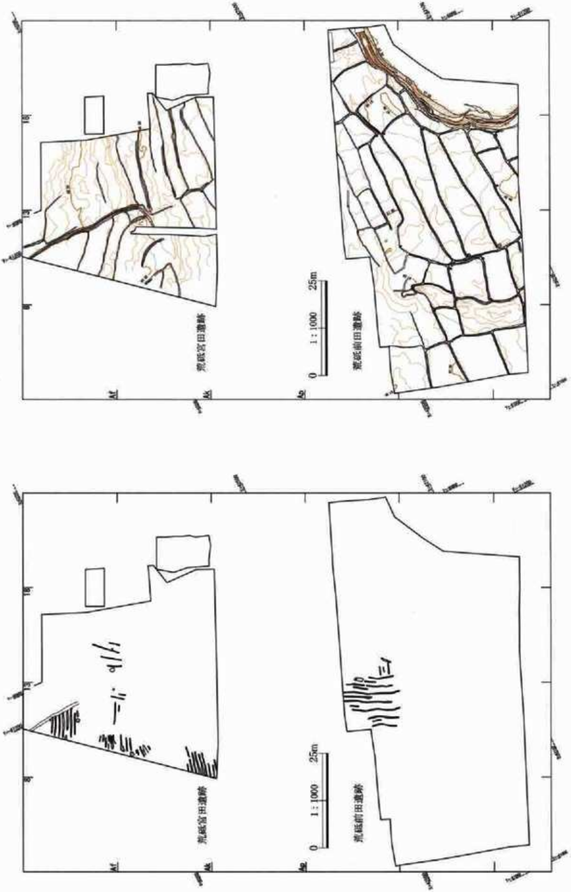
小島敦子

群馬県には500遺跡を越える水田遺跡と200遺跡を越える畠遺構を検出した遺跡がある[文献2]。これらの埋没層位の詳細な検討によって、農耕集落の生産域の実態解明にむけて各地で詳細な成果があげられている。このうち、新里村砂田遺跡の調査を中心とした、弘仁九(818)年の地震に伴う洪水(泥流)層を鍵層とした一連の広域調査は、赤城山南麓における9世紀初頭の水田開発の状況とその後の対応について多くを示唆している[文献1]。

荒砥宮田遺跡1区・荒砥前田遺跡で検出された洪水層下水田は、浅間B軽石層の下位にある、榛名山二ツ岳起源の軽石を含む土を耕作土としているという層位的共通性や、荒砥前田遺跡での出土遺物の時期から、この弘仁九(818)年の地震に伴う洪水(泥流)層に埋まった水田と考えられる。

この9世紀初頭の水田は東側台地裾を回る水路(荒砥前田遺跡5号溝)に加えて、北東部の台地上に掘られたと推定される水路(荒砥宮田遺跡1区洪水層下水路)によって灌漑されている傾斜地水田である。荒砥宮田遺跡1区洪水層下水路がいつ掘削されたのかは明確でないが、低地内の開発に加えて、新たな水田域拡大に向けて掘られた水路であろう。

荒砥宮田遺跡1区・荒砥前田遺跡で検出された洪水層下水田も新里村砂田遺跡や蕨沢遺跡と同様に、洪水被災後、土砂を除去するという復旧作業は行われてなかった。しかし、荒砥前田遺跡・荒砥宮田遺跡1区南部では洪水層の上位から耕作された畠跡を検出した。これらの畠跡は耕作面を被覆されていたものでないことから、厳密には耕作時期を限定できない。しかし砂層下位の黒色土まで畝間溝が及んでいることは、同様な砂層に埋まった畠の復旧がおこなわれている三ツ木皿沼遺跡例[文献3]と共通した畠耕作土の確保をねらった方法である。水田から畠へ転換することによって、洪水被災した耕作地を復旧したものと考えておきたい。



第166図　荒砥宮田・荒砥前田遺跡の古代の田畠

３．荒砥宮田遺跡出土の石塔類について

新倉明彦

荒砥宮田遺跡では石塔類および石製品が多数出土している。１区では溝や土坑、井戸から砥石、大型の敲き石・凹み石、粉挽き臼、石鉢等が出土し、２区では発掘区の脇や周溝墓の溝に片づけられたような状態で五輪塔・宝塔・異形板碑などの石塔類が出土した。これらの石製品および石塔類は遺構に伴う形での出土例は少ないが、１区居住域、２区墓域という土地利用を反映している。

石製品のうち凹み石は、赤城山南麓地域で出土例が増加している。これについては他遺跡の内容も再検討し、形態分類や用途解明が必要と考えられるが、今後の課題とする。ここでは特に石塔類の形式学的特徴をまとめ、今後の研究に資するところとしたい。

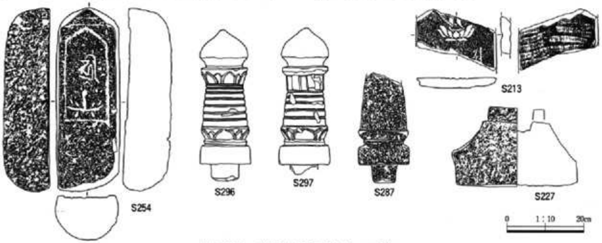
荒砥宮田遺跡で出土した石塔類は、五輪塔の空風輪20(１区５・２区15)、火輪13(１区３・２区10)、水輪４(１区１・２区３)、地輪５(１区２・２区３)、宝塔の屋蓋１(２区)、相輪３(１区１・２区２)、異形板碑１(２区)、板碑破片７(１区)を数える。

五輪塔は、上記のとおり、出土部位の比率は空風輪・火輪が多く、水輪及び地輪の出土量が少ない。この理由については、出土状況が溝や土坑内より廃棄された状態で出土していることから、不要品として扱われる中で、転用が可能な形状の水輪・地輪が除かれたものと推察される。形状の特徴としては、丁寧な成・整形による比較的大型の製品が多い。

宝塔は屋蓋部(S227)および相輪部(S296・297・287)が出土した。相輪については、宝篋印塔の可能性もあるが、遺跡の地域性から見て、赤城山南麓に分布する異形宝塔である赤城塔の相輪部と考えられる。良好な赤城塔は、荒砥宮田遺跡の南東2.25km程の二之宮赤城神社境内に現存する。

緑泥片岩製の板碑は１区の居住域から出土した。完形品の出土はなく、阿弥陀三尊種子板碑の主尊部破片(S213)および基部破片等で、いずれも紀年銘部を欠失する。また、異形板碑(S254)は、舟形石塔状の正面額部に線刻二条線を刻み、碑面に板碑状の線刻と内側に阿弥陀種子・異形蓮座を配す。この異形板碑の類例について、県内では前橋市東上野町上野神社隣庚申塚所在の無銘板碑、伊勢崎市波志江町新宿農業集落センター所在の明應二(1493)年七月廿八日銘の板碑等に僅かにみられ、特に前者は本遺跡出土板碑に酷似する。

荒砥宮田遺跡出土の石塔類は、前述のとおり、いずれも廃棄された状態での出土であるが、多数の重量物を遠地より搬入・廃棄したとは考えにくいことから、付近に墓域・供養域が存在したであろう事は疑いがなく、恐らくは土地利用の改変による墓域の一掃が行われたものと推察される。墓域の時期については、赤城塔や異形板碑の存在から、中世末から近世初頭頃と推定され、初現は少なくとも15世紀代に遡るものと考えられる。



第167図　荒砥宮田遺跡出土の石塔

4．荒砥宮田遺跡・荒砥前田遺跡・荒砥諏訪西遺跡の屋敷遺構について

飯森康広

1）　はじめに

3つの遺跡は、旧時に発掘調査された都合で、筆者は全く調査段階の状況を見ていない。その意味で建物認定に限界があることを、最初にお断りしておく。掘立柱建物跡の認定に当たっては、ピットのみを抽出した1／50の遺構図を用意してもらい、1マス1尺の方眼を重ねて、深さも配慮しながら抽出をおこなった。屋敷の検討は、建物の分析を中心に、主軸方位による分類に、形態的な特徴や桁行平均柱間の検討を加味しながら行った。

2）　荒砥宮田遺跡・荒砥前田遺跡の掘立柱建物跡群の検討

(1) 屋敷遺構の概要

遺跡は荒砥川の東岸に並行する微高地に所在し、調査地は南北長さ約250mに及び、建物群は全体に分布している。時期は周辺の溝等からの出土遺物や埋土及び確認面における浅間B軽石との関係から中近世に属する遺構と推測される。建物の分布は場所によって違いがあり、北端から南へ約50mは、43号溝や44号溝に区画された屋敷を形成するものと見られ、最も建物が集中し重複する区域である（溝内部）。更に南へ約80mまでは建物を含めた当該期の遺構が散在する区域である（散在部）。更に南端までの約12mでは建物が再び集中して分布する（南集中部）。荒砥前田遺跡も更に南へ約50m離れて、数棟の建物の重複が見られる（前田と略す）。以下、建物の分析はこうした分布に即して行うこととする。

(2) 主軸方位による分類（第6表）

主軸方位によって3つに分類できた。建物総数34棟の内、26棟はC群としたN－57～66.5°－W（南北棟は直交方向）に含まれる（約76%）。これは微高地の傾斜方向に沿うものであり、地形的な必然とも言える。他はC群よりも東西軸の振れが10°程少ないB群が4棟、逆に傾きが大きいA群4棟である。ただし、A群については数値にバラツキがあるとおり、その他のものを充てた側面があり、群としてのまとまりに欠ける。したがって、今回の検討で主体となるのはC群である。特に同じ軸方位を持つ溝によって囲まれた溝内部を、屋敷遺構として評価しながら、全体的な集落像を考えることとなる。A・B群は建物棟数が少ないため、個々の建物の検討に止まることとなる。

(3) C群の細分

C群の建物は溝内部で14棟、散在部で3棟、南集中部で4棟、前田で5棟である。このうち、散在部を除く3カ所で建物の重複関係があり、最低限2時期を想定し細分を行った。

溝内部では同時期の区画溝である44・72・73号溝との重複関係で、建物の類別が可能となる。重複関係は44号溝と12号建物、72号溝と14号建物、73号溝と9・10号建物に認められ、これらが同一条件下に一括できる。更には44号溝と重複する43号溝も、同一条件の区画溝となり、これに柱筋を合わせている17号建物を含める結果となる。また、12号建物の西側には柱筋をそろえる形で、11・13号建物があり同じ細分類に含められる。以上7棟の建物が区画溝との重複関係などから一括できたが、表8では他に8・15号建物も含めてある。その理由については位置的にC群との一括性があることに加え、桁行平均柱間が近似している点を挙げることができる（後述）。

溝内部で時期の違うものとしたC′群には5棟がある。このうち、前記C群の建物との重複関係から分けられるものに、17号建物に重なる16号建物、9号建物に重なる18号建物があり、後者は区画溝73号溝に対して適当な位置にある。残る6・7・19号建物については、前記C群以外という理由も大きいが、形態的な特徴によっても一括している（後述）。

南集中部の建物4棟は2棟ずつに細分された。27・30号建物は直接の重複関係にあり分別される。29号建物については、主軸方位がどちらかと言えば

30号建物に近く一括とした。27号建物には28号建物を充て、それぞれ次項以降の検討で理由を補足する。

前田では建物５棟全てがC群に属するが、３号建物に１・４号建物が重複することを踏まえ、建物構造などを考慮して３時期の細分を行った。

(4) 桁行平均柱間からの分析

筆者は桁行平均柱間（身舎の桁行を柱間数で割り返した数値）を中世掘立柱建物の建築基準数値と考えており、その違いに時期差や機能差、所有の違いなどを想定している（註１）。特に重複する建物が多く、建物変遷が推定し難い場合には、桁行平均柱間による分類が有効と考えている。

溝内部Ｃ群では、桁行平均柱間①1.730～1.788m（5.71～5.90尺）の８・12・15・17号建物の４棟と、②1.820～1.993m（6.01～6.58尺）の９～11・13・14号建物の５棟とに、僅差だが分けることができる。建物の分布を見ると②が中央にあり、①がその縁辺に位置する。建物規模は大小様々であり、南北棟・東西棟が混在する。したがって、桁行平均柱間の違いは機能差ではなく、時期差か建築施工者の違いによる可能性が高い。②が先行し、その後①が付加されたものと考える。

溝内部C′群では、桁行平均柱間①1.907～1.987m（6.29～6.56尺）の６・７号建物と、②2.110～2.218m（6.96～7.32尺）の16・19号建物と、更に桁行平均柱間が大きい18号建物に分けられる。ただし、18号

第８表　荒砥宮田・荒砥前田遺跡掘立柱建物の柱間計測表

位置	分類	NO	主軸方位		直交方向	面積	桁行1	桁行2	桁行平均	桁行平均	梁間1	梁間2	梁間平均	梁間平均		建物重複	溝重複	
溝内部	A	1	N−19°−W			23.64			7.0	1.750	3.35		3.35	1.675		4·7		
		2	N−36°−W			51.13	8.22		8.22	2.055	3.81		3.81	1.905		11·12		
		3	N−40°−W			30.75	6.46	6.38	6.420	2.140	5.05	4.67	4.860	2.430		8		
	B	4	N−86°−W			11.42	3.70	3.65	3.675	1.838	2.96	2.90	2.930	−		1·7		
		5	N−72°−W			34.60	7.18	6.95	7.065	1.766	4.55	4.42	4.485	2.243		6		
	C	8		N−27°−E	63	37.87	8.82	8.48	8.650	1.730	4.10	4.06	4.080	2.040	桁側５間で計算	3		
		9	N−64°−W			19.27	5.98		5.98	1.993	3.18		3.18	1.590		18	73	
		10	N−63°−W			18.70	5.58	5.56	5.570	1.857	3.38	3.20	3.290	−			73	
		11	N−62.5°−W			40.65	5.46		5.46	1.820	4.80		4.80	2.400		2		
		12		N−26.5°−E	63.5	24.99	7.42	6.88	7.150	1.788	3.34	3.18	3.260	−	桁側４間で計算	2	44	
		13	N−61.5°−W				(3.48)		−	(1.92)	4.74		4.74	2.370				
		14		N−28°−E	62	23.88	6.00	5.88	5.940	1.980	3.94	3.85	3.895	1.948			72	
		15		N−29°−E	61	8.76	3.62	3.45	3.536	1.768	2.52	2.50	2.510	−				
		17		N−30~36°	54~	31.39	7.40	6.90	7.150	1.788	4.56	3.83	4.195	2.098		16		
	C′	6	N−65°−W			74.76	11.66	11.16	11.41	1.907	6.40	6.22	6.310	1.803	桁側3.5間で計算	5		
		7	N−66.5°−W			21.14	5.97	5.95	5.960	1.987	3.69	3.44	3.565	1.783		1·4		総柱
		16	N−59°−W			14.55	4.52	4.35	4.435	2.218	3.54	3.35	3.520	−		17		
		18	N−61°−W			27.79	5.41	5.10	5.255	2.628	4.75	4.35	4.55	2.275		9		
		19		N−26°−E	64	27.74	8.44		8.44	2.110	3.18	2.92	3.050	1.525	桁側４間で計算			
散在部	A	20	N−50°−W			24.63	5.62	5.40	5.510	1.837	4.43	4.22	4.325	2.163				
	C	21	N−64°−W			26.14	6.20		6.20	2.067			4.18	2.090				総柱
		25		N−26°−E	64	9.15	3.82	3.71		3.765	2.40	2.16		2.280				
		26	N−64°−W			12.46	3.90	3.90	3.900	1.950	3.14	3.08	3.110	1.555				
南集中部	B	23	N−72.5°−W			26.45	7.08	6.98	7.030	2.343	3.79	3.76	3.775	1.888				
		24	N−72°−W			19.62	5.12	4.54	4.830	2.415	4.22	3.85	4.035	2.018		27		
	C	29	N−59°−W			30.97	7.80		7.80	2.600	3.98		3.98	1.990				
		30	N−62°−W			12.39	4.14	3.86	4.000	2.000	3.16	3.13	3.145	1.563		27		
	C′	27	N−63°−W			76.04	12.85		12.85	2.142	4.87		4.87	2.435		24·30		
		28	N−66°−W				7.62		7.62	1.524					桁側５間で計算			
前田	C	1		N−24°−E	66	63.51	6.52	6.45	6.485	2.161	4.20	4.11	4.155	2.078		3		総柱
		2	N−65°−W			119.32	14.48	14.50	14.490	2.070	6.42	6.30	6.360	2.120				総柱
	C′	3		N−23°−E	67	88.12	14.24	14.17	14.205	2.029	5.18	4.84	5.010	2.004		1·4		
	C″	4	N−57°−W			22.74	6.40	6.32	6.360	2.120	3.70	3.56	3.630	1.815		3		
		5		N−22~26°	64~	18.62	5.22	5.12	5.170	1.723	3.95	3.36	3.655	1.828				

建物は棟方向が捉えにくい建物であり、梁間平均柱間とした2.275m（7.51尺）が②と数値的に近似する。そこで、こちらを採用して桁行平均柱間は②に属すると考える。①と②の所在位置は、南北に分かれ、しかも72・73号溝によって南北に分断される。この場合、桁行平均柱間の違いは、時期差でも所有差や機能差でも良い事例であり断じることはできず、全てに該当しても構わないと考える。

参考に溝内部A群は桁行平均柱間①1.750m（5.78尺）が1棟、②2.055～2.140m（6.78～7.06尺）2棟に分かれるが、元来両者は主軸方位に違いがある。溝内部B群は1.766～1.838m（5.83～6.07尺）の2棟である。総体的に溝内部では桁行平均柱間約6～7尺を使用する傾向が読みとれる。

散在部A群の桁行平均柱間は1.837m（6.06尺）1棟、散在部C群は1.950～2.067m（6.44～6.82尺）で、25号建物は1×1間構造と特異であり、梁間平均柱間2.280m（7.52尺）の方が数値的に近似する。総体的に溝内部と同様な数値を見ることができる。

南集中部B群の桁行平均柱間は、2.343～2.415m（7.73～7.97尺）で、この遺跡内で最も大きな8尺近い数値を持つ一群となる。

南集中部C群2棟の桁行平均柱間は異なる。しかし、29号建物の梁間平均柱間は近似する数値を持っている。この場合、29号建物の認定自体に問題がある可能性を示す。この建物は東西棟でなく、東側1間分だけの南北棟で、北側柱筋に合わせて西に付属する柱を延ばした形態かもしれない。建物の認定では、柱配置から最も可能性の高い構成を採用しているが、桁行平均柱間を見ることで、建物認定自体を補正できることも、この検討の一つの効果である。したがって、C群の桁行平均柱間は1.990～2.000m（6.57～6.60尺）にまとめられる。

南集中部C′群2棟の桁行平均柱間は異なる。27号建物は2.142m（7.07尺）で、遺跡総体の傾向に等しい。28号建物は1.524m（5.03尺）とかなり小さい。この建物の南側は未調査であり、不測の要素が多い。しかし、柱数も多く個々の柱間もばらついており、こうした変則的な構造を持つ建物も可能性として無視できないので、参考事例として評価しておく。

前田C群の建物は、他の建物群と大きく違っている。一つには整った総柱構造を持っており、他と別様式で時期的な違いを示すと言える。次いで面積については、2号建物が119.32㎡、1号建物が63.51㎡であり、大きさから一般的な住宅とは見なしにくいだろう。桁行平均柱間は1号建物が2.161m（7.13尺）、2号建物が2.070m（6.87尺）で若干違うが、ほぼ7尺前後でまとめられる。なお、梁間平均柱間もほぼ同じ数値を持つことも注目しておく。

前田C′群の建物は、C群と建物形態を全く異にする。建築時期はかなり開きがあるものと感じる。2号建物の桁行平均柱間は2.029m（6.70尺）で、C群と近似する。また、梁間平均柱間と桁行平均柱間の数字もほぼ等しくなっている。

前田C″群は他の群に比して簡便な建物であり、面積は2棟とも20㎡前後で、柱筋の通りも悪く、別系統に属する建物と見なされる。桁行平均柱間は4号建物が2.120m（7.00尺）、5号建物が1.723m（5.69尺）と荒砥宮田遺跡の傾向に等しい。両建物の桁行平均柱間の違いは、時期差・所有差・機能差のいずれかか、全てに該当しても良い。

以上、桁行平均柱間について、主軸方位別分類をもとに、分布地域毎に検討した。数値としては、約8尺を使用する南集中部B群2棟が特異な事例で、全体としては6尺前後と7尺前後の数値を、時期的な違いや所有関係・機能的な違い等によって、微妙に変化させ使用する傾向を読みとることができた。

(5)形態的な特徴

溝内部A群3棟は、全て梁間2間の側柱構造である。最も大きい2号建物は北と東に庇を設け、面積は51.13㎡と大きい。梁間は5m近い規模を持つ。

溝内部B群2棟は共に側柱構造で、大きい方の5号建物は北に幅の狭い庇を持ち、面積は34.60㎡、梁間も約4.5mを測る。4号建物は小型で、梁間1間構造を持っている。

溝内部Ｃ群９棟は全て側柱構造だが、このうち３棟は梁間１間構造を持ち、いずれも付属的な建物に属する。最も大きな11号建物は北・東・南に庇を設け、面積は40.65㎡、梁間は５ｍに近い。加えて東に隣接する12号建物は柱筋をそろえ、約70㎝しか離れておらず、屋根をふさぐことで一体の建物となる。結果として、平面形は曲屋的な形態となり、面積も70㎡に近い中心的な建物として評価できる。もっとも、前項でみたとおり、桁行平均柱間の分析から12号建物は後出のものとして、11号建物に付加された可能性を持っている。また、８号建物は桁行8.5ｍを越える群内で最長の建物である。75号溝との重複による消滅を考慮すれば、元来柱数が多く、柱間の狭い構造を持つ可能性がある。規格性に乏しいため、あまり程度の良い建物ではないだろう。

溝内部Ｃ′群は多様な建物で構成されている。側柱構造は16号建物１棟のみである。７号建物は小さいが整った総柱構造を持っている。18号建物についても総柱構造に似た東西棟と考えたが、桁行平均柱間から考えると、むしろ南北棟の西側に広い庇を懸けた可能性もある。６号建物は面積74.76㎡と大きく、複雑な柱配置を持つ。柱穴が多い点については、他に重複する建物が想定されないため、建物内部に含まれる柱穴の殆どを抽出した結果による。内部はやや整って間仕切りされており、民家建築で言うところの「三間取り」を思わせる。東から２間目を境にして、東が土間で、西が床張りだろうか。南辺から一つ内側に桁方向に柱穴が並んでおり、入側柱を思わせる。梁間は3.5間規模を持ち、進んだ建築構造を持つものと言える。19号建物も小規模だが、桁行8.44ｍと長大で、間仕切りが多い点で６号建物と共通する。Ｃ′群の建物は、72・73号溝を境にして南北で建物構造が違っており、北側が程度の良い構造を持つ。

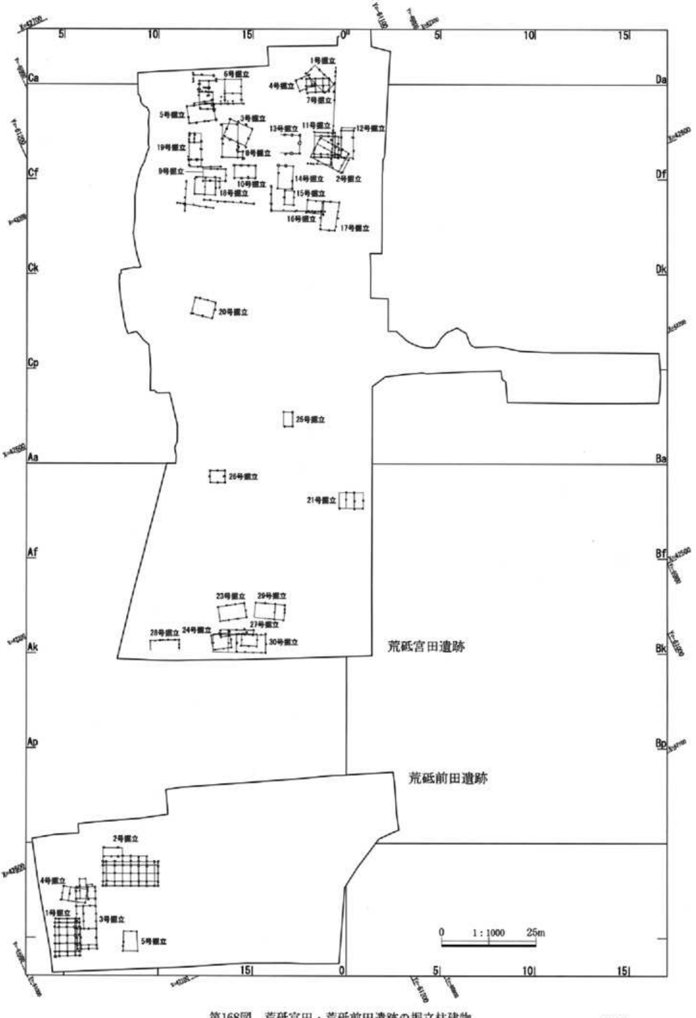
散在部は元来一括性を持たないが、全体に小規模である。側柱構造が２棟(20・26号建物)で、21号建物は欠損が多いが総柱構造と見られる。25号建物は１×１間構造で最も簡素な造りである。こうした建物は少なからず存在すると考えるが、柱数が少ない面で逆に認定が難しく事例が少ない。本事例は井戸が近接し、他に結びつく柱穴もないという好条件にあったため、認定を行った。機能的には作業小屋なども考えられるが、住居と考えても問題はないだろう。

南集中部Ｂ群２棟は共に側柱構造で、23号建物が桁行３間、24号建物が桁行２間で、ひとまとまりの建物と評価できる。Ｃ群の２棟も規模・配置ともにＢ群に似ており、連続性を見たいが、桁行平均柱間で検討したとおり、29号建物の認定には問題があり、小規模な南北棟と見るのが有効と考える。Ｃ′群27号建物は特異な構造を持つ。桁行は長大で12.85ｍを測り、荒砥宮田遺跡の最長である。中央部に柱が２対並ぶのも、間仕切りであると共に、２つの棟を中央でつないでいる印象が強い。その点で溝内部Ｃ′群の間仕切りの多いものとは違う構造と考えられる。28号建物は桁行平均柱間でも見たとおり、柱数が多く柱間が狭い変則的な建物である可能性がある。

前田Ｃ群の建物２棟は、整った総柱構造で共に４面に庇を廻らせている。特に２号建物は北側に孫庇を付けた上に、北西端を更に張り出しており、中門廊風な平面形となっている。面積は２号建物が119.32㎡、１号建物が63.51㎡と大きく、一般的な住宅と見なしにくい。

前田Ｃ′群３号建物は複雑な構造を持つ。桁行14.24ｍと長大で、面積も88.12㎡を測る。内部に柱穴も多いが、間仕切りを思わせるものは少なく、構造柱が多いと考える。こうした柱配置を持つ建物の上屋構造は判断しにくいが、南北両端２間部分は梁間２間の西に庇を付けた形態であり、比較すると中央部３間部分も梁間を短くして西辺側柱を設け、西側に庇を付けた構造と考えられる。このように考えると、柱配置は異なるが、建物構造は南集中部27号建物に近く、長大な棟を支える構造として採用されたと考える。

前田Ｃ″群の建物２棟は群内他の建物に比して、余りに小さく貧弱である。共に側柱構造を採るが、５



第168図　荒砥宮田・荒砥前田遺跡の掘立柱建物

号建物は平面形台形を呈しており、柱数・柱間も変則的な構造を持つ。

⑹ 建物の変遷案

溝内部では遺跡内で最も進んだ建築構造を持つと見られるC′群が最新であり、溝により細かく区画された屋敷を形成している。ただし、C′群は溝との相関関係から更に２時期に細分され、Ｂ群との関係も想定される（後述）。それは６号建物が傑出した建物で、区画屋敷としての連続性の中では特異な点であることに拠っている。この変化が、短期間に形成されたものか、長期的な断絶に伴うものかは判断することができない。また、区画の細分はされていないが、同じ区画意識を持つ屋敷としてＣ群が、それに先行するものと考える。残るＡ群はＣ・C′群の区画屋敷を意識していない点で、区画屋敷に先行するものと考える。

屋敷の時期としては、出土遺物の年代観から14・15世紀にピークがあり、16世紀は少なく17世紀以降も少数ながら連続する。建物変遷を考慮すれば、Ｃ群以降の区画屋敷は14・15世紀代に所属し、廃絶後に６号建物などが造られたのだろう。その時期はたぶん江戸期ではないだろうか。

散在部Ａ・Ｃ群の新旧関係は不明である。主軸方位を基準にすれば、Ｃ群は溝内部Ｃ・C′群と同時代となる可能性を持っており、形態的にも問題はない。

南集中部の建物変遷は把握できない。C′群が最も複雑な建物形態を持つが、それは時期差である可能性以上に、規模の違いに左右される状況にある。ただし、C′群に限れば、並立する２つの棟を結びつけていく建物形態を持つ点で、溝内部Ｃ群に時期的な近さを感じる。

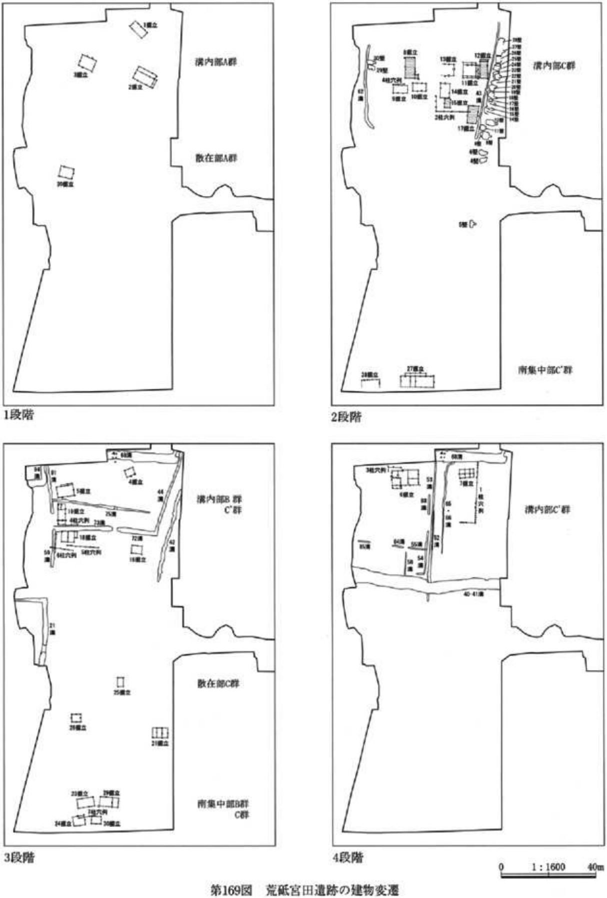
前田遺跡では、簡素な建物であるC″群を変遷の中に位置づけることは難しい。C′群は南集中部C′群と近似した建物構造を持っており、時期的に近い可能性がある。前田Ｃ群は総柱構造を持つ大型建物である点で、中世でも古い段階を思わせる（註２）。この点については事例の増加を待って、いずれ検討の機会を持ちたいと考えている。

建物変遷は分布地域ごとの時間軸を持つが、注目すべきは建物形態から南集中部C′群と前田C′群が近似することである。共存関係にあるとすれば、大規模な建物が比較的近くに点在する景観を復元できることになる。

⑺建物配置などの検討

繰り返しとなるが、数量的な問題でひとまとまりの建物として検討できるのはＣ群のみに止まる。溝内部の建物群はＣ群からC′群へと変遷をたどれる区画屋敷として位置づけられる。規模は約50ｍ四方で、南側が狭くなる逆台形を呈する。Ｃ群を区画するのは、相対的な位置関係から、東が43号溝、西が62号溝である。他にＣ群に伴う施設として２号柱穴列が想定される。井戸についても、建物周辺に点在するものの中に共伴するものがあるにちがいないが、特定することはできない。Ｃ群は９棟の建物で構成されるが、桁行平均柱間の検討から８・12・15・17号建物の４棟は、縁辺に後から付加された建物であると考える。建物群は区画内中央部に集中するが、２号柱穴列の存在からも窺えるとおり、16ラインを境として東西に細分される。両者の位置付けが、主従関係によるのか、所有関係の違いか、機能差なのかを判断することはできない。建物構成から東側が優越していると看取できる。中心的な建物は11号建物であり、12号建物を加えて70㎡近い規模を持つ。建物６棟は区画溝側に開くコの字形に配置されており、東西約15ｍ南北約10ｍ規模を持つ閉鎖性の強い庭的な空間を形成している。また、13号建物と14号建物との間にある空き空間が通路と考えられ、西側の建物群まで通されていることも注目である。

溝内部C′群を区画するのは、相対的な位置関係から北は68号溝、東は44号溝、更に外側に42号溝、南は72・73号溝、西は59・91号溝であると言える。68号溝中に掛けられた１号橋脚も共伴である。



第169図　荒砥宮田遺跡の建物変遷

他にＣ′群に伴う施設として５・６号柱穴列が想定される。井戸もＣ群同様、特定できないが建物周辺に点在するものの中に共伴するものがあるだろう。屋敷地はＣ群とほぼ同じ規模で、溝によって区画される共通性を持つが、中央部を溝によって北側約30ｍと南側約20ｍに細分される。中央部南北には通路が想定され、72・73号溝の間に開けた土橋を通り、北端で68号溝中の１号橋脚を渡るものと言える。通路はそのまま北上して、真っ直ぐ現赤城神社へ向かっている。参道である可能性も視野に入れておく必要がある。なお、72・73号溝と並行する北側に75号溝があり、同じく通路に対して土橋を設けている。両者は一連性の高い溝であるが、75号溝と91号溝の重複から、72・73号溝とも時期差を想定する。

Ｃ′群の建物は５棟だが、区画溝との相対的な関係と建物構造から、６・７号建物を別の時期と考えたい。この２棟は１号橋脚から延びる通路に対して、側溝状に続く小規模な51～53・65・66号溝と、それに直交する86号溝や１号柱穴列によって区画される小規模な屋敷地であると、本報告者による溝の分類（第４章）に触発され想定した。６号建物は建築構造から最新段階に位置づけられる。周辺にある65・66号井戸からは、17～18世紀段階の陶磁器が出土しており、建物時期を示す可能性がある。なお、７号建物は総柱構造で、東側を長大な１号柱穴列で囲まれている点などから、倉庫的な機能を持つ建物と考えたい。

さて、Ｃ′群の16・18・19号建物は、区画溝や通路によって４つの区域に区分される。このうち、19号建物はＣ′群中唯一の南北棟で、他の建物に対して不自然さを持っている。可能性として、別時期の区画溝である75号溝との関係も想定されるが、６号建物との関連も考えられ、位置付けが不安定な建物である。また、91号溝の走向方位を考慮するとき、Ｂ群の建物もこのＣ′群の建物群と同時期である可能性が浮上してくる。４号建物はやや不自然だが、５号建物との関連で同時期である可能性を残す。この時期の屋敷構造は４つの区域に分散する点で、所有関係まで細分された印象を受ける。Ｃ群からＣ′群への変化は、屋敷地自体の質的な変化を伴うもので、有力屋敷から分割された集落への転換を示すものと言える。16世紀代出土遺物の減少も、この変化を物語る証左となる。

散在部Ｃ群は文字通り散在しており、溝などによる区画分けはないが、溝内部Ｃ′群に通じるものがある。16ライン付近に同じく東西を区分する意識、通路などの存在を想定することができる。この方向性は北方に所在する溝内部建物群＝区画屋敷あるいは現赤城神社を指向するものであると言えるだろう。

(8)その他注目される遺構

溝内部の42・44号溝に挟まれた幅４ｍ程の空間に、20基近い竪穴状遺構（地下式土坑）が、南北に連なって作られている。入り口は全て東側に開いており、溝内部建物群に付随するものとは思えない。調査者によれば、溝内部の東側には一段低い微高地があり、調査区域外であったが、この竪穴状遺構に対応する集落が存在する可能性があるという。これらの竪穴状遺構は20号土坑の新旧関係から、42号溝に前出するものと見られ、43号溝と重複していない点からも、溝内部Ｃ群段階に共伴する可能性が高い。竪穴状遺構からの出土遺物は比較的多く、本屋敷の年代観を決定づける。18号竪穴では内耳鍋が多く、通例は墓と推測される地下式壙とは明らかな機能差を持っている（註３）。なお、これら出土遺物に江戸期以降の遺物を含む竪穴状遺構も見られるが、重複する42号溝からの混入も想定される。出土状況が判然としない現時点では憶測にすぎないが、可能性は高いだろう。ところで、溝内部でも同様な竪穴状遺構が、62号溝に沿って２基存在している。建物群とは距離があり関係は推し量れないが、東側に比べて明らかに少ないことだけは確かである。

土坑と建物の位置関係について、溝内部で注目すべき点がもう一つある。Ｃ群の東側建物群周辺では、15号建物周辺を除いて殆ど土坑の分布が見られない。対してＣ′群では16号建物を除く４棟の周辺

に土坑が多い。特に18・19号建物周辺は多く、他に重複する建物もないことから、関連性が高いと考える。一方、溝内部全体で考えれば、土坑が西半分に多いことにもなる。C群に伴う土坑も、この辺りに集中的に営まれていたことも想定される。

3）　荒砥諏訪西遺跡の掘立柱建物跡群の検討

(1) 屋敷遺構の概要

遺跡は荒砥川の東岸に並行する微高地に所在し、東西に細長く入り込んだ沖積低地は調査区南端で一度合流し、南に隣接する荒砥宮田遺跡の載る微高地と分断している。この微高地の南端に位置する２区では、約40m四方の規模を持つ区画屋敷が発見された。屋敷内では掘立柱建物13棟が調査され、重複が多いことから長期的な存続が想定される。建物の時期を直接示す遺物はないが、内部の土坑からは14世紀後半から15世紀代の遺物が出土している。

(2) 主軸方位のよる分類

主軸方位の違いにより、４つに分類できた(註４)。①N－65～76.5°－W(南北棟は直交方向)を持つａ群が７棟、②東西の振れの少ないN－81.5～85°－Wを持つｂ群が４棟(６号建物は方位に幅を持つ)、③一方で傾きが大きいN－45～48°－Eのｃ群が２棟、④東西軸に対して南西に振れるN－84°－Eのｄ群が１棟である。なお、溝外の４号建物は一応ｂ群に含む。このうち、ａ群は３つに細分される。

それぞれに主要な建物である１・２号建物と５号建物と７号建物は重複しており、ａ・ａ′・ａ″群に分かれる。しかも、東側に所在する３・８・12号建物も重複しており、細分に当てはまる。このうちａ′群の７・８号建物は桁行平均柱間が一致しており（後述）分別される。残る５棟では、相対的な位置関係と形態的な類似点からａ・ａ″群を分別した。

(3) 桁行平均柱間からの分析

区画屋敷内建物の桁行平均柱間は、①2.408～2.510m(7.95～8.28尺)４棟と、②1.920～2.003m(6.34～6.61尺)４棟、③1.731～1.767m(5.71～5.83尺)３棟、④1.300～1.350m(4.29～4.46尺)３棟、以上４つの数値に分かれる。以下、主軸方位別にその傾向を見る。

ａ群は桁行平均柱間①約８尺が１・12号建物の２棟、②約6.5尺が２号建物１棟のみで構成される。１・２号建物は近接しており、屋根の間を塞ぐことで１つの建物として機能できる。桁行平均柱間の違いを時間的な違いと受け止めれば、２号建物に対して１号建物が後から付加された建物であると想定される。そうすれば、12号建物も１号建物の築造に前後する時期に作られた位置付けとなる。

ａ′群２棟の桁行平均柱間は、ともに②約6.5尺であるが、８号建物に関しては柱数が多く、建物構造からは区別して考えておく必要がある。ａ群の１棟と数値が同じことも注目される。

第９表　荒砥諏訪西遺跡堀立柱建物の柱間計測表

					直交方向	面積	桁行1	桁行2	桁行平均	桁行平均柱間	梁間1	梁間2	梁間平均	梁間平均柱間		重複関係
溝内	a	1	N－72°－W		18	44.05	7.62	7.44	7.530	2.510	4.55	4.50	4.525	2.263		5・7・9
		2	N－75°－W		15	72.08	9.96	10.07	10.02	2.003	6.60	6.55	6.575	2.192		5・7
		12		N－20°－E	西棟	61.73	7.47	7.28	7.375	2.458	3.58	3.36	3.47	－		3
					東棟		6.8		6.80	2.267	3.70		3.70	－		
	a′	7	N－70°－W		20	77.07	9.84	9.91	9.875	1.975	4.29	4.33	4.310	－		1・2・5・9
		8	N－65°－W		25	9.79	3.82	4.03	3.925	1.963	2.23	2.36	2.295	－	桁側2間で計算	3
	a″	3		N－14.5°－E		53.09	7.05	7.40	7.225	2.408	3.75	3.80	3.775	1.888		8・12
		5		N－13.5°－E		67.07	9.91	9.77	9.840	2.460	4.30	4.23	4.265	－		1・2・7
	b	6	N－76～82°－W		8～14	24.24	6.90	6.95	6.925	1.731	3.56	2.85	3.205	－	桁側4間で計算	
		9	N－81°－W		9	16.25	3.92	4.18	4.050	1.350	2.54	2.49	2.515	－	桁側3間で計算	1・7
		10		N－5°－E		50.38	5.76		5.76	1.920	3.34		3.34	－	南北棟として	14
		11	N－88°－W		2	49.30	12.37	12.08	12.23	1.746	2.97	2.50	2.735	1.368		14
	c	13	N－45°－W		45	22.82	5.30		5.30	1.767	3.91		3.91	－		
		14		N－48°－E		33.96	3.98	4.09	4.035	1.345	3.00	3.05	3.025		桁側3間で計算	10・11
	d	15		N－84°－E		17.10	5.12	5.28	5.200	1.300	3.24	2.67	2.955	－	桁側4間で計算	
溝外	b	4	N－80°－W		10	19.74	4.68	4.52	4.600	1.533	2.02	2.20	2.110	－	区画外。桁側柱変則	

a″群の桁行平均柱間も、a群の1棟と同様、2棟ともに①約8尺の数値が得られる。

b群建物の桁行平均柱間は3つに分かれる。②約6.5尺が10号建物のみ、③6尺弱が6・11号建物の2棟、④約4.5尺が9号建物のみである。ただし、10号建物は構造の判断が難しく、小規模ながらも梁間3間構造を持つ東西棟とも思える。南北棟であったとしても、どちらも側柱の数量が少ない点で疑問が残る。東西棟とすれば、安易だが桁行平均柱間は④に近い数値になる。10号建物を除外して考えると、a群とb・c・d群は桁行平均柱間に関して、①・②の数値を持つ前者と、③・④の数値で構成される後者とに明確に分かれることとなる。両者の違いは形態的な面でも現れており、屋敷の性格的な変化を窺うことができる。なお、b群内における2つの桁行平均柱間の存在は、建物の時期的な違いや機能的な違いによるものと考える。

c群建物の桁行平均柱間はb群の構成と全く同じであり、d群も1棟であるが桁行平均柱間④に属し、b・c群の系統に属する。

(4) 形態的な特徴

a群の2号建物は梁間3間構造の平面形を持つ。報告書段階では南西角から2本目・5本目、北東角から3本目の柱穴を認定から落としてしまった(註5)。ただし、南東角から2本目は確認できない。予察では並行する東西棟2棟の屋根を繋いだ構造という上屋構造を想定したが、梁間3間の南北棟とするのが自然だった。しかし、12号建物は側柱の数量から東西棟とは見なし難く、南北棟2棟が並行する間を塞いだ建物であると考える。同様な平面形を持ちながら、こうした柱配置もあるので、若干だが梁間3間の南北棟でない可能性も残る。中央に2列並ぶ柱列も間仕切りというより構造柱に見えて、余分な気がする。なお、桁行平均柱間から想定したとおり、1号建物は2号建物に付加された建物と考えられ、南側に東西棟を繋げ、面積は合わせて100㎡を越える規模となっている。

a′群の主屋7号建物は面積77.07㎡とa群の2号建物とほぼ等しいが、ここでは梁間1間の身舎の南側に広庇・孫庇を付けていて、屋根構造としてはあまり大きな小屋組ではないと思える。8号建物は7号建物と等しい桁行平均柱間を持つが、柱数は倍であり、見かけは桁行平均柱間も半分に見える。ここでは、同じ桁行平均柱間を基準尺としながら、柱数を増やして柱間を短くした構造と見なすことができる。こうした構造は簡素なものに多い印象を持っている。

a″群の2棟は似た構造であり、梁側に庇を広く、多く付けることによって面積を広げている。特に3号建物は南北棟だが、庇を付けることで東西に長い建物となっている。南側に開けた庭空間からしても、この建物は南を正面にするものと考える。

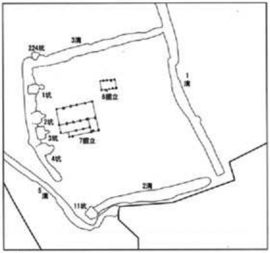
b群の建物は構造として多様な面がある。概して間仕切りが多い。6号建物は柱の通りが悪く、平面台形を呈する。11号建物は桁行約12mの長大なもので、中央西よりの間仕切りは長い棟を支えるため、設置された観がある。10号建物も柱の通りが悪い。柱数が少ないため、南北棟と考えた。面積は50.38㎡とやや大きいが、建物の仕様としては簡素な印象が強い。

c群の建物は他の群に比べてかなり規模が小さい。2棟の内、面積的には14号建物の方が大きいが、柱数が多く柱間の狭い構造であり、良い仕様の建物とは思えない。13号建物は面積的に劣るが、梁間3.91mの1間構造でしっかりした柱構造を想定させる。一方を主屋と考えれば、こちらが該当するものと言える。

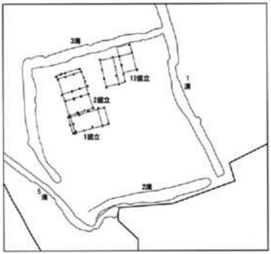
d群の建物は1棟で特徴的なものではない。6号溝ほか他の遺構との重複も多いことから、本来もう少し柱数が多かったことも想像され、あるいはd群の14号建物のような柱数の多い建物であった可能性もある。

(5)建物の変遷案

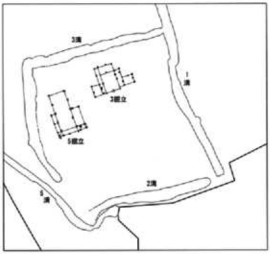
区画溝は性格上、外側を囲む1・2・3・5号溝



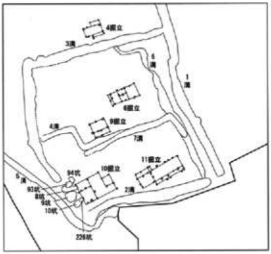
a' 群



a群



a"群



b群

c･d群

0　1：1000　25m

第170図　荒砥諏訪西遺跡の建物変遷

と、内部を分割する４・６・７号溝に分けられる。深さにおいても、前者が深く後者が浅い点で、機能に相応する形状を持つ。建物との関係では、ａ・ａ′・ａ″・ｃ群の建物群と４号溝が重複する関係にあり、４号溝の走向に合わせた配置を持つのが唯一ｂ群の建物群である。建物の形態から見ると、ｂ群の11号建物が桁行長大で、他の建物も間仕切りが多いという特徴を持っており、庇を多用して面積を広げるａ・ａ′・ａ″群よりも新しさを感じる。もし、３時期の変遷を持つａ群などより前出とすると不自然な観がある。４号溝などにより分割された状況をａ群より前出とするならば、ａ群などの主要建物周辺に埋没する４・７号溝は相当な沈み込みが想像され、埋土上層に人為的な土の充填が数回は行われているはずで、少なくとも埋土は全体にかなり締まっているはずである。したがって、区画屋敷の分割は後出として、ｂ群も後出としたいと考える。前述のとおり、ａ・ａ′・ａ″群とｂ群との間には屋敷の性格上の変化が想定でき、居住者がより零細化したものと考える。なお、ｃ・ｄ群については、区画溝と重複する点でｂ群とは状況が異なり、主軸方位も区画溝を意識したものではないなど、同一系統で論じることはできないが、桁行平均柱間がほぼ同じ構成であることや、建物形態が近似するなどの要素を踏まえ、ｂ群以降の出現を想定しておく。

ａ・ａ′・ａ″群の建物については、一連の遺構であるとして問題ないと言える。この場合、主軸方位の分類からａ・ａ′・ａ″群が前後して連続することも確実だろう。問題は順序になるが、桁行平均柱間で一つの方向が窺える。ａ群では約6.5尺の２号建物に、約８尺の１・12号建物が付加されたものと考えた。この桁行平均柱間数値の推移をそのまま変遷として捉えれば、約6.5尺２棟で構成されるａ′群を引き継いでａ群が形成され、新たに桁行平均柱間約８尺を採用した傾向は、ａ″群へと引き継がれたものと解釈できる。可能性の域を脱しないが、根拠を持った一つの推論として提示しておく。なお、この場合、桁行平均柱間がひとつの建物群を越えて引き継がれていく状況を示しており、情報として基準尺が引き継がれた以上に、廃材の再利用など物質的な存続があると考える(註６)。つまり、ａ′群７号建物→ａ群２号建物→ａ″群５号建物と桁行がつながること。ａ群１・12号建物→ａ″群５号建物も桁行が引き継がれていることに、物質的な継続性を見ることができる。

報告書まとめに、本屋敷は14・15世紀の所産とあるが、区画内の土坑・井戸などの出土遺物の状況から妥当な結論である。建物変遷もこの時期が有力となる。

(6) 建物配置などの検討

前項の変遷案に即して、配置を捉えれば、約40ｍ四方の規模を持つ屋敷の中央西寄りに、ａ′群では大型の主屋１棟が配置されていたが、ａ群では北東に主屋と同等の規模を持つ建物が１棟加えられる。ａ″群でもこの２棟による構成は変わらない。この場合、中央の空き空間をＬ字形に囲い込む建物配置となるが、全体として建物の数量は少なく、空き空間が多いのがこの屋敷の特徴と言える。

ｂ群では４・７号溝によって屋敷が南北に分割される。建物は南北それぞれ２棟ずつとなり、結果的に建物が増加するが、建物の規模は小さくなり、屋敷性格の変化が窺え、居住者の零細化と捉えられる。

(7) その他注目される遺構

荒砥諏訪西遺跡でも顕著に存在していた突出部を持つ土坑(竪穴状遺構：地下式土坑)が、３号溝の西辺に重複するものなど多く分布している。特に注目すべきは新旧関係で、３号溝が後出である。ただし、３号溝の北側にある171・203号土坑などは南側に向かって突出部(入り口)を開けており、屋敷内部を意識していることが確実である。それは区画された領域とほぼ同じ範囲を屋敷として認識し、かつ溝で区画していない段階が存在していたことを意味している。したがって、これらの土坑群は屋敷の初期段階に共伴するものであり、ａ群段階ころに伴っていた

可能性が最も高いものと考える。

そのほか土坑の分布を見ると、b群10号建物周辺が目立つ。土坑が建物を取り巻く形で廻っており、関連性が高い。建物と土坑の関係について示唆的である。方位が一致する点からも、10号建物内部には長方形の土坑、外側に西から北に少し大きな土坑が廻っている。内部に土坑を持つ建物では、b群の6・11号建物も可能性が高い。こうした状況からやや極端だが、a″群の5号建物内部に重複する土坑にも、伴うものが含まれるように見えてくる。つまり、突出部を持つ土坑がa群段階ころには存在していて、区画溝が設置されることで、土坑がより建物近くに、一部は内部に作られる形に変化したと思える。ここで前提となるのは、突出部を持つ土坑も建物周辺にある土坑と機能的には違いはないことと、溝によって囲まれた屋敷範囲では、作られる必要が無くなるということだろう。これについては、仮説として今後の検討課題としておく。

4　まとめ

(1) 区画屋敷

区画屋敷の規模は、荒砥宮田遺跡(以下、宮田)が約50m四方、荒砥諏訪西遺跡2区(以下、諏訪西)が約40m四方と若干の違いがある。両者の違いは、建物棟数の違いや配置などに見ることができる。時期については共に14・15世紀代にピークを求めることができるが、宮田については閑散とした集落としての継続が窺える。両者の共通点には、屋敷の分割と居住者の零細化という変化がある。これが偶然の一致であるのか、地域的な時代傾向であるのかは判断し難い。

(2)建物形態

荒砥前田遺跡(以下、前田)C群の総柱建物2棟は特別な建物であり、今後の事例増加を待って、位置付けを検討してみたい。しかし、時期を含め建物の性格を窺わせる遺物が出土していないのは残念だ。

区画屋敷の主要建物に見られる構造として、複数棟の連結が挙げられ、結果として曲屋的な形態をとるものがあった。宮田11・12号建物と諏訪西1・2号建物はよく似た平面形を持っており、地域色と見ることも可能だろう。ただし、この2号建物は梁間3間構造であり、構造的に際だって優れたものであることも注目される。

それに続く大型建物として、桁行が長大な建物があった。宮田27号建物・前田3号建物・諏訪西11号建物である。梁間1間または2間と幅の狭いまま、桁行を6・7間と延ばして細長い平面形となっている。特徴としては、長い棟を支えるためか、建物の中央付近に梁方向に数列、柱を配置しており、間仕切りよりも構造上の必要性を持つものと考える。

大型建物のうち、もっとも後代と考えるのが、宮田6号建物である。梁間3間構造で間仕切りを多用しており、民家建築でいうところの「三間取り」に似た平面形となっている。

(3)桁行平均柱間

桁行平均柱間の分析によって、屋敷内建物の分類や変遷を考えられることを、本遺跡でもほぼ提示できた。今後はこの数値が持つ意義を、積極的に見ていく必要性を感じる。以前提示したとおり(飯森2003)、統一数値が示す内容として、①相対的な時期を示す、②地域差・所有別を示す、③機能差を示す、④廃材の再利用など建物部材の物理的な継続性を示す、⑤建築部材の規格性を持つ流通品使用を示す、⑥建築設計施工者の違いを示すなどの観点を想定している。この場合、一つの遺跡内の相対的な関係を示す場合と、中世における絶対的な傾向を示す場合があることも留意される。後者について本遺跡での展望を探る。

前田C群の総柱建物は、桁行・梁間共に同じ数値を使用する。総柱の大型建物として中世の古い段階を考えていく資料と考えており、注目すべき数値結果である。

桁行平均柱間の数値としては、8尺前後の数値を使う事例が注目される。諏訪西ではa・a″群で多く

使用され、約40m規模の屋敷のピークを示す建物群を構成していた。一方、宮田の区画屋敷内では使用されない。ただし、南集中部B群で使用され、小規模な建物でも使用されることが確認できた。８尺の採用は特別な数値という印象があり、遺跡の性格を特徴づける側面を持つと考えている。本事例では、その２類型が見られたものと考える。この点は他の事例も含めて、別稿を持ちたいと思う。

(4)その他の遺構

土坑、特に突出部を持つもの(宮田では竪穴状遺構)が、区画屋敷周辺に顕著に見られた。その分布は、区画溝周辺、つまり屋敷境界付近に多く、かなりが溝と重複して、しかも前出する関係にあった。こうした形態を持つものは、従来から墓であるもの、貯蔵用の地下室であるものなどの評価があるが、地域差なども想定され、確定を見ていない。今時も機能を判断するまでには至らなかったが、墓ではない一群と言える。他の遺構との関係から仮説を立てれば、①屋敷の境界付近に作られるが、区画溝が作られると、こうした形態をとる土坑は無くなる。②この土坑の機能は、屋敷内部の土坑に引き継がれており、建物内部や周辺に突出部を持たない形態として分布するようになる。以上の仮説を成果として、今後とも検討を加えたいと考える。

おわりに、旧時の発掘調査でありながら、豊富な成果を持つ三つの遺跡について、資料の検討と発表の機会を与えていただいた、編集担当の小島敦子・徳江秀夫両氏に感謝申し上げる。

註

1．平均柱間の問題については、予見ではあるが検討したことがある(飯森康広「元総社西川・塚田中原遺跡の屋敷遺構について　－下植木壱町田遺跡修正案を兼ねて－」「元総社西川・塚田中原遺跡」［財］群馬県埋蔵文化財調査事業団2003)。

2．中宿在家遺跡では主屋を含むほとんどの建物が総柱構造を持つ屋敷が調査され、出土遺物から12世紀後半～14世紀前半の時期が想定されている(友廣哲也ほか「中宿在家遺跡」［財］群馬県埋蔵文化財調査事業団1997)。中内村前遺跡３区でも13世紀前後まで遡れる区画屋敷が調査され、時期変遷上の位置は不明だが、同様な構造を持つ大型の総柱建物が報告されている(石守晃「中内村前遺跡[1]」［財］群馬県埋蔵文化財調査事業団2002)。

3．木津氏は中世屋敷内部及び周辺で調査した地下式土坑を分類され、13～15世紀の所産で、墓の一形態ではなく、土倉としての性格を指摘している。出土遺物の多い２号地下式土坑の状況は、本遺跡の出土状況と極めて近似すると考える(木津博明ほか「東長岡戸井口遺跡」［財］群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999)。

4．予察では、主軸方位をもとにａ・ｂ群部分だけを５つに分類している。変遷上の分類と主軸方位別分類を混同して、かえって分かり難くなってしまった。また、６号建物については、柱筋が整っておらず主軸方位に幅があるため、ｂ群であるものをａ群扱いしてしまった。本稿と予察に、齟齬がある場合には、本稿を優先願いたい。

5．筆者の単純な勘違いにより、２号建物の柱穴認定を誤ってしまった。編集者徳江氏をはじめ関係者に、お詫び申し上げたい。

6．同等な建物構成を持ちながら変遷する屋敷事例として、元総社西川・塚田中原遺跡の屋敷がある。そこでもやはり廃材の再利用などによる建物の継続性を窺うことができた(飯森2003)。

参考文献

1．新里村教育委員会1991『資料集赤城山の歴史地震－弘仁九年に発生した地震とその災害』

2．能登健・小島敦子1997「群馬県の水田・畠調査遺跡集成」財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要14

日本考古学協会2000年度鹿児島大会資料集2000『はたけの考古学』

3．財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『三ツ木皿沼遺跡』

前橋市教育委員会1979『富田遺跡群・西大室遺跡群・清里南部遺跡群』

前橋市教育委員会1981『富田遺跡群』

前橋市教育委員会1982『富田遺跡群・西大室遺跡群』

前橋市教育委員会1980『鶴谷遺跡群発掘調査概報』

前橋市教育委員会1981『鶴谷遺跡群発掘調査概報Ⅱ』

前橋市教育委員会1982『鶴谷遺跡群Ⅱ』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団1986『梅木遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団1990『横俵遺跡群Ⅰ』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団1991『横俵遺跡群Ⅱ』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団1991『横俵遺跡群Ⅲ』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団1992『横俵遺跡群Ⅳ』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団1985『柳久保遺跡群Ⅰ』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団1988『柳久保遺跡群Ⅵ』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団1988『柳久保遺跡群Ⅶ』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団1993『横俵遺跡群Ⅵ』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団1987『小稲荷遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団1994『地田栗Ⅲ遺跡』

大胡町教育委員会1981『天神風呂遺跡』

大胡町教育委員会1992『中川原遺跡群小林・山神・大畑遺跡』

大胡町教育委員会1992『中川原遺跡群上ノ山遺跡』

大胡町教育委員会1994『西小路遺跡』

大胡町教育委員会1999『上大屋南部遺跡群上大屋下組遺跡・上大屋中組遺跡・上大屋天王山遺跡』

大胡町教育委員会2001『茂木山神Ⅱ遺跡』

群馬県教育委員会1978『荒砥五反田遺跡』

群馬県教育委員会1984『山崎遺跡・寺東遺跡・寺前遺跡・東前田北遺跡・東原西遺跡・新山遺跡』

群馬県教育委員会1985『堤東遺跡』

群馬県教育委員会1991『舞台・西大室丸山』

群馬県教育委員会1991『富士山Ⅰ遺跡1号古墳』

群馬県教育委員会1992『丸山・北原』

群馬県教育委員会1992『上諏訪山A・B・中山A・東原A・B』

群馬県教育委員会1996『下境Ⅰ・Ⅱ』

群馬県教育委員会1997『西大室丸山遺跡』
群馬県教育委員会1998『諏訪西遺跡・諏訪遺跡・柳久保遺跡・川籠皆戸遺跡・向原遺跡』
群馬県教育委員会1999『上西原遺跡』
群馬県教育委員会2000『村主遺跡・谷津遺跡』
群馬県教育委員会2001『北田下遺跡・中畑遺跡・中山Ｂ遺跡』
群馬県教育委員会2002『山王遺跡・大道遺跡・阿弥陀井戸道上遺跡・天神遺跡・元屋敷遺跡』
群馬県教育委員会2003『中屋敷Ｉ遺跡・明神山遺跡・伊勢山遺跡・中島遺跡・西裏遺跡』
群馬県企業局1991『萱野・下田中・矢場遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1979『荒砥東原遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1982『荒砥上川久保遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1984『荒砥島原遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『荒砥洗橋遺跡・荒砥宮西遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『荒砥二之堰遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1985『荒砥前原遺跡・赤石城址』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1986『荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『荒砥天之宮遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1988『二之宮宮下東遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1991『荒砥北三木堂遺跡Ｉ』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1993『今井白山遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1993『荒砥宮川遺跡・荒砥宮原遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1994『白倉下原・天引向原遺跡Ⅲ《弥生・古墳時代本文編》』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1994『荒砥大日塚遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1994『今井道上遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1994『笂井八日市遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1994『小島田八日市遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1995『荒砥上ノ坊遺跡Ｉ』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1995『今井道上・道下遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1996『荒砥上ノ坊遺跡Ⅱ』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1997『荒砥上ノ坊遺跡Ⅲ』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1998『荒砥上ノ坊遺跡Ⅳ』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『荒砥下押切Ⅱ遺跡・荒砥中屋敷Ⅱ遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『荒砥荒子遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002『荒砥諏訪西遺跡Ｉ』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『荒砥諏訪西遺跡Ⅱ　荒砥諏訪遺跡』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2000『年報19』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『年報20』

遺構一覧表
遺物観察表

凡　例

1．遺構の一覧表は、各遺構ごとに作成し、発掘区の番号順で並べた。

2．掲載頁・図は第4章・第5章で報告した頁・図番号を、掲載写真は写真図版のＰＬ番号を記載した。

3．遺構の計測値のうち、掘立柱建物の計測値は本文中の挿図に併載した。

4．遺構の計測値は、重複等で計測できないものは計測不可とした。

5．既刊『荒砥宮田遺跡Ｉ』で報告した遺構が混在する場合は再録し、その旨記載した。

本報告書整理作業によって取扱いが変化した遺構については、その過程がわかるように併記した。

6．遺物観察表は、土器・石器・金属器・古銭に分け、第4章・第5章の掲載順に並べた。

7．法量欄の（　）は復元値である。残存値は残と付記した。遺物の計測値の単位は長さ・幅・厚さは㎝、重さはｇである。

8．法量欄の重さは、6000ｇまでは1ｇ単位、20㎏までは50ｇ単位、20㎏以上は100ｇ単位の秤を使用して計測した。ただし、6000ｇ以下のものでも、秤台部より大きなものは1ｇ単位の秤で計測しているため、1ｇ単位となっているものがある。

古銭の計測値のうち、銭径Ａ・Ｃは方孔の左上～右下の対角線上で外径・内径を、銭径Ｂ・Ｄは右上～左下の対角線上で外径・内径をノギスで計測した。銭厚は①は方孔の上、②は右、③は下、④は左の位置で同じくノギスで計測した。

9．出土位置欄は、「竈・貯蔵穴・北西部・壁際」等の平面的位置と、床面あるいは底面比高を併記した。

10．外観の特徴のうち、土器の胎土は特徴的な夾雑物について記載した。

11．外観の特徴のうち、土器の焼成は酸化焔焼成か還元焔焼成かを記載した。

12．外観の特徴のうち、色調は『標準土色帖』を用い、最も大きい面積を占める器面の色名を記載した。なお、焼成に伴う黒斑は別に記載した。

13．中近世の土器については、施釉や形態の特徴から製作地および時期を記載した。

14．備考欄は付着物・塗彩・穿孔等の特徴や、型式名・窯式名を記載した。

目　次

荒砥宮田遺跡

1．竪穴住居一覧表 ……………………………………………………258
2．掘立柱建物跡一覧表 ………………………………………………258
3．柱穴列計測表 ………………………………………………………259
4．溝一覧表 ……………………………………………………………260
5．井戸一覧表 …………………………………………………………262
6．土坑一覧表 …………………………………………………………263
7．竪穴状遺構一覧表 …………………………………………………271
8．墓一覧表 ……………………………………………………………272
9．畠一覧表 ……………………………………………………………272
10．水田一覧表 …………………………………………………………272
11．土器観察表 …………………………………………………………273
12．石器観察表 …………………………………………………………283
13．金属器観察表 ………………………………………………………295
14．古銭計測表 …………………………………………………………295

荒砥前田遺跡

1．掘立柱建物跡一覧表 ………………………………………………298
2．土坑一覧表 …………………………………………………………298
3．溝一覧表 ……………………………………………………………298
4．井戸一覧表 …………………………………………………………298
5．畠一覧表 ……………………………………………………………298
6．水田一覧表 …………………………………………………………298
7．土器観察表 …………………………………………………………299
8．石器観察表 …………………………………………………………301
9．金属器観察表 ………………………………………………………301

1．荒砥宮田遺跡　古代竪穴住居一覧表

住居番号	グリッド	平面形	長軸方向	長軸m	短軸m	深さm	面積㎡	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
2区4号	Lq·r−10·11G	隅丸正方形	N−10°−W	4.15	3.45	0.1	12.85	P30・37	第 19図	PL 5	第 19図	PL36
2区7号	Lo·p−4·5G	方形	N−89°−E	3.7	3.0以上	0.29	測定不可	P37・38	第 20図	PL 5	第 20図	PL36

2．荒砥宮田遺跡　掘立柱建物跡一覧表

番号	グリッド	規模	建物の向き	主軸方位	本文	遺構図	遺構写真
1区1号	Et·Ca−18·19G	2×4間	南北棟	N−19°−W	P48	第26図	
1区2号	Cc~e−18·19G	(2+1)×(4+1)間	南北棟	N−36°−W	P48・50	第27図	
1区3号	Cc·d−13·14G	2×3間	南北棟	N−40°−W	P50	第27図	
1区4号	Et·Ca−17·18G	1×2間	東西棟	N−86°−W	P50	第28図	
1区5号	Cb−11·12G	(2+1)×4間	東西棟	N−72°−W	P50・52・53	第28図	
1区6号	Ca·b−11~14G	3×5間	東西棟	N−65°−W	P59	第35図	
1区7号	Et·Ca−17·18G	2×3間	東西棟	N−66.5°−W	P59・60	第36図	PL 9
1区8号	Cc·d−13·14G	1×4間	南北棟	N−27°−E	P53	第29図	
1区9号	Ce·f−12·13G	2×3間	東西棟	N−64°−W	P53	第30図	
1区10号	Ce−14·15G	1×3間	東西棟	N−63°−W	P53	第30図	PL 9
1区11号	Cc~e−18·19G	(2+2)×(3+1)間	東西棟	N−62.5°−W	P53・55	第31図	PL 9
1区12号	Dc·d−19·0G	1×(3+1)間	南北棟	N−26.5°−E	P56	第32図	
1区13号	Cc·d−16·17G	2×2間以上	東西棟	N−61.5°−W	P56	第32図	
1区14号	Cb·c−16·17G	2×3間	南北棟	N−28°−E	P56	第33図	PL15
1区15号	Cf·g−16·17G	1×2間	南北棟	N−29°−E	P56・59	第33図	
1区16号	Cg−17·18G	1×2間	東西棟	N−59°−W	P60	第36図	
1区17号	Cg·h−18·19G	2×4間	南北棟	N−30°−E	P59	第34図	
1区18号	Et·Ca−17·18G	(2+1)×2間	東西棟	N−61°−W	P60・62	第37図	
1区19号	Cc~e−11·12G	2×4間	南北棟	N−26°−E	P62	第37図	
1区20号	Cl−11·12G	2×2間	東西棟	N−50°−W	P62・65	第38図	
1区21号	A·Bb·c−19·0G	2×3間	東西棟	N−64°−W	P65	第38図	
1区22号	欠番						
1区23号	Ah·i−13·14G	3×2間	東西棟	N−72.5°−W	P67	第40図	PL 9
1区24号	Aj·k−12·13G	2×2間	東西棟	N−72°−W	P70	第40図	
1区25号	Cr·s−16·17G	1×1間	南北棟	N−26°−E	P65	第39図	
1区26号	Aa−12·13G	2×2間	東西棟	N−64°−W	P65・67	第39図	PL 9
1区27号	Aj·k−12~15G	7×(2+1)間	東西棟	N−63°−W	P70・72	第42図	PL 9
1区28号	Aj−9~11G	6×2間以上	東西棟	N−66°−W	P72	第43図	
1区29号	Ah·i−16·17G	3×2間	東西棟	N−59°−W	P70	第41図	PL 9
1区30号	Aj·k−14·15G	2×2間	東西棟	N−62°−W	P70	第41図	PL 9

3．荒砥宮田遺跡　柱穴列計測表

1区1号柱穴列

主軸方向					
柱穴	規模(cm)			形状	次柱穴との
No	長径	短径	深さ		間隔(m)
P 1	34	28	62	楕円形	1.06
P 2	66	34	22	楕円形	1.08
P 3	35	24	29.5	楕円形	1.9
P 4	38	32	35	隅丸方形	1.98
P 5	20	15	37	円形	P7へ2.45
P 6	31	30	32	円形	2.16
P 7	36	32	18	円形	6.76
P 8	30	28	24.5	円形	1.26
P 9	40	32.5	24.5	隅丸方形	0.75
P10	20	15	35.5	楕円形	1.65
P11	25	18.5	31.5	楕円形	P13へ1.4
P12	56.5	32	27	楕円形	1.17
P13	26.5	23	15.5	円形	1.16
P14	27	24	43	円形	1
P15	36	29	33.5	隅丸方形	0.83
P16	48.5	27	31.5	楕円形	0.9
P17	36	30	25	円形	0.77
P18	28.5	19	28	楕円形	0.43
P19	23	20	20.5	円形	0.4
P20	65	32	39.5	不定形	1.56
P21	27	25	17.5	円形	2.15
P22	35	28	44	楕円形	1.05
P23	32.5	30	40.5	円形	0.6
P24	40	29	40	楕円形	1.03
P25	34	24	27.5	楕円形	−

1区2号柱穴列

主軸方向					
柱穴	規模(cm)			形状	次柱穴との
No	長径	短径	深さ		間隔(m)
P 1	29	21	35.5	隅丸方形	0.83
P 2	32	22	9.5	不定形	0.82
P 3	30	19	33.5	隅丸方形	0.8
P 4	24	18	7.5	隅丸方形	−
P 5	30	27	17	円形	0.64
P 6	31	28.5	47	楕円形	0.9
P 7	30	25	24	円形	0.33
P 8	33	18.5	22	楕円形	3.05
P 9	30	22	10	隅丸方形	0.5
P10	23	21	14	隅丸方形	3.5
P11	25	20	22	円形	3.3
P12	48.5	43	54.5	円形	1.8
P13	57	37	50	不定形	2.42
P14	36	32.5	60	円形	2.15
P15	25	24	50.5	円形	−

1区3号柱穴列

主軸方向					
柱穴	規模(cm)			形状	次柱穴との
No	長径	短径	深さ		間隔(m)
P 1	55	45	13	隅丸方形	3.17
P 2	39	36	36	円形	P5へ2.15
P 3	50	30	23.5	隅丸方形	0.7
P 4	30	28.5	15.5	円形	1.05
P 5	39	35	46.5	円形	0.52
P 6	30	26	30	円形	−

1区4号柱穴列

主軸方向					
柱穴	規模(cm)			形状	次柱穴との
No	長径	短径	深さ		間隔(m)
P 1	29	22.5	12.5	楕円形	−
P 2	25	21	17	楕円形	2.6
P 3	35	30	52.5	円形	2.15
P 4	31	22	24	隅丸方形	−

1区5号柱穴列

主軸方向					
柱穴	規模(cm)			形状	次柱穴との
No	長径	短径	深さ		間隔(m)
P 1	43	40	53	円形	2.15
P 2	27.5	25	33	楕円形	1.25
P 3	48	31	22.5	楕円形	2.1
P 4	26.5	21.5	10	円形	2.1
P 5	34	27.5	45.5	円形	2
P 6	36.5	30	36	楕円形	2.02
P 7	42	32	26	楕円形	1.75
P 8	36.5	35	14	円形	−

1区6号柱穴列

主軸方向					
柱穴	規模(cm)			形状	次柱穴との
No	長径	短径	深さ		間隔(m)
P 1	29	27	17	円形	2
P 2	36	29	28	楕円形	1.65
P 3	24	24	15	円形	1.6
P 4	22.5	21	20	円形	P11へ2.3
P 5	31	36	28.5	楕円形	1.29
P 6	30	22.5	18.5	楕円形	0.72
P 7	36.5	30	38	楕円形	−
P 8	39	23	23	不定形	1.95
P 9	30	28	14	円形	2.24
P10	33	28	32.5	円形	1.53
P11	30	20	26.5	楕円形	0.2
P12	26.5	22.5	24	円形	0.3
P13	25	24	15	円形	1.46
P14	25	22	34	円形	−

1区7号柱穴列

主軸方向					
柱穴	規模(cm)			形状	次柱穴との
No	長径	短径	深さ		間隔(m)
P 1	35	33	20	円形	2.3
P 2	36	34.5	20.5	円形	2.36
P 3	39.5	38	18.5	円形	2.35
P 4	35	33	24	円形	−

4．荒砥宮田遺跡　溝一覧表

備考欄の*は長さが短かく、細長方形土坑と類似する

溝番号	グリッド	調査長 m	最大幅 m	最小幅 m	深さ m	本文	土層図	遺構写真	遺物図	遺物写真	備考
1区1号									第53図	PL36	
1区2号											
1区3号									第53図	PL36	
1区4号											
1区5号											
1区6号											
1区7号											
1区8号											
1区9号											
1区10号	Ad·e−17·18G	9.2	1.18	0.39	0.27		第46図				*
1区11号	Dk~t−0、Cn~t·Aa~c−19G	61.3	2.86	1.54	0.48	P78		PL10			
1区12号	Cq·r−15~19、Dr·s−0·1G	30.4	1.7	1.15	0.82	P78·96	第46図	PL10	第53·54図	PL36·37	
1区13号	Ck~t·Aa~c−16·17G	62	2.78	1.85	0.76	P78	第46図	PL10			
1区14号	Cs·t−10~18G	38.3	2.97	0.85	0.45	P75		PL10·11			
1区15号	Cs·t−11~13、Aa~c−13~16G	34.8	1.01	0.39	0.65	P73	第47図	PL11			
1区16号	Cq·r−15~19、Dq·r−0·1G	30.1	1.42	0.53	0.31	P78·96		PL11			
1区17号	Cr−15~19、Dr−0·1G	29.6	1.14	0.62	0.45	P78·96		PL10	第54図	PL37	
1区18号	Ct−10·11、Aa~c−11~15G	29.9	1.07	0.67	0.55	P73		PL11			
1区19号	Ct−10~13、Aa~c−12~19G	50.8	1.82	0.5	0.72	P75		PL10·11			
1区20号	Cj~q−8·9G	32.8	3.5	1.01	0.71	P73	第47図	PL12	第54図	PL37	
1区21号	Ck~q−8~10G	36.9	2.43	0.72	1.15	P76·77	第47図	PL12	第54図	PL37	
1区22号	Cl·m−9·10G	4.05	0.86	0.73	0.15						*
1区23号	Ck·l−9G	4.56	0.66	0.39	0.24						*
1区24号	Ck~n−14G	16.9	0.92	0.51	0.35	P96	第47図				
1区25号	Ck−12·13G	7.46	0.42	0.27	0.23	P78					
1区26号	Cj−10·11G	6.22	0.69	0.4	0.17	P78					
1区27号	Cp−12·13G	5.23	0.7	0.56	0.23	P78					
1区28号	Cp−10~12G	7.9	0.87	0.52	0.32	P78					
1区29号	Cs·t−15G	5.26	0.67	0.57	0.11	P78					
1区30号	Ck~q−14~16G	31.2	1.08	0.37	0.5	P78					
1区31号	Cp·q−12~14G	7.24	1.62	0.52	0.28						*
1区32号	Cr−13·14G	5.48	1.2	0.93	0.43	P78					
1区33号	Cm~p−19G	15	0.99	0.37	0.14						
1区34号	Cn−15G	4.1	0.67	0.25	0.24						*
1区35号	Cm~o−15G	6.54	0.51	0.33	0.21						*
1区36号	Cm·n−15~18G	11	0.39	0.12	0.72	P78					
1区37号	Cn−19、Dn~p−0~3G	18.7	0.8	0.42	0.58	P75		PL12			
1区38号	Dn·o−2G	5.64	2.3	1.95	0.18	P78					
1区39号	Cj·k−18·19、Dj·k−0·1G	12.61	0.52	0.24	0.26	P78					
1区40号	Cj·k−15~19、Dj−0·1G	28.2	2.53	1.24	0.89	P73·75					
1区40·41号	Ch~k−8~15G	33.8	6.9	4.43	2.13	P73·75	第48図	PL13	第55図	PL37·38	
1区41号	Ci·j−15~19、Di·j−0·1G	28.3	2.9	1.94	1.47	P73·75					
1区42号	Db~j−0·1G	38.6	1.7	0.4	1.07	P76	第49図	PL13	第54図	PL38	
1区43号	Ft−1、Da~f−0·1、Cf~j−19G	49.7	1.13	0.33	0.64	P75		PL13			
1区44号	Fs·t−1·2、Da~f−0·1、Ce·f−19G	37.1	1.73	0.75	0.68	P75·76	第49·50図				
1区45号	Cg~i−19G	13.8	0.63	0.32	0.22	P78					
1区46号	Ci−18·19G	3.15	0.57	0.21	0.15	P78			第54図		
1区47号	Ch·i−18·19G	5.76	0.82	0.32	0.18	P78					
1区48号	Cg−19G	5.2	0.71	0.53	0.31	P78	第50図				
1区49号	Cg·h−18·19G	2.29	0.52	0.37	0.11						*
1区50号	Cg·h−18G	4.84	0.62	0.49	0.31						*
1区51号	Cd~g−16G	8.7	0.31	0.2	0.34	P78					
1区52号	Cd~i−15G	26.2	0.38	0.11	0.52	P78					
1区53号	Et·Ca~i−15G	46.4	0.7	0.36	0.75	P78					
1区54号	Cc~i−14·15G	28.3	1.57	0.36	0.24	P78					
1区55号	Cg−13~15G	8.04	0.56	0.33	0.39	P78					
1区56号	Ci−14G	3.18	0.71	0.42	0.22	P78					
1区57号	Cg−13G	1.6	0.56	0.45	0.24						*
1区58号	Cg~i−13G	8.86	0.35	0.18	0.26	P78					
1区59号	Ce~h−10·11G	16.2	1.31	0.84	0.75	P76	第49図	PL13	第63図	PL38	

溝番号	グリッド	調査長 m	最大幅 m	最小幅 m	深さ m	本文	土層図	遺構写真	遺物図	遺物写真	備考
1区60号	Cg−10·11G	2.52	0.59	0.43	0.53						*
1区61号	Cg−10G	3.33	1.74	0.78	0.11						*
1区62号	Cb~i−9·10G	35.6	1.4	0.46	0.73	P75		PL13	第54図	PL38	
1区63号	欠番										
1区64号	Cg−12·13G	3.82	0.61	0.51	0.48	P78	第50図				
1区65·66号	Et−16·17、Ca~c−16G	19.3	3.01	0.5	0.42	P77					
1区65号	Es·t−17~19、Ft−0·1G	22.3	0.63	0.33	0.34	P78	第50図				
1区66号	Et−17G	0.67	0.63	0.43	0.14		第50図				*
1区67号	Es−15~19、Fs−0·1G	28.7	1.38	0.37	0.85	P77	第50図				
1区68A号	Es−15~19、Fs−0·1G	30.3	1.43	1.28	0.71	P77	第45-50図	PL14	第56~60図	PL39-42	
1区68B号	Es·t−15~19、Fs·t−0·1G	29.9	2.04	0.72	1.21	P77			第56~60図	PL39~42	
1区69号	欠番										
1区70号	Cf·g−18G	4.06	0.47	0.34	0.2						*
1区71A号	Cf−17~19G	12.1	0.9	0.35	0.31	P78	第50図				
1区71B号	Cg−14G	1.26	0.5	0.39	0.09						*
1区72号	Ce·f−16~19G	16	2.28	1.41	0.77	P76	第50図	PL15	第61·62図	PL42	
1区73号	Ce−10~16G	26.7	2.3	1.57	1.05	P76	第51図	PL15	第61図	PL42·43	
1区74号	Ce·f−15G	5.54	1.14	0.52	0.51						*
1区75号	Cc·d−10~19G	43.1	1.36	0.42	0.81	P76		PL15·16	第63図	PL43	
1区76号	Cd−16G	4.53	0.89	0.52	0.27			PL16			*
1区77号	Cc−17·18G	6.1	0.53	0.25	0.28						*
1区78号	Cd·e−16G	7.7	0.85	0.4	0.14				第63図	PL43	*
1区79号	Ce−18·19G	6.76	0.6	0.3	0.35	P78			第63図		
1区80号	Do·p−8G	9.8	2.38	1.7	0.22	P73					
1区81号	Do~q−8·9G	13.4	1.4	0.91	0.47	P73					
1区82号	Dm~p−4·5G	13.9	1.2	0.72	0.32	P73	第49図	PL16			
1区83号	Dn~p−3·4G	6.92	2.25	2	1	P73	第51図	PL16			
1区84号	Cd−17·18G	4.13	0.97	0.67	0.34						*
1区85号	Cf−9·10G	5.44	0.54	0.38	0.16	P78					
1区86号	Cd·e−9~14G	27.9	0.58	0.36	0.25	P78					
1区87号	Cd−9~12G	15.8	0.47	0.3	0.26	P78					
1区88号	Cb~d−15G	8.4	0.74	0.52	0.65	P78					
1区89号	Cd·e−14G	6.88	0.83	0.42	0.52						*
1区90号	Cd−10G	2.41	0.95	0.56	0.06						*
1区91号	Et−10、Ca~d−10·11G	1.98	1.34	0.82	0.4	P75	第52図				
1区92号	Ca·b−15·16G	3.7	0.75	0.58	0.14						*
1区93号	Et·Ca−15G	9.1	0.81	0.56	0.28	P78					*
1区94号	Et−10、Ca·b−9·10G	14.9	3.29	2.17	2.39	P76	第52図	PL16	第64図	PL43·44	
1区95号	Ca·b−10G	3.93	1.02	0.57	0.92						*
1区96号	Cb−9·10G	2.95	0.59	0.37	0.21	P78					
1区97号	欠番										
1区98号	Cm−18G	4.01	0.66	0.53	0.21	P75					*
1北区1号	Fh~l−0G	21.1	3.85	0.78	0.92	P151			第119図	PL52	
1北区2号	Fi~k−0G	不明	不明	不明	不明						
1北区3号	Fn~r−0·1G	24.4	4.8	0.6	1.46	P151			第119図	PL52	
1北区4号	Fh·i−4G	7.4	1	0.61	0.55			PL23			
2区1号	Lo~t−5·6、Ia~c−5G	48.5	1.18	0.67	0.86	P172					
4区1号	Lk·l−14·15G	9.5	1.7	0.72	0.52	P180			第146図	PL60	
4区2号	Lj·k−12G	3.8	3.21	1.62	0.63	P180					
4区3号	Lj·k−7·8G	7.64	4.12	2.76	0.78	P180					
4区4号	Lg~i−11~13G	12.8	0.82	0.48	1.4	P45	第23図	PL8			
4区5号	Km·l−19、Lm·l−0·1G	6.37	1.2	0.82	1.07	P180					
4区6号	Km·l−19、Lm·l−0·1G	6.29	1.52	0.92	0.97	P180					

5．荒砥宮田遺跡　井戸一覧表

井戸番号	グリッド	平面形	長軸方位	長軸cm	短軸cm	深さcm	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
1区1号	Af·g−13G	円形	N−44°−E	137	126	138		第 70図	PL17	第 65図	PL44
1区2号	Cp−10G	円形	N−37.5°−E	103	94	145	P98	第 70図	PL17	第 66·67図	PL44
1区3号	Cp−10G	円形	N−33.5°−E	110	94	112		第 70図	PL17		
1区4号	Co·p−10G	円形	N−42°−W	281	260	251	P98	第 70図	PL17	第 65図	PL44
1区5号	Ck−10G	楕円形	N−63°−W	125	90	147		第 70図	PL17		
1区6号	Ck−11G	楕円形	N−17°−W	125	105	149.5		第 71図	PL17		
1区7号	Ck−11G	円形	N−27.5°−W	90	86	171		第 71図	PL17		
1区8号	Cn·o−10·11G	円形	N−60°−W	151	136	224.5		第 71図	PL17		
1区9号	Cs−16G	円形	N−41°−W	92	84	210.5		第 71図	PL18		
1区10号	Cs−16G	円形	N−37.5°−W	86	81	202		第 71図	PL18		
1区11号	Cp−10G	円形	N−32°−E	94	87	165		第 71図	PL18		
1区12号	Cp−19G	円形	N−0.5°−W	107	91	230		第 71図	PL18		
1区13号	Cq−17G	円形	N−58.5°−W	150	120	292		第 72図	PL11		
1区14号	Bb−0·1G	円形		153		219.5		第 71図			
1区15号	Cq−18G	円形	N−1°−W	85	82	222		第 71図	PL11		
1区16号	Ck−16·17G	楕円形	N−34°−W	188	167	219		第 71図	PL21		
1区17号	Ck−16G	円形	N−21.5°−E	82	77	171		第 72図	PL21		
1区18号	Dh·i−0G	楕円形	N−4°−E	153	127	189	P98	第 72図		第 67図	PL45
1区19号	Dg−1G	円形		130		228		第 72図			
1区20号	Df−1G	円形	N−12°−W	105	91	228		第 72図			
1区21号	De−1G	楕円形	N−65.5°−W	178	149	218		第 72図			
1区22号	De−1G	円形	N−86°−W	85	82	213		第 72図			
1区23号	De−1G	円形	N−15°−W	105以上	107	164		第 72図			
1区24号	Dd−1G	円形	N−56.5°−E	110	105	200		第 73図			
1区25号	Dd−1G	円形	N−33°−W	94	80以上	200		第 73図			
1区26号	Dd−1G	円形	N−47°−E	70以上	102	88.5		第 73図			
1区27号	Dd−1G	円形	N−86.5°−W	100	88	189		第 73図			
1区28号	Dc−19G	楕円形	N−32.5°−E	122	93	182.5		第 73図			
1区29号	Dc−1G	楕円形	N−51°−E	119	88	224		第 73図			
1区30号	Da−1G	円形	N−62.5°−W	83	80	93.5		第 73図			
1区31号	Ft−0·1G	円形	N−44°−W	136	126	178.5		第 73図			
1区32号	Db−0G	円形	N−5.5°−W	89	78	190		第 73図			
1区33号	Ci−15G	円形	N−86°−W	92	80	201		第 73図			
1区34号	Ci−12G	円形	N−11.5°−W	78	71	173		第 74図			
1区35号	Ci−10·11G	円形	N−29°−E	119	108	130		第 74図			
1区36号	Cg−9·10G	円形	N−43°−W	107	101	229.5	P98	第 74図		第 67図	PL45
1区37号	Cc·d−19G	円形	N−80.5°−W	198	189	229.5		第 74図	PL18		
1区38号	Cd−18·19G	円形	N−27°−E	93	83	228		第 74図			
1区39号	Cg−12G	円形	N−18.5°−E	140	132	182		第 74図			
1区40号	Fs−1·2G	楕円形	N−29°−E	129	96	167.5		第 74図			
1区41号	Es−18·19G	円形	N−7°−W	90	79	139.5		第 74図			
1区42号	Cf−16G	円形	N−25°−E	120	111	211		第 74図			
1区43号	Cd−15G	円形	N−46°−E	95	89	193		第 75図			
1区44号	Cb−18G	円形	N−66°−W	108	95	207.5		第 75図			
1区45号	Cc−16G	円形	N−76°−E	96	93	153.5		第 75図			
1区46号	Cc−15·16G	円形	N−39.5°−W	117	106	223		第 75図			
1区47号	Dn−5G	円形	N−82°−E	173	158	166.5		第 75図	PL16·18		
1区48号	Cc−18G	楕円形?	N−30°−W	206	167	155	P98	第 75図		第 67図	PL45
1区49号	Cc−18G	楕円形?	N−9°−W	165	113以上	242.5		第 75図			
1区50号	Cb−17G	円形	N−28.5°−E	86	82	152		第 75図			
1区51号	Ca−17G	円形	N−28°−E	113	102	170		第 76図			
1区52号	Et−19G	円形	N−63°−W	120	116	160.5		第 76図			
1区53号	Et−17G	円形	N−83°−W	150	127以上	202.5	P98	第 76図		第 68図	PL45
1区54号	Et−17G	円形	N−22°−E	84	77	161.5	P98	第 76図		第 68図	PL45
1区55号	Ca·Et−16G	円形	N−38°−W	96	92	196		第 76図			
1区56号	Cb·c−12G	円形	N−40°−E	129	122	181		第 76図			
1区57号	Cc−12G	円形	N−23.5°−W	125	116	199.5		第 76図			
1区58号	Cc−12G	円形	N−52°−W	97	82	212.5		第 76図			
1区59号	Cd·e−12G	円形	N−82.5°−W	122	122	160.5		第 76図		第 67図	PL46
1区60号	Cd−12G	楕円形?	N−64.5°−E	175	113以上	201		第 77図			

5．井戸一覧表

井戸番号	グリッド	平面形	長軸方向	長軸cm	短軸cm	深さcm	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
1区61号	Cd·e−13G	楕円形?	N−72.5°−E	103	85	172.5		第 77図		第 69図	PL46
1区62号	Ca−15G	円形	N−4°−W	78	73	82.5		第 77図			
1区63号	Ca−14G	円形	N−64.5°−W	132	120	176		第 77図			
1区64号	Ca−14G	円形	N−49°−E	88	82	97		第 77図			
1区65号	Ca−13G	円形	N−18°−W	151	138	243.5	P98	第 77図			
1区66号	Cb−12G	円形·	N−18.5°−W	107	99	260	P98	第 77図		第 69図	
1区67号	Ca·b−10·11G	円形	N−81°−W	125	113	198	P98	第 77図		第 69図	PL46
1北区1号	Fp−0G	円形	測定不可	170		245	P153	第119図		第119図	
1北区2号	Fh−4G	楕円形?	N−69.5°−W	203	150	215	P153	第119図		第119図	PL52
2区1号	Ie−11G	円形	N−73°−E	109	103		P153	第120図	PL23		
2区2号	Ih−8G	楕円形	N−87.5°−W	138	115	204	P153	第120図	PL23	第120図	PL52
2区3号	不明	不明	不明	平断面図所在不明の為、詳細は不明					PL35		

6．荒砥宮田遺跡　土坑一覧表

土坑番号	グリッド		平面形	長軸方向	長軸cm	短軸 cm	深さ cm	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
1区 1号	平面図なし		楕円形							PL18		
1区 2A号	Ac−10·11G		円形	N−26°−E	100	96	17			PL18		
1区 2B号	Cn−9G		隅丸長方形	N−65°−W	249	98	36		第 84図			
1区 3号	Cn·m−9G		方形	N−63°−W	215	182	30		第 85図			
1区 4号	Cn·m−9·10G		隅丸長方形	N−62°−W	165	96	29.5		第 84図			
1区 5号	Cm−9·10G		隅丸長方形	N−26°−E	250	123	40.5		第 84図			
1区 6号	Cm−10G	除外	不定形	N−69°−W	30以上	37	15					
1区 7号	Cm−9·10G		方形	N−64°−W	181	161	30		第 86図			
1区 8号	Ck·l−8·9G		円形	N−26°−E	145	140	27	P132	第 80図		第 79図	PL46
1区 9号	Ck−10G		楕円形	N−64.5°−W	108	84	10.5		第 83図			
1区 10A号	Co−11G		楕円形	N−82°−W	214	82	43.5		第 83図			
1区 10B号	Ah−11G		楕円形	N−26.5°−E	156	121	18.5		第 82図	PL19		
1区 11A号	Aj−15G	27号掘立	楕円形	N−26°−E	49	42	35			PL19		
1区 11B号	Cs−15·16G		細長方形	N−65°−W	288	89	36		第 96図			
1区 12A号	Ct−15·16G		細長方形	N−89°−E	282	74	28		第 96図			
1区 12B号	Ai−14·15G		円形	N−73°−W	90	83	9.5		第 81図			
1区 12C号	Ai−14G		円形	N−64.5°−W	82	78	24.5		第 81図	PL19		
1区 13号	Ae−13G		方形	N−15.5°−E	125	94	14		第 89図			
1区 14号								第1分冊				
1区 15号	Cr·s−14G		長方形	N−14°−E	256	72	43.5		第 90図	PL19		
1区 16号	Cr−14G		隅丸長方形	N−30°−E	159	88	30		第 84図	PL19		
1区 17号	Cr·s−14G		長方形	N−25.5°−E	154	76	52.5		第 90図	PL19		
1区 18号	Ck−0·1G		隅丸長方形	N−61.5°−W	187	92	42.5		第 84図			
1区 19号	Ba·b−1G		円形	N−26°−E	124	121	49.5		第 80図			
1区 20号	Ca−18G		楕円形	N−35°−E	133	77	34.5		第 83図			
1区 21号	Dk−0·1G		円形	N−64°−W	150	138	15		第 80図			
1区 22号	Cl−17·18G		方形	N−69°−W	234	167	45		第 86図			
1区 23号	Cl−16G		円形	N−5.5°−W	258	244	99		第 80図	PL19		
1区 24号	Ca−15G	除外	不定形	N−28°−W	236	106	87					
1区 25号	欠番											
1区 26号	Do−2G		方形	N−49°−W	158	105	30		第 88図			
1区 27号	欠番											
1区 28号	欠番											
1区 29号	欠番											
1区 30号	欠番											
1区 31号	Di−1G		方形か	N−64°−W	204	177	38		第 94図			
1区 32号	Di−0·1G		方形か	N−58°−W	209	169	29		第 94図			
1区 33号	Di−1G		円形	N−62°−W	84	73	23.5		第 81図			
1区 34号	Dh·i−1G		方形か	N−23.5°−E	測定不可	測定不可	12		第 94図			
1区 35号	Dh−0·1G	除外	不定形	N−54.5°−W	150以上	96	55.5					
1区 36号	Dh−0·1G	柱穴			55	−	18					
1区 37号	Dh−0·1G		長方形	N−59°−W	143	89	16.5		第 92図			
1区 38号	Dh−0G		隅丸長方形	N−4°−W	88以上	118	29		第 84図			
1区 39号	Dg·h−1G		方形	N−34°−E	117以上	102	22		第 89図			
1区 40号	Dg·h−1G		楕円形	N−13°−E	180	132	66	P132	第 82図		第 79図	PL46
1区 41号	Cg·19·Dg−0G		方形	N−61.5°−W	109以上	141	9		第 87図			

土坑番号	グリッド		平面形	長軸方向	長軸cm	短軸cm	深さcm	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
1区 42A号	Dg·h−0·1G	柱穴		N−59°−W	120	80	67.5					
1区 42B号	Cf·g−1G		長方形	N−27°−E	353	151	31		第 90図			PL46
1区 43号	Df·g−1G		長方形	N−4.5°−W	230以上	154	53		第 90図			
1区 44号	Df·g−0·1G	除外	不定形	N−62°−E	測定不可	測定不可	測定不可					
1区 45号	Df−1G		円形	N−43°−W	54	−	46		第 81図			
1区 46A号	De·f−1G		隅丸方形	N−38°−E	167	153	33.5		第 84図			
1区 46B号	De·f−1G		隅丸方形	N−62°−W	207	176	13		第 84図			
1区 47号	De−1G		方形	N−54°−W	138	87	43		第 89図			
1区 48号	De−1G		方形か	N−62.5°−W	測定不可	測定不可	24		第 91図			
1区 49号	De−1G		長方形	N−60.5°−W	185以上	87	40.5		第 91図			
1区 50号	De−1G		方形か	N−19.5°−E	186	143以上	48.5		第 91図			
1区 51号	De−1G		方形か	N−24.5°−E	92	46	37		第 91図			
1区 52号	De−1G	除外	不定形	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可					
1区 53号	De·d−1G	除外	不定形	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可					
1区 54号	De−1G		方形	N−25°−E	241	148以上	23		第 85図			
1区 55号	De−1G		方形	N−35.5°−E	206	100以上	67		第 85図			
1区 56号	Db−1G		方形か	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可				第 79図	PL46
1区 57号	Da·b−1G		方形	N−60°−E	80以上	110	22.5		第 88図			
1区 58号	Da−1G	除外	方形か	N−49°−W	測定不可	測定不可	測定不可					
1区 59号	Ft−0G		細長方形	N−49°−W	162	35	32.5		第 97図			
1区 60号	Ft−0G		細長方形	N−49°−W	199	63	27		第 97図			
1区 61号	Ft−0G		細長方形	N−57.5°−W	142	46	9		第 98図			
1区 62号	Et−19、Ft·Da−0G		細長方形	N−47.5°−W	447	44	33		第 95図			
1区 63号	Da·b−0、Cb−19G		細長方形	N−59°−W	522	50	28		第 95図			
1区 64号	Da−0G		細長方形	N−54°−W	163	45	11.5		第 98図			
1区 65号	Da−0G		楕円形	N−53°−E	143	105	27		第 83図			
1区 66号	Db−0G		円形	−	249	−	45.5		第 80図			
1区 67号	Dd−0G		方形か	N−47.5°−E	103	52以上	28.5		第 94図			
1区 68号	Ce−19、De−0G	除外	不定形	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可					
1区 69号	Cg·h−19G		長方形	N−33°−E	113	72	26		第 93図			
1区 70号	Ch−18·19G		楕円形	N−46°−W	64以上	65	10.5					
1区 71号	欠番											
1区 72号	Ch−18G		方形	N−29°−W	168	139	36		第 86図			
1区 73号								第1分冊				
1区 74号	Ch−17G		方形	N−61°−E	193	156	55.5		第 87図			
1区 75号								第1分冊				
1区 76号	Ci−16G		円形	N−18°−W	108	98	15.5		第 81図			
1区 77号	Ci−15·16G		円形	N−13°−W	80	75	45.5		第 81図			
1区 78号	Ch−15·16G		円形	N−26°−E	145	125	21		第 80図			
1区 79号	Ch−16G		円形	N−25°−W	120	112	20		第 81図			
1区 80号								第1分冊				
1区 81号	Cg−17G		方形	N−31°−E	92	89	14.5		第 89図			
1区 82号								第1分冊				
1区 83A号	Cg−16G		方形	N−68°−W	87	69	10		第 89図			
1区 83B号	Cf−16G	除外	不定形	N−66°−E	測定不可	測定不可	9					
1区 84A号	Cg−16G	除外	不定形	N−39°−E	119	119	22					
1区 84B号	Cf−16G		方形	N−31.5°−E	133	95	18		第 88図			
1区 85A号	Cg−16G	除外	不定形	測定不可	測定不可	測定不可	6					
1区 85B号	Cf−16G		方形	N−32.5°−E	76	72	9		第 89図			
1区 86号	Cg−15G		細長方形	N−51°−E	159	73	35		第 96図			
1区 87号	Cg−15G		細長方形	N−27°−E	173以上	53	20		第 96図			
1区 88号								第1分冊				
1区 89号	Ci−15G		方形	N−57°−W	155	132	36.5		第 87図			
1区 90号	Cf−17G		方形	N−24°−E	88	74	33.5		第 89図	PL19		
1区 91号	Cf·g−17G		長方形	N−61°−W	83	60	47		第 93図			
1区 92号	Cf−19G		長方形	N−68.5°−W	210	116	63.5		第 90図	PL19		
1区 93号	Cg−11·12G		長方形	N−67.5°−W	241	136	42.5		第 90図			
1区 94号	Ch−11G		長方形	N−31°−E	170	89	45.5		第 92図			
1区 95号	Ch−11G	柱穴		N−23.5°−E	67	46	31.5					
1区 96号	Cg·h−11G		長方形	N−58.5°−W	117以上	99	35.5		第 90図			
1区 97号	Cg−10·11G		方形	N−32.5°−E	148	108	32		第 88図			

土坑番号	グリッド		平面形	長軸方向	長軸cm	短軸cm	深さcm	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
1区 98号	Cg−11G		方形か	N−28°−E	106	31以上	39.5		第 94図			
1区 99号	墓坑	土坑墓										
1区100号	Cg·h−10G		楕円形	N−15°−W	397	301	24.5	P132	第 82図		第 79図	PL46
1区101号	欠番											
1区102号	Cg−12G		方形	N−71°−W	98	54以上	40		第 88図			
1区103号	Cg−12G		隅丸方形か	N−25.5°−W	130	89以上	35		第 88図			
1区104号	Cg−12G		長方形	N−28°−E	164	80	20.5		第 93図			
1区105号	Cd·e−19G		隅丸長方形	N−55°−W	257	141	28		第 84図			
1区106号	Cf−18·19G	除外	不定形	N−7.5°−E	322	238	27					
1区107号	Cf·g−12·13G		長方形か	N−71°−W	219	101以上	11.5					
1区108号	Cd·e−17G		隅丸方形	N−30.5°−E	48	33	31	P132	第 78図			PL46
1区109号	Cf·g−12G		方形か	N−66°−W	94	79	19.5		第 97図			
1区110号	Cf−16·17G		方形	N−72°−W	110	74	39		第 87図	PL20		
1区111号	Cf−16·17G		方形	N−65°−W	96	80	20		第 87図			
1区112号	Cf−16·17G		長方形	N−59°−W	160以上	92	26		第 92図	PL20		
1区113号	Cf−16G		細長方形	N−26°−E	222	66	22		第 97図			
1区114号	Ce·f−15G		長方形	N−26°−E	131	56	24		第 93図			
1区115号	Ce·f−16G		方形	N−66°−E	107	93	31		第 89図			
1区116号	Cc·d−16·17G		楕円形	N−45.5°−W	264	190	75.5		第 82図			
1区117号	Cc·d−18G		楕円形	N−41°−E	110	74	45.5		第 83図			
1区118号	Cb·c−16G		長方形	N−26.5°−E	216	100	28.5		第 92図			
1区119号	Cd·e−16G		細長方形	N−27°−E	284	85	26		第 97図			
1区120号	Cd·e−15·16G		細長方形	N−30.5°−E	245	60	36		第 97図			
1区121号	Ce−16·17G		隅丸長方形	N−75°−W	111	70	48.5		第 84図			
1区122号	Ce−16·17G		楕円形	N−45°−E	186以上	113	45.5		第 82図			
1区123号	Cf−17G		細長方形	N−26°−E	227	48	39		第 97図	PL20		
1区124号	Do−3G		楕円形	N−41°−W	217以上	175	46		第 82図			
1区125号	Cf−9G		円形	N−68.5°−W	65	64	15.5		第 81図			
1区126号	Ce−9G		長方形	N−79°−E	115	70	26.5		第 93図			
1区127号	Ce−9G		楕円形	N−74.5°−E	80	54	31.5		第 83図			
1区128号								第1分冊				
1区129号	Cg−16·17G		円形	N−53.5°−W	118	108	19.5		第 80図			
1区130号	Ce·f−14·15G		細長方形	N−27.5°−E	145以上	53	22.5		第 97図			
1区131号	Ce·f−14G		細長方形	N−21.5°−E	105以上	51	18		第 97図			
1区132号	Ce·f−14G		長方形	N−22°−E	141以上	50以上	21		第 97図			
1区133号	Ce·f−14G		細長方形	N−20°−E	143以上	64	12.5		第 97図			
1区134号	Cf−14G		長方形	N−15°−E	88以上	98	33	P132	第 97図		第 79図	
1区135号	Cf−14·15G		細長方形	N−19°−E	134以上	58	37		第 97図			
1区136号	Ce·f−14G		細長方形	N−65°−W	130以上	50	6.5		第 97図			
1区137号	Ce·f−13·14G		方形か	N−69°−W	366以上	235以上	15.5		第 94図			
1区138号	Cf−14G		方形か	N−74°−W	90以上	60以上	14		第 97図			
1区139号	Cf−14G		細長方形	N−26°−E	60以上	56以上	12		第 98図			
1区140号	Cf−14G		細長方形	N−76.5°−W	368以上	59	22		第 96図			
1区141号	Cf−14G		細長方形	N−22°−E	169	50.5	27		第 98図			
1区142号	Cf−14G		細長方形	N−21°−E	150以上	53	36		第 99図			
1区143号	欠番											
1区144号	Cf−14G		細長方形	N−14°−E	120以上	47	37		第 99図			
1区145号	Cf−13·14G	除外	不定形	N−6.5°−E	227	111	25					
1区146号	Cf−14G		楕円形	N−24°−E	132	87	86.5	P132	第 83図		第 79図	PL46
1区147号	欠番											
1区148号	Cf−14G	除外	不定形	N−50.5°−E	測定不可	測定不可	11					
1区149号	Cf·g−13G		細長方形	N−71°−E	測定不可	60	31		第 99図			
1区150号	Cf−13G		方形	N−27°−E	181	130	50.5		第 88図			
1区151号	Cf−12·13G	除外	不定形	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可					
1区152号	Ce·f−13G		長方形	N−33°−E	99	57	15		第 93図			
1区153号		土坑墓										
1区154号	Cf−12·13G		細長方形	N−34°−W	266	66	34		第 96図			
1区155号	Cf−12G		楕円形	N−26°−E	140	110	33.5		第 82図			
1区156号	Cg−12·13G		細長方形	N−66°−W	247	80	27		第 97図			
1区157号	Cf−12G	除外	不定形	N−2°−W	120	84	32.5					
1区158号	Cf·g−12G		細長方形	N−66°−W	179	41.5	21.5		第 97図			

土坑番号	グリッド		平面形	長軸方向	長軸 cm	短軸cm	深さcm	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
1区159号	Cf−12G		長方形	N−61°−W	66以上	43	19		第 93図			
1区160号	Cf−12G	除外	不定形	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可					
1区161号	Cf−11·12G		細長方形	N−72°−W	231	64	30		第 98図			
1区162号	Cf−12G		細長方形	N−63°−W	238	80	33		第 96図			
1区163号	欠番											
1区164号	Cf−12G		長方形	N−28°−E	149以上	86	23		第 92図			
1区165号	Cf−12G		方形	N−65°−W	100	72	34		第 89図			
1区166号	Cf−11·12G		方形	N−32°−E	131	94	35		第 89図			
1区167号	Ce·f−11·12G		方形	N−19°−E	138以上	143	21.5		第 87図			
1区168号	Ce−12G		方形	N−24°−E	98以上	124	53.5		第 87図			
1区169号	欠番											
1区170号	Ce·f−11G		長方形	N−64°−W	158以上	127以上	42		第 91図			
1区171号	Cf−11·12G		細長方形	N−64°−W	193	57以上	28.5		第 98図			
1区172号	Cf−11G		長方形	N−66.5°−W	208以上	102	28.5		第 92図			
1区173号	Cf−10G		方形	N−64°−W	107以上	116	13.5		第 87図			
1区174号	Ce−10G		楕円形	N−61°−W	87	69	33		第 83図			
1区175号	Ce−10G		細長方形	N−59°−W	176以上	66以上	18.5		第 97図			
1区176号	Ce−10G		方形か	N−14°−E	測定不可	測定不可	14.5		第 97図			
1区177号	Ce−19G		円形	N−27°−E	86	80	29.5		第 81図			
1区178号	Ce−18·19G		円形	N−9.5°−E	73	65	25		第 81図			
1区179号	Cd−18G		長方形	N−55°−W	115	75	10		第 93図			
1区180号	欠番											
1区181号	Ch·i−17G		円形	N−28.5°−E	52	44	16		第 81図			
1区182号	Cb·c−15·16G		細長方形	N−42°−E	203	109	44		第 96図			
1区183号	Cb·c−14G		円形	N−26°−E	119	117	33		第 81図			
1区184号	Cc·d−14·15G		方形	N−61.5°−W	392	311	42.5		第 85図		第 79図	PL47
1区185号	Cc·d−14G		楕円形	N−9°−E	128	64	49.5		第 83図			
1区186号	Cd−14·15G		楕円形	N−22°−E	116以上	112	17		第 83図			
1区187号	欠番											
1区188号	Ce−15G		細長方形	N−21°−E	186以上	54	14.5		第 98図			
1区189号	Ce−14G		細長方形か	N−22°−E	106以上	59	37		第 99図			
1区190号	Ce−14G		細長方形	N−66.5°−W	161以上	56	26.5		第 98図			
1区191号	Cd·e−13G	除外	不定形	測定不可	測定不可	測定不可	21					
1区192号	Cd−13G		細長方形	N−64.5°−W	116	50	14		第 98図			
1区193号	Cd−13G		細長方形	N−26°−E	150以上	55	16		第 99図			
1区194号	Cd−12·13G	除外	不定形	測定不可	測定不可	測定不可	18					
1区195号	Cd−12·13G		長方形	N−80°−W	128	69	20		第 93図			
1区196号								第1分冊				
1区197号	Cd−12G		長方形	N−65.5°−W	161	106	38		第 92図			
1区198号	Cc·d−12·13G		方形	N−69°−W	264	172	16		第 85図			
1区199号	Cc·d−12·13G		方形	N−64°−W	105	100	28.5		第 89図			
1区200号	Cc−13G	除外	不定形	N−68°−W	測定不可	測定不可	18					
1区201号	Cc−13G	除外	不定形	N−2°−E	126以上	88	25					
1区202号	Cc−13G		方形	N−72°−W	測定不可	測定不可	27.5		第 86図			
1区203号	Cb·c−13G		楕円形	N−34.5°−E	212	181	24		第 82図			
1区204号	Cc−12·13G		長方形	N−28°−E	109以上	83	18.5		第 93図			
1区205号	Cc·d−12G		細長方形	N−68°−W	92以上	43	15		第 98図			
1区206号	Cc−12·13G		方形か	N−64°−W	141以上	97	15.5		第 94図			
1区207号	Cc−12G	除外	不定形	N−3°−W	74以上	85以上	14					
1区208号	Cc·d−11·12G		方形	N−18°−W	106	74	29.5		第 89図			
1区209号	Cd−12G		細長方形	N−64.5°−W	198	40	29		第 98図			
1区210号	Cd−12G		隅丸方形	N−65°−W	117	86以上	16		第 84図		第 79図	
1区211号	Cd−12G		細長方形	N−66.5°−W	279	53	32		第 96図			
1区212号	Cd−11·12G		細長方形	N−21°−E	測定不可	測定不可	22		第 99図			
1区213号	Cd−11·12G		方形	N−9°−E	121以上	106	28.5		第 89図			
1区214号	Cd−11·12G		方形か	N−76°−E	91	65	23		第 94図			
1区215号	Cd−12G		細長方形	N−63.5°−W	142以上	43	32		第 98図			
1区216号	Ce−11G		方形	N−63°−W	114	96	35		第 89図			
1区217号	Ce−11·12G		方形か	N−26°−E	97以上	100	56		第 94図			
1区218号	Cd·e−12G	除外	不定形	測定不可	測定不可	測定不可	57					
1区219号	Ce−12G		長方形か	N−30°−E	53以上	60	18		第 93図			

土坑番号	グリッド		平面形	長軸方向	長軸cm	短軸cm	深さcm	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
1区220号	Ce·f−13G		長方形か	N−14°−E	71以上	60	32		第 93図			
1区221号	Ce−11G		方形	N−67°−W	93	82	39.5		第 89図			
1区222号	Ce−10·11G		方形	N−27°−E	88	93	27		第 89図			
1区223号	Ce−10G		楕円形	N−30°−E	65以上	68.5	16		第 83図			
1区224号	Cd·e−10G		細長方形	N−74°−W	206	57	14		第 98図			
1区225号	Cd−10·11G		方形	N−81°−W	264	187	51	P132	第 85図		第 79図	PL47
1区226号	Cd−11G		細長方形	N−72°−W	144以上	54	10		第 98図			
1区227号	Cd−10G	除外	不定形	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可					
1区228号	Cd−11G		方形か	N−21.5°−E	123	99	20		第 94図			
1区229号	Cd−11G		方形か	N−35°−E	125	111	49		第 94図			
1区230号	Cd−10·11G		円形	N−77.5°−W	109	104	32		第 81図			
1区231号	Cd−10·11G		長方形か	N−19°−E	160以上	113.5以上	19					
1区232号	Cd−10G		方形か	N−28°−E	208以上	160以上	11		第 94図			
1区233号	Cc·d−10·11G		長方形	N−60.5°−W	157.5	96	33		第 92図			
1区234号	Cc·d−11G		隅丸方形	N−33°−E	169	133	36		第 84図			
1区235号	Cd−11G		円形	−	78	−	48		第 81図			
1区236号	Cc−11G		長方形	N−38°−E	133	92	37		第 93図			
1区237号	Cc−11G	柱穴		N−60.5°−W	93	54	28					
1区238号	Cc−11G		長方形	N−64°−W	143	77	17.5		第 93図			
1区239号	Cc−10·11G		長方形	N−33°−E	156	106	19.5		第 92図			
1区240号	Cc−10G		方形か	N−26°−E	測定不可	測定不可	1.5					
1区241号	Cb·c−10G		方形か	N−28.5°−E	172	131以上	18.5					
1区242号	Cb·c−19G		細長方形	N−31°−E	124	38	16		第 98図			
1区243号	Cb−19G		細長方形	N−43.5°−E	95以上	34	22		第 98図			
1区244号	Cb·c−19G		細長方形	N−32°−E	240以上	58	37		第 97図			
1区245号	Cb−19G		細長方形	測定不可	測定不可	測定不可	26.5		第 95図			
1区246号	Cb−19G		長方形	N−60°−W	190以上	98以上	31		第 95図			
1区247号	Cb−18·19G		細長方形	N−56.5°−W	298以上	55以上	39		第 95図			
1区248号	Cb−18·19G		細長方形	N−51°−W	135	34	17.5		第 95図			
1区249号	Cb−18G		細長方形	N−58°−W	198	50	45.5		第 95図			
1区250号	Cb−18G		細長方形	N−51°−W	290	65	50.5		第 95図			
1区251号	Cb−17·18G		細長方形	N−54.5°−W	360以上	77	39		第 95図			
1区252号	Cb−17·18G		方形	N−63.5°−W	195	121以上	14		第 86図			
1区253号	Cb−18G		楕円形	N−74°−W	124	46以上	35		第 83図			
1区254号	Ca·b−17·18G		細長方形か	N−48.5°−W	150以上	38	39.5		第 99図			
1区255号	Ca−18G		楕円形か	N−35°−E	94以上	117	42		第 99図			
1区256号	Ca·b−18·19G		細長方形	N−58.5°−W	482以上	52	31.5		第 95図			
1区257号	Ca·b−18G		方形か	測定不可	測定不可	測定不可	31.5		第 94図			
1区258号	Ca−19G		円形	−	82	−	63		第 81図			
1区259号	Ca·b−19G		細長方形	N−18°−E	330以上	60	40.5		第 95図			
1区260号	Ca·b−19G		細長方形	N−20°−E	254	26以上	38.5		第 95図			
1区261号	Ca−19G		細長方形	N−29°−E	238	94	49		第 95図			
1区262号	Ca−19G		細長方形	N−59°−W	61以上	41	19.5		第 96図			
1区263号	Et·Ca−19G		細長方形	N−27°−E	364	52	29		第 96図			
1区264号	Ca−19G	除外	不定形	N−43°−E	217	129	11.5					
1区265号	Ca−18·19G		細長方形	N−58°−W	274	54	19.5		第 97図			
1区266号	Ca−18G		方形	N−64°−W	183	137	31		第 87図			
1区267号	Ca−17·18G		長方形	N−12°−W	240	127	29.5		第 90図			
1区268号	Et·Ca−18G		長方形	N−26°−E	221	128	13		第 90図			
1区269号	Et−18G		長方形	N−11°−W	247	107	28.5		第 91図			
1区270号	Et−17·18G		方形	N−28°−E	122	88	17		第 89図			
1区271号	Et−18G		方形か	N−72.5°−W	140	77以上	22					
1区272号	Ca−18·19G	除外	不定形	N−36°−W	測定不可	測定不可	測定不可					
1区273号	Et−19G		円形	−	98	−	78.5		第 81図			
1区274号	Et−18·19G		細長方形か	N−63°−W	249以上	59	17		第 99図			
1区275号	Et−19G		方形	N−21°−W	82	79	20		第 89図			
1区276号	Et−19G		細長方形	N−24°−E	54以上	33	15.5		第 98図			
1区277号	Et−18G		方形か	N−27.5°−E	54以上	71	16.5		第 94図			
1区278号	Cb−17G		長方形	N−59°−W	140	60	11.5		第 93図			
1区279号	Ca·b−17G		細長方形	N−54°−W	229	64	40		第 98図			
1区280号	Ca−17G		円形	N−66°−E	82	78	73		第 81図			

土坑番号	グリッド		平面形	長軸方向	長軸cm	短軸cm	深さcm	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
1区281号	Ca−16G		隅丸方形	N−8.5°−E	103	64	17.5		第 84図			
1区282号	Cb-15·16G		細長方形か	N−38°−E	57以上	68	41.5		第 99図			
1区283号	Cb−15·16G	除外	不定形	測定不可	測定不可	測定不可	15.5					
1区284号	Ca·b−16G		細長方形	N−35.5°−E	378	68	23.5		第 96図			
1区285号	Ca−16G	除外	不定形	N−42.5°−E	187	72	13					
1区286号	Ca−15·16G	除外	不定形	N−33°−E	177	112以上	18.5					
1区287号	Ca−15·16G		細長方形	N−69°−E	118以上	57	22		第 99図			
1区288号	Ca·b−15G		細長方形	N−36°−E	269	56	35.5		第 97図			
1区289号	Et·Ca−16G		細長方形	N−35.5°−E	257以上	58	19		第 96図			
1区290号	Et·Ca−16G		楕円形	N−19°−E	222	123	21.5		第 82図			
1区291号	Et−16G		円形	N−73°−E	137以上	136	50.5		第 80図			
1区292号	Et−16G		細長方形	N−37.5°−E	196	57	40		第 98図			
1区293号	Es·t−16G		円形か	N−18°−E	70以上	104	20		第 81図			
1区294号	Cb−15G		円形	N−86°−W	90以上	108	16		第 81図			
1区295号	Cb−14G		長方形	N−29°−E	268	132	48		第 91図			
1区296号	Cb−13·14G		方形	N−30°−W	164	136	23.5		第 87図			
1区297号	Ca−14·15G		細長方形	N−65°−W	360以上	45	19		第 96図		第 79図	PL47
1区298号	Ca·b−15G	除外	不定形	N−53.5°−E	166	23	15					
1区299号	Ca−14G		細長方形	N−72°−W	101	48	24		第 99図			
1区300号	Ca−14G		細長方形	N−66.5°−W	87以上	67	8		第 92図			
1区301号	Ca−14G		長方形	N−28.5°−E	127	100	12		第 92図			
1区302号	Ca−14G		長方形	N−64°−W	177以上	101以上	16		第 92図			
1区303号	Et·Ca−14G		長方形	N−37.5°−E	244	112	29.5		第 92図			
1区304号	Ca−13G		長方形	N−69°−W	111	72	11.5		第 93図			
1区305号	Cb−13G		方形	N−68.5°−W	113	36以上	17.5		第 86図			
1区306号	Cb−13G		方形	N−71°−W	174以上	159	18.5		第 86図			
1区307号	Cb−13G		長方形	N−32°−E	191	98	28		第 92図			
1区308号	Cb−13G		楕円形	N−28°−E	109	56	52		第 83図			
1区309号	Ca·b−12·13G	除外	不定形	測定不可	測定不可	測定不可	11					
1区310号	Ca−12·13G	除外	不定形	測定不可	測定不可	測定不可	14.5					
1区311号	Ca−12G		細長方形	N−65°−W	168	34	17.5		第 98図			
1区312号	Cb·c−12G		方形	N−21°−E	119以上	141	27.5		第 86図			
1区313号	Cb−12G		方形	N−4°−E	51以上	64	10		第 89図			
1区314号	Cb−12G	除外	不定形	N−0°	103以上	108	19					
1区315号	Cb−11·12G		方形	N−22°−E	169	128	55.5		第 88図			
1区316号	Cb−11·12G		長方形	N−64.5°−W	106以上	58	13		第 93図			
1区317号	Cb−12G		長方形	N−22°−E	85	45	10.5		第 93図			
1区318号	Ca·b−12G		円形	N−16.5°−W	97	84	33		第 81図			
1区319号	Ca−11·12G		方形	N−45°−E	117以上	112	16		第 88図			
1区320号	Ca−12G		方形	N−78°−W	158	115	39.5		第 88図			
1区321号	Ca−11·12G		方形	N−13.5°−E	181以上	161	19		第 88図			
1区322号	Cb·c−12G		楕円形	N−48.5°−E	73	59	46.5		第 83図			
1区323号	Cb−11G		長方形	N−26°−E	128以上	133	30		第 91図			
1区324号	Cb−11G		長方形	N−75°−W	217以上	156	30		第 91図			
1区325号	Cb−10G		長方形	N−25°−E	149	85	61.5		第 93図			
1区326号	Cb−10·11G		長方形	N−4°−E	208以上	137	52		第 91図			
1区327号	Ca−11G		長方形	N−68.5°−W	217	123	23		第 92図			
1区328号	Et−11G		長方形	N−19.5°−W	64以上	107	20.5		第 92図			
1区329号	Et−11G		方形	N−65°−W	174	144	45		第 88図			
1区330号	Et−11G		方形	N−76°−W	136	106	21.5		第 89図			
1区331号	欠番											
1区332号	Cc−12G		方形	N−32°−E	142	141	15		第 88図			
1区333号								第1分冊				
1区3号竪穴	Cm−18G		円形	N−75.5°−W	231	212	39		第80図	PL20·21		
1区7号竪穴	Ck−17·18G		円形	N−19°−E	252	228	63		第80図	PL20·21		
1北区1号	Er·s−19,Fr·s−0G		隅丸長方形	N−69°−W	173	112	41		第118図			
1北区2号	Fs−0G		方形	N−51°−W	133	116	33.5		第118図			
1北区3号	Es−19,Fs−0G		細長方形	N−68.5°−W	334	78	29		第118図			
1北区4号	Fq−0G		方形	N−75°−W	150	100	16		第118図			
1北区5号								第1分冊				
1北区6号	Fh·i−4G		方形か	N−36.5°−E	165	143	73		第118図			

土坑番号	グリッド		平面形	長軸方向	長軸cm	短軸cm	深さcm	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
1北区7号	Fh·i−4G		隅丸長方形	N−28°−E	190	99	48	P151	第118図			
1北区8号	Fh−4G		方形か	N−65°−W	62以上	87	18		第118図			
2区 1号		土坑墓										
2区 2号		火葬跡										
2区 3号		火葬跡										
2区 4号	Ib−10·11G		円形	N−37°−W	47	42	12		第135図	PL24·28		
2区 5号	Ia·b−10G		長方形	N−49°−W	178	103	17		第137図	PL26		
2区 6号	Ia−10G		円形	N−43°−W	102	96	27		第135図	PL24		
2区 7号	Ib−9G		円形	N−26.5°−E	99	95	18.5		第135図	PL24		
2区 8号	Lt·Ia−11G		円形	N−41.5°−W	105	102	24.5		第135図	PL24		
2区 9号	Lt·Ia−11G		楕円形	N−47.5°−W	64以上	98	14		第135図	PL24		
2区 10号		土坑墓										
2区 11号	Ls−7G		楕円形	N−20°−E	105	73	41		第136図	PL26		
2区 12号		火葬跡										
2区 13号	欠番											
2区 14号	Lr−12G		楕円形	N−63°−W	143	117	14		第136図	PL25		
2区 15号	Lq·r−12·13G		隅丸方形	N−18°−W	106	90	12.5		第137図			
2区 16号	Lq−13G		楕円形	N−66°−W	114	80	22.5		第136図	PL25		
2区 17号	Lq−13G		円形	N−72°−W	75	68	8		第135図	PL24		
2区 18号		火葬跡										
2区 19号	Ie−11G		方形	N−15°−W	77	64	48.5		第137図	PL26		
2区 20号	Ls−11G		楕円形	N−64°−W	75	62	11		第136図	PL25		
2区 21号	Lr−11G		方形	N−79°−W	76	73	20		第137図	PL26		
2区 22号	Ls−8G		円形	N−66°−E	84	65	20.5		第137図			
2区 23号		土坑墓										
2区 24号		土坑墓										
2区 25号		土坑墓										
2区 26号	Ib·c−9G		楕円形	N−48°−W	95	75	35		第136図	PL25		
2区 27号		土坑墓										
2区 28号	Lt·Ia−12·13G		方形	N−65°−W	117	110	26.5		第137図	PL26		
2区 29号	Lr−11G		楕円形	N−15°−E	117	76	25.5		第136図			
2区 30号		火葬跡										
2区 31号		土坑墓										
2区 32号	Ii−10G		楕円形	N−50.5°−W	127	105	24.5		第136図			
2区 33号								第1分冊				
2区 34号	Id−11G		円形	N−12°−W	130	115	33		第135図	PL24		
2区 35号	Ic·d−11G		楕円形	N−61°−E	174	134	45		第136図	PL25		
2区 36号	Ib·c−9·10G		円形	N−24°−E	106	103	18		第135図	PL24		
2区 37号		火葬跡										
2区 38号	平断面図所在不明の為、詳細は不明									PL32		
2区 39号		火葬跡										
2区 40号		土坑墓										
2区 41号		土坑墓										
2区 42号		土坑墓										
2区 43号	Ia−5·6G		隅丸方形	N−13.5°−E	119	83	43.5		第137図	PL26		
2区 44号		土坑墓										
2区 45号		土坑墓										
2区 46号	Lt−8G		円形	N−84°−E	69	59	29		第135図	PL24		
2区 47号	Lt−8G		方形	N−7°−E	122	87	43		第137図	PL26		
2区 48号		土坑墓								PL33·34		
2区 49号	Ib−8G		楕円形	N−49.5°−E	105	86	43		第136図			
2区 50号		竪穴状遺構										
2区 51号		土坑墓										
2区 52号	Ib−4G		楕円形	N−6°−W	116	68	22		第136図	PL25		
2区 53号		土坑墓										
2区 54号	Ia−2G		長楕円形	N−61°−W	84	25	27		第137図	PL25		
2区 55号	Lp−0G		隅丸方形	N−6°−E	92	63	25.5		第137図	PL26		
2区 56号								第1分冊				
2区 57号	Lp·q−7G		長方形	N−73°−W	114	72	10.5		第137図	PL27		
2区 58号								第1分冊				
2区 59号								第1分冊				

土坑番号	グリッド		平面形	長軸方向	長軸cm	短軸cm	深さ cm	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
2区 60号								第1分冊				
2区 61号		土坑墓										
2区 62号		土坑墓										
2区 63号		土坑墓										
2区 64号	Ih−9G		長方形	N−26°−E	122	79	8		第137図	PL27		
2区 65号		土坑墓										
2区 66号	Ig−9G		楕円形	N−64°−W	86以上	90	11		第136図	PL34		
2区 67号	Ig−10G		楕円形	N−62.5°−W	95	75	28		第136図	PL25		
2区 68号	Ie−9G		長方形	N−56°−W	140	84	16		第137図	PL27		
2区 69号	Id−10G		長方形	N−63.5°−W	135	91	29		第137図	PL27		
2区 70号		土坑墓										
2区 71号	Ic−9G		長方形	N−83°−W	96	68	23		第137図	PL27		
2区 72号	Ic−9G		長方形	N−22°−E	148	75	37		第137図	PL27		
2区 73号	Ib−12G		長方形	N−42°−E	108	63	44.5		第137図	PL27		
2区 74号								第1分冊				
2区 75号								第1分冊				
2区 76号								第1分冊				
2区 77号								第1分冊				
2区 78号								第1分冊				
2区 79号								第1分冊				
2区 80号								第1分冊				
4区 1号	Lq−12G		楕円形	N−26.5°−E	138	95	39	P180	第146図	PL35		

7．荒砥宮田遺跡 竪穴状遺構一覧表

竪穴番号	グリッド		平面形		長軸方向	長軸cm	短軸cm	深さcm	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
1区1号	Aj-8·9G		長方形		N-64°-W	348	211	46	P133	第100図			
1区2号	Aj-11G		長方形		N-70°-W	325	243	40	P133	第100図	PL20		
1区3号		土坑へ											
1区7号		土坑へ											
1区4号	C·Dk-19·0G		長方形	本体	N-67°-W	285	184	100	P135	第101図	PL20·21		
			北東隅に突出部	突出部	N-58°-E	78	76	96					
1区5号	Cp·q-18·19G		長方形	本体	N-27.5°-E	315	122	81.5	P135	第101図	PL21		
			東側中央に突出部	突出部	N-50°-W	109	73	68.5					
1区6号	Cj·k-19·Dk-0G		楕円形と思われる			測定不能	測定不能	測定不能	P135	第102図	PL20·21		
1区8号	C·Di-19·0G		隅丸方形	本体	N-40°-E	296	265	75.5	P135	第102図	PL20·21		
			東側に突出部	突出部	N-56°-W	118	63	52					
1区9号	C·Di-19·0G		隅丸方形	本体	N-75°-W	422	176	82.5	P135	第102図	PL20		
			東側に突出部	突出部		測定不能	測定不能	測定不能					
1区10号	Di-0G		方形	本体		測定不能	測定不能	測定不能	P135	第102図			
			南東部に突出部	突出部	N-50°-W	124	107	24.5					
1区11号	C·Dh·i-19·0G		隅丸方形	本体	N-29°-E	229	217	56	P135·140	第103図		第103図	
			東側中央に突出部	突出部	N-69°-W	103	50	50.5					
1区12号	Dh·i-0G		方形と思われる	本体		190以上			P135·140	第103図			
			東南部に突出部	突出部	N-24°-W	111	74	36					
1区13号	Dh·i-0G		隅丸方形	本体	N-64°-W	369	265	82.5	P140	第104図			
			南東部に突出部	突出部	N-80°-W	184	81	71					
1区14号	Dg-0G		隅丸方形	本体	N-23°-E	320	209以上	47	P140·141	第104図	PL21		
			東南部に突出部	突出部	N-63°-W	127以上	82	84.5					
1区15号	Dg-0G		長方形		N-33°-W	319	126	59	P141	第105図	PL21		
1区16号	Cf-0,Dg-0·1G		不明		測定不能	測定不能	測定不能	測定不能	P141	第105図	PL21		
1区17号	Df-0G		不明		測定不能	測定不能	測定不能	測定不能	P141	第105図	PL21		
1区18号	De·f-0·1G		隅丸方形	本体	N-24°-W	237	232	64	P141	第105図	PL21	第106図	PL47·48
			南東部に突出部	突出部	N-54°-W	173	75	90.5					
1区19号	De·f-0G		方形。全体形状は不明		N-64°-W	283	測定不能	測定不能	P141	第105図	PL21		
1区20号	De-0·1G		隅丸方形	本体	N-81°-W	265	229	51.5	P141·143	第107図	PL21	第107図	PL48
			東側に突出部	突出部	N-74°-W	105	78	60					
1区21号	De-0·1G		不定形		N-83°-W	314	245以上	57.5	P143	第108図	PL21	第108図	PL48
1区22号	Dd-0·1G		方形	本体	N-25°-E	254	217	78.5	P143	第109図	PL21		
			東側に突出部	突出部	N-70°-W	56以上		35					
1区23号	Dd-0·1G		方形と推定。		N-81°-W	241	測定不能	50以上	P143	第109図	PL21		
1区24号	Dc·d-0·1G		長方形	本体	N-46°-W	257	200	70.5	P143·144	第109図	PL21	第109図	PL48
			東側に突出部	突出部	測定不能	測定不能	測定不能	測定不能					
1区25号	Dc·d-0·1G		方形と思われる		N-60°-W	242	測定不能	41.5	P143·144	第109図	PL21		
1区26号	Db·c-1G		隅丸方形	本体	N-25°-E	297	224	61	P144	第110図	PL21	第110図	PL48
			東側に突出部	突出部	測定不能	測定不能	測定不能	測定不能					
1区27号	Db-1G		隅丸方形	本体	N-35°-E	375以上	239	62.5	P144·145	第111図	PL21	第112図	PL48·49
			東側に突出部	突出部	N-57°-W	117	90	48					
1区28号	Da·b-1G		隅丸方形か。突出部不明		N-45°-E	293以上	237	38.5	P144·145	第111図	PL21	第112図	PL49
1区29号	Cc·d-10G		不整方形	本体	N-63°-W	283	185	84.5	P145	第113図	PL21	第113図	PL49
			南東部に突出部	突出部	N-27°-E	80	115	64					
1区30号	Cc-10G		長方形	本体	N-59°-W	253	177	78	P145	第113図	PL21	第113図	PL49
			東側に突出部	突出部	N-62°-W	112	100	50					
2区50号	If·g-7·8G		長方形	本体	N-38°-E	247	202	173	P159·160	第126図	PL27	第126図	PL52·53
			南東部に突出部	突出部	N-39°-W	108	74	143					

8．荒砥宮田遺跡　墓一覧表

土坑番号	グリッド		平面形	長軸方向	長軸cm	短軸cm	深さcm	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
1区 99号	Cg−11G	土坑墓	隅丸長方形	N−36.5°−E	112	52以上	35.5	P147	第114図		第114図	PL49
1区153号	Cf−12·13G	土坑墓	台形	N−5°−W	75	58.5	43.5	P147	第114図		第114図	PL49
2区 1号	Ig−10G	土坑墓	隅丸方形	N−56°−E	78	70	32	P160	第127図	PL31	第127図	PL52
2区 2号	Ib−10G	火葬跡	隅丸長方形。北辺中央に突出部	N−61.5°−E	109	a 66 b 77	19	P155	第122図	PL28		
2区 3号	Ib−11G	火葬跡	隅丸長方形。東辺中心に突出部	N−29.5°−E	150	a 74 b 94	25.5	P155	第123図	PL28		
2区 10号	Ls−9G	土坑墓	楕円形	N−2°−E	63	50	8.5	P160	第127図	PL31		
2区 12号	Ls−7G	火葬跡	隅丸長方形	N−15°−E	126	57	28	P159	第124図	PL29		
2区 18号	Lp−14G	火葬跡	楕円形	N−21°−E	107	63	12	P159	第125図	PL29		
2区 23号	Lp−3G	土坑墓	楕円形	N−21°−E	125	67	7.5	P160	第127図	PL31		
2区 24号	Lt−3G	土坑墓	不明	測定不可	測定不可	測定不可	16	P160	第127図			
2区 25号	Ia−6G	土坑墓	不整長方形	N−6°−E	99	80	60.5	P160	第127図			
2区 27号	Ij−9G	土坑墓	不整隅丸方形	N−78.5°−W	153	103	39	P160	第128図	PL31	第128図	PL52
2区 30号	Ls−10G	火葬跡	隅丸長方形。東辺中央に突出部	N−21°−E	137	a 52 b 79	16	P155	第123図	PL29		
2区 31号	If·g−9G	土坑墓	長方形	N−33°−E	98	61	41	P160·168	第128図	PL32	第128図	PL53
2区 37号	Ib−8G	火葬跡	隅丸長方形。北辺中央に突出部	N−27°−E	a 171 b 155	72	36.5	P159	第125図	PL29·30		
2区 39号	Ia·b−8G	火葬跡	隅丸長方形。西辺中央に突出部	N−19°−E	131	a 79 b 131	45	P155	第124図	PL30		
2区 38号	不明	土坑墓		N−36.5°−E						PL32		
2区 40号	Ib−6·7G	土坑墓	隅丸長方形	N−4°−E	105	55	47.5	P160	第129図	PL32	第129図	PL53
2区 41号	Ia−6G	土坑墓	長方形	N−5°−E	65	33	15.5	P160	第129図	PL32	第129図	PL53
2区 42号	Ia−6G	土坑墓	円形	N−12.5°−E	83	80	60	P160	第129図	PL33		
2区 44号	Lt−7G	土坑墓	楕円形	N−59°−E	85	74	52	P160	第130図	PL32	第130図	PL53
2区 45号	Lr−7·8G	土坑墓	隅丸方形	N−17°−E	103	77	36	P160	第130図	PL33	第130図	PL53
2区 48号	Lq−7G	土坑墓	長方形	N−29°−E	81以上	67	15	P160	第130図	PL33·34		
2区 50号	If·g−7·8G		長方形	N−35°−E	247	202	170	P159·160	第126図	PL27	第126図	PL52·53
2区 51号	If−8G	土坑墓	不整隅丸長方形	N−51.5°−E	155	105	42	P160·168	第131図	PL34	第131図	PL54
2区 53号	Ia·b−1G	土坑墓	不整隅丸長方形	N−54°−E	111	95	50	P160	第132図	PL34	第132図	PL53
2区 61号	Ij−8G	土坑墓	長方形	N−27°−E	91	61	32	P160	第132図	PL34	第132図	PL54
2区 62号	Ij−8G	土坑墓	不整長方形	N−7°−E	121	68	31	P160	第133図	PL35	第133図	PL54
2区 63号	Ii−9·10G	土坑墓	長方形	N−27°−E	88	61	10	P160	第134図	PL35	第134図	PL54
2区 65号	Ig−9G	土坑墓	長方形	N−27°−E	120	73	67	P160	第134図	PL34	第134図	PL55
2区 70号	Ic·d−9·10G	土坑墓	長方形	N−46°−W	93	69	17	P160·168	第131図	PL35		

9．荒砥宮田遺跡　畠一覧表

畠番号	グリッド	畝幅cm	畝間下半部溝の幅cm	畝間下半部溝の深さcm	畝間下半部溝の間隔cm	本文	遺構図	遺構写真
1区1号	Ai~k−7~9G	66~114	13~63	21	29~89	P24·29	第 13図	PL2
1区2号	Ae~g−9·10G	25~136	15~90	8.5	7~121	P24·29	第 13図	PL2
1区3号	Ab·c−9~11G	68~115	19~63	9	33~92	P24·29	第 13図	PL2·3
1区4号	Ae·f−10~12G	94~112	13~22	6	76~99	P24·29	第 13図	PL3
1区5号	Ad~f−13~15G	160~242	11~34	7.5	148~224	P24·29	第 13図	PL3

10．荒砥宮田遺跡　水田一覧表

水田名称	グリッド	アゼの幅cm	アゼの高さcm	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
1区洪水層下水田	Aa~k−8~18G	60~80	10	P29·30	第16図	PL3·4	第15図	PL36
2区東谷地浅間B軽石下水田	Ik~q−12~17G	−	−	P30	第17·18図	PL5		

11. 荒砥宮田遺跡土器観察表

1区水田出土土器観察表（第15図）

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	胎土	焼成 色調	整形外面 内面
433	須恵器 坏	埋土	口縁～底部 1/4	(12.0) 3.3	(7.6)	黒色鉱物細粒を多く含む。	還元焔焼成 N6/灰	内外面とも回転撫で調整。底部外面左回転糸切り離し。 無調整。

2区4号住居出土土器観察表（第19図　PL36）

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	胎土	焼成 色調	整形外面 内面
324	須恵器 椀	竈燃焼部 使用面上2.5cm	口縁～体部中位 1/6	(16.0) 3.3残		微細砂を多く含む。	還元焔焼成 5Y7/1灰白	内外面とも回転撫で調整。
325	須恵器 羽釜	北壁攪乱土中 床面上7cm	口縁～胴部上位 1/6	(18.0) 8.4残		直径1～2㎜の白色砂粒を含む。	還元焔焼成 5Y6/1灰	内外面とも回転撫で。
326	須恵器 高台付椀	埋土	体部下半～高台部　1/4	4.6残	(10.2)	直径0.5～1㎜の砂粒を含む。	還元焔焼成 7.5Y6/1灰	内外面とも回転撫で調整。

2区7号住居出土土器観察表（第20図　PL36）

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	胎土	焼成 色調	整形外面 内面
332	土師器 羽釜	竈燃焼部 使用面直上	鍔～胴部中位 1/4	14.2残	(31.0)	微細砂を多量に含む。	酸化焔焼成 10YR7/3にぶい黄橙	外面:撫で。鍔接合部丁寧な撫で。 内面:横方向箆撫で。 鍔部下1.5cmのところに直径0.5cmの焼成後穿孔。
333	須恵器 羽釜	竈燃焼部 使用面直上	口縁～胴部上半 1/5	(24.0) 13.5残		微細砂を含む。	酸化焔焼成 10YR7/4にぶい黄橙	内外面とも回転撫で。
334	須恵器 高台付椀	竈使用面下	口縁～底部 1/3	(13.8) 5.1	(8.3)	砂粒を多く含む。	酸化焔焼成 2.5Y7/2灰黄	内外面:回転撫で調整。回転方向不明。
335	土師器 鉢	竈使用面下	完形	9.5 6.5	3.4	微細砂、細砂を多く含む。	酸化焔焼成 10YR7/4にぶい黄橙	外面:体部横方向撫で。底部箆撫で。口縁部横撫で。 内面:体部横方向箆撫で。口縁部横撫で。
336	土師器 椀	貯蔵穴 埋土中	口縁～体部下位 1/5	(15.0) 3.6残		微細砂を多く含む。	酸化焔焼成 2.5Y6/2灰黄	外面:体部下位横方向箆削り。中位指撫で。口縁部横撫で。 内面:横方向箆磨き。内黒処理。

1区12号溝出土土器観察表（第53図　PL36）

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
469	陶器 甕	埋土	胴部破片			5YR6/6橙	常滑	中世	体部下位の破片。内面に自然釉が一部にかかる。
470	軟質陶器 茶釜形	埋土	胴部破片	7.2残	(26.0)	2.5Y6/1黄灰		中世	鍔貼りつけ。わずかであるが、鍔の上面以上と下面以下に被熱による色調の違いが認められる。
471	陶器 片口鉢?	埋土	胴部～底部破片	6.0残		10YR6/2灰黄褐	常滑	中世	内面下位使用により磨滅。片口鉢II類であろう。

1区17号溝出土土器観察表（第54図　PL37）

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
472	軟質陶器 焙烙	埋土	口縁～底部破片	5.8		10YR4/2灰黄褐		江戸（17世紀後葉～18世紀前葉）	

1区20号溝出土土器観察表(第54図　PL37)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
473	陶器 天目茶碗	埋土	胴部～底部破片	4.3残	(4.6)	2.5Y7/4浅黄	瀬戸・美濃	江戸 (17世紀)?	外面上半、および内面施釉。

1区21号溝出土土器観察表(第54図　PL37)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
474	陶器 おろし皿	埋土	胴部～底部破片	1.6残	(8.0)	2.5Y8/3浅黄	瀬戸・美濃	中世 (13～15世紀)	古瀬戸。残存部無釉。
475	軟質陶器 焙烙	埋土	胴部～底部破片	5.6残	(24.8)	10YR4/2灰黄褐		中世 (16世紀)	燻し焼成。
476	軟質陶器 火鉢?	埋土	胴部破片			N.5/灰		中世	作りが良く、搬入品か。胎土は灰白色で良い。

1区42号溝出土土器観察表(第54図　PL38)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
477	土器 かわらけ	埋土	口縁～底部 1/5	(7.2) 1.5	(4.8)	5YR6/6橙		中世	口縁部油煙付着。
478	陶器 鉄絵皿	埋土	口縁～底部 1/4	(12.4) 3.2	(7.0)	2.5Y8/3淡黄	瀬戸・美濃 口縁内面に灰釉	17世紀前葉	見込みに鉄絵具による蘭竹文。
479	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁部破片	5.8残		10YR5/4にぶい黄褐		中世(15世紀)	燻し焼成。
504	陶器 徳利?	埋土	胴部～底部 2/3	7.1残	(8.1)	2.5Y7/4浅黄	瀬戸・美濃 黄瀬戸釉	江戸	68号溝埋土出土土器と接合。

1区46号溝出土土器観察表(第54図)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
480	土器 かわらけ	埋土	口縁～底部 1/4弱	(11.2) 3.0	(6.0)	10YR7/3にぶい黄橙		中世(15世紀)	左回転糸切り無調整。

1区62号溝出土土器観察表(第54図　PL38)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
493	陶器 天目碗	埋土	底部	2.7残	5.0	2.5Y8/3淡黄	瀬戸・美濃 鉄釉	17世紀	胴外面上半および内面施釉。

1区40-41号溝出土土器観察表(第55図　PL37-38)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
481	陶器 灯明皿	埋土	口縁～胴部 1/5	(9.3) 1.6残		5YR4/2灰褐	志戸呂 鉄泥釉	18世紀後葉	口縁部外面以下無釉。
482	陶器 不詳	埋土	胴部～底部破片	4.3残	(9.0)	鉄釉10YR2/2黒褐 地　10YR8/2灰白	瀬戸・美濃 鉄釉	江戸	内面と体部下位無釉。
483	陶器 皿	埋土	底部　1/4	2.1残	(7.4)	2.5Y7/4浅黄	瀬戸・美濃 灰釉	江戸(17～18世紀)	内面施釉。内面に焼成時の高台を重ねた痕残る。

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
484	陶器 すり鉢	埋土	胴部～底部 1/5弱	3.5残	(10.2)	7.5YR6/6橙	丹波?	江戸	内面使用により磨滅。
485	陶器 すり鉢	埋土	胴部～底部破片	3.9残	(16.0)	2.5YR5/6明赤褐	堺・明石	江戸	内面使用により磨滅。
486	陶器 皿	埋土	口縁～底部破片	(12.0) 2.2	(8.2)	2.5Y8/3淡黄	瀬戸・美濃 長石釉	江戸(17世紀)	高台円錐ピン痕。
487	陶器 呉器手碗	埋土	底部破片	2.3残	5.2	2.5Y7/4浅黄	肥前 透明釉	江戸(17世紀末～18世紀前葉)	
488	陶器 鉄絵皿	埋土	底部　1/4	1.6残	(8.0)	5Y8/3淡黄	瀬戸・美濃 灰釉	江戸(17世紀)	見込み蘭竹文。高台内円錐ピン痕。
489	軟質陶器 内耳鍋	埋土	胴部～底部破片	6.1残		10YR6/2灰黄褐		中世(14世紀後葉～15世紀前葉)	体部外面に煤付着。
490	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁～胴部破片	6.6残		10YR6/3にぶい黄橙		中世(14世紀後葉～15世紀前葉)	外面燻。
491	軟質陶器 焙烙?	埋土	口縁部破片	3.8残		10YR4/1褐灰		中世(16世紀後葉～17世紀前葉)	断面中央黒灰色。
492	軟質陶器 焙烙	埋土	口縁～底部破片	5.5		5Y6/1灰		中世(17世紀前葉～中葉)	断面は黒灰色。

1区68号溝出土土器観察表(第56・57図　PL39・40)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
502	軟質陶器 火鉢?	埋土	口縁部破片	4.5残		N.5/灰		中世	搬入品?器表燻し。断面灰白色。
503	軟質陶器 茶釜形	埋土	胴部破片	6.5残	(22.4)	N.4/灰		中世	外面のみ燻し。取手部のみ火よけを貼り付ける。
505	陶器 菊皿	埋土	口縁～底部 1/3	(13.8) 4.5	(7.0)	2.5Y8/3淡黄	瀬戸・美濃 黄瀬戸釉	17世紀中葉～18世紀前葉	高台内糸切り痕残す。見込みにも花弁を施す。高台の貼付やや雑。
506	陶器 鉄絵皿	埋土	口縁～底部 1/3弱	(12.2) 2.0	(8.4)	2.5Y8/3淡黄	瀬戸・美濃 灰釉	17世紀中葉～後葉	見込み蘭竹文。灰釉を全面に施し、高台内の釉を拭う。円錐ピン痕2つ残る。
507	陶器 反皿	埋土	底部	1.6残	5.8	5Y8/1灰白	美濃 灰釉か長石釉	17世紀後半	円錐ピン3個使用。内面～体部外面施釉。
508	陶器 輪禿皿	埋土	底部破片	1.4残	6.8	7.5Y7/1灰白	瀬戸・美濃 長石釉	17世紀	内面～高台脇施釉。凸部明瞭。高台貼付け。
509	陶器 碗	埋土	底部	1.7残	5.0	2.5Y8/3淡黄	瀬戸・美濃 鉄釉	江戸	見込み、施釉。外面残存部釉なし。
510	陶器 丸皿	埋土	口縁～底部破片	(11.3) 2.3	(7.0)	2.5Y5/1黄灰	瀬戸・美濃 長石釉	17世紀中葉～後葉	見込みと高台内に円錐ピン痕一カ所残る。
511	陶器 皿	埋土	口縁～体部破片	(12.2) 1.8残		2.5Y8/1灰白	瀬戸・美濃 不詳	17世紀前葉～中葉	焼成不良。口縁部油煙付着。
512	磁器 皿	埋土	口縁～体部破片	3.5残		2.5Y8/2灰白	肥前 青磁	江戸	焼成不良のため、口縁端部以外の釉は白濁。
513	陶器 片口鉢	埋土	胴部～底部破片	4.5残		5Y7/1灰白	常滑 無	12～13世紀	内面使用により磨滅。すり鉢として使用。
514	磁器 碗	埋土	口縁～底部破片	(9.4) 7.2	(4.4)	10BG7/1明青灰	肥前	17世紀前葉～中葉	
515	磁器 皿	埋土	体部～底部破片	1.4残		焼成良好 2.5Y8/2灰白	中国 白磁	15世紀	高台内墨書。内面～高台脇施釉。見込み使用により釉すれる。高台脇以下無釉。

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
516	軟質陶器 内耳鍋	埋土	胴部破片	6.9残		10YR6/3にぶい黄橙		中世(14世紀後葉 ~15世紀前葉)	調整は丁寧。丸底。弱い燻し焼成。
517	陶器 甕	埋土	胴部破片			7.5YR4/2灰褐	常滑 無	12~13世紀	器壁薄い。
518	陶器 灯明皿	埋土	口縁~底部 1/4弱	(11.0) 2.8残		2.5YR5/6明赤褐	不詳 無	江戸	底部外面糸切り無調整。灯芯を支える粘土紐を1カ所貼り付ける。
519	軟質陶器 焙烙	埋土	口縁~胴部破片	5.4残		2.5Y6/3にぶい黄		中世~江戸 (16~17世紀)	外面燻し。断面中央灰黒色部あり。
520	軟質陶器 焙烙	埋土	口縁~底部 1/8	(35.4) 5.1	(33.0)	10YR5/3にぶい黄褐		江戸	燻し焼成。体部内面の段は消失し、ロクロ目状の凸凹となる。
521	軟質陶器 焙烙	埋土	口縁~胴部破片	4.8残		10YR4/2灰黄褐		中世~江戸 (16~17世紀)	外面燻し。断面中央灰黒色部あり。
522	軟質陶器 焙烙	埋土	口縁~底部破片	5.1残		7.5Y6/4にぶい橙		江戸(17世紀)	体部外面燻し。断面灰黒色。
523	軟質陶器 焙烙	埋土	口縁~底部破片	(35.1) 5.6	(32.0)	7.5YR4/2灰褐		江戸(17世紀)	72号溝埋土出土土器と接合。
524	軟質陶器 焙烙	埋土	口縁~底部破片	(34.0) 5.5	(32.0)	2.5Y8/3淡黄		江戸	口縁端部は平坦。
525	軟質陶器 内耳鍋	埋土	胴部~底部破片	4.5残	21.0	7.5Y5/1灰		中世	平底。燻し焼成。
526	軟質陶器 焙烙	埋土	口縁~底部破片	5.9		7.5YR5/3にぶい褐		江戸(17世紀)	外面燻し焼成。断面中央灰黒色部分あり。
527	陶器 甕	埋土	頸部破片			10Y5/1灰	常滑 自然釉(外面)	中世 (14~15世紀)	器壁やや厚い。
528	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁破片	7.2残		2.5Y5/1黄灰		中世(15世紀)	弱い燻し焼成。
529	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁破片	6.6残		5Y6/1灰		中世(15~16世紀)	還元焼成に近い。
530	土器 かわらけ	Es-17G 底面直上	ほぼ完形	11.4 2.6	7.6	7.5YR6/6橙		中世(16世紀)	左回転糸切り無調整。
531	土器 かわらけ	埋土	口縁~底部 1/5	(9.4) 2.1	(6.2)	10YR7/4にぶい黄橙		江戸	ロクロ左回転。

1区72号溝出土土器観察表(第61図　PL42)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
532	軟質陶器 火鉢?	埋土	口縁~底端部 1/3	(41.4) 8.5	(34.0)	2.5Y5/1黄灰		中世~江戸	燻し焼成。断面中央黒灰色。
533	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁~底部破片	15.9残		7.5YR5/3にぶい褐		中世(14世紀後葉 ~15世紀前葉)	丸底。535と同一個体か。体部外面燻し。
534	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁~胴部破片	10.5残		2.5Y4/1黄灰		中世(14世紀後葉 ~15世紀前葉)	燻し焼成。断面中央黒灰色。
535	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁~胴部破片	11.4残		7.5Y5/1灰		中世(14世紀後葉 ~15世紀前葉)	外面燻し。533と同一個体か。
536	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁部破片	5.3残		10YR5/3にぶい黄褐		中世(14世紀後葉 ~15世紀前葉)	外面煤付着。
537	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁部破片	6.8残		2.5Y5/2暗灰黄		中世(14世紀後葉 ~15世紀前葉)	還元焼成。

1区73号溝出土土器観察表(第61図 PL43)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
494	土器 かわらけ	埋土	ほぼ完形	7.4 2.3	3.0	10YR7/2にぶい黄橙		中世	口縁部油煙付着。ロクロ右回転。 底部外面板状圧痕。内面指ナデ。
495	陶器 折縁中皿	埋土	口縁~底部 1/4?	(16.4) 3.4	(6.1)	10YR7/2にぶい黄橙	瀬戸・美濃 黄瀬戸釉	14世紀中葉~後葉	内面から口縁部外面施釉。底部外面回転糸切り無調整。

1区75号溝出土土器観察表(第63図 PL43)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
496	軟質陶器 焙烙	埋土	口縁~底部破片	5.4残		7.5YR5/3にぶい褐		16世紀後葉~ 17世紀	外面燻し。口縁端部平坦。
497	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁~胴部破片	(30.0) 18.0残		N.4/灰		中世(15世紀)	器壁薄い。燻し焼成。
498	土器 かわらけ	埋土	底部 1/3	1.5残	8.0	10YR6/4にぶい黄橙		中世	ロクロ左回転。
499	陶器 反皿	埋土	ほぼ完形	11.6 2.7	6.3	2.5Y7/2灰黄	美濃 灰釉(内面~体部外面)	17世紀後半~末	内面から体部外面施釉。内面に高台痕付着。

1区78号溝出土土器観察表(第63図 PL43)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
500	軟質陶器 すり鉢	埋土	口縁破片	6.2残		5Y6/1灰		中世(15世紀前葉 ~中葉)	還元焼成。
501	磁器 瓶	埋土	体部下位~底部	3.1残	(6.4)	10GY7/1明緑灰	肥前	17世紀末~ 18世紀後葉	染付。内面無釉。

1区79号溝出土土器観察表(第63図)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
538	陶器 甕	埋土	胴部破片			2.5YR4/3にぶい赤褐	常滑	中世	体部下位片であろう。

1区94号溝出土土器観察表(第64図 PL43)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
539	陶器 黄瀬戸鉢	埋土	胴部破片			2.5Y8/3淡黄	瀬戸・美濃 黄瀬戸釉	江戸(17世紀前葉 ~中葉)	口縁部内面波状文。体部内面銅緑釉。
540	陶器 黄瀬戸鉢	埋土	胴部~底部破片	3.9残	9.0	2.5Y8/3淡黄	瀬戸・美濃 黄瀬戸釉	江戸(17世紀前葉) ?	内面銅緑釉一部認められる。
541	軟質陶器 焙烙	埋土	口縁部破片	5.7残		2.5Y6/2灰黄		江戸(17世紀?)	断面中央黒灰色。焼成は還元気味。器壁薄い。
542	陶器 鉄絵鉢	埋土	胴部~底部破片	3.7残	(30.0) (23.2)	5Y7/1灰白	瀬戸・美濃 灰釉	17世紀中葉~ 18世紀前葉	内面鉄絵。
543	陶器 甕	埋土	肩部破片			5YR5/4にぶい赤褐	常滑 自然釉(上部)	中世	外面上部自然釉。
544	陶器 瓶子	埋土	胴部破片			10YR4/2灰黄褐	瀬戸・美濃 鉄釉	14世紀	

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
545	陶器 皿	埋土	口縁～底部 1/4	(12.6) 2.9	(6.8)	2.5Y5/1黄灰	瀬戸・美濃 長石釉	17世紀	高台内一部無釉。
546	陶器 甕	埋土	口縁部破片	4.5残		7.5YR3/3暗褐	常滑 無	13世紀前葉～中葉	口縁部と肩部に自然釉。
547	陶器 皿	埋土	口縁～体部破片	(20.8) 2.9残		5YR3/3暗赤褐	不詳 鉄泥+灰釉	不詳	全体に鉄泥を施し、口縁内面と体部内面の一部に灰釉を施す。
548	陶器 片口鉢	埋土	胴部～底部 1/5	5.2残	(12.0)	2.5YR4/2灰赤	常滑 自然釉(内面)	14～16世紀	片口鉢II類。甕に似る。内面使用により磨滅。すり鉢として使用か。
549	軟質陶器 すり鉢	埋土	片口部破片	6.4残		2.5Y7/2灰黄		中世(14世紀後葉)	片口部片。

1区36号井戸出土土器観察表(第67図　PL45)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
560	陶器 徳利	埋土	胴部破片	12.3残		胎土青灰色 2.5YR4/4にぶい赤褐	不詳	江戸?	518(1区68溝)灯明皿と同窯産か? 外面は鉄泥を施す。内面は胎土の鉄分により赤褐色に発色。

1区48号井戸出土土器観察表(第67図　PL45)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
561	陶器 皿	埋土	口縁～体部破片	(14.0) 2.5残		7.5YR4/4褐 2.5Y8/2灰白(地色)	瀬戸・美濃 柿釉(内面～体部外面)	江戸(17世紀)	
562	陶器 碗	埋土	体部～底部破片	5.0残	(5.6)	5YR4/4にぶい赤褐	瀬戸・美濃 飴釉	17世紀末～ 18世紀中葉	露体部鉄化粧。

1区53号井戸出土土器観察表(第68図)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
563	軟質陶器 内耳鍋	埋土	胴部破片			2.5Y6/3にぶい黄		中世	燻し焼成。

1区66号井戸出土土器観察表(第69図)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
564	土器 鍋	埋土	口縁～胴部破片	5.4残		5Y4/1灰		江戸(17世紀～ 18世紀前葉)?	口縁部屈曲する。断面中央黒灰色。周囲は灰白色。燻し焼成。

1区108号土坑出土土器観察表(第78図　PL46)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
553	陶器 丸皿	中央部 底面上　2cm	ほぼ完形	11.8 2.2	7.1	2.5Y8/2淡黄	美濃 灰釉か?(高台内は無)	17世紀前半	焼成不良により釉白濁する。見込み菊花状の押印。

1区8号土坑出土土器観察表(第79図　PL46)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
550	土器 かわらけ	埋土	口縁～底部	7.3 2.0	4.4	10YR6/6明黄褐		中世(15世紀)	右回転糸切り無調整。

1区56号土坑出土土器観察表（第79図　PL46）

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
551	土器 かわらけ	北半部 埋土	口縁～底部	7.7 1.9	 5.3	 2.5Y3/1黒褐		中世（16世紀）	左回転糸切り無調整。

1区100号土坑出土土器観察表（第79図　PL46）

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
552	陶器 丸皿	南半部 底面直上	完形	11.5 2.3	 5.8	 5Y7/2灰白	美濃の可能性高い 長石釉(全面)	17世紀前半	円錐ピン3個使用。

1区134号土坑出土土器観察表（第79図）

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
554	軟質陶器 内耳鍋	南西隅 底面直上	胴部～底部	 9.6残	 (18.8)	 7.5YR6/3にぶい褐		中世	燻し焼成。

1区146号土坑出土土器観察表（第79図　PL46）

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
555	陶器 甕	埋土	口縁～頸部破片	4.6 6.7残		 5YR4/1褐灰	常滑 自然釉(外面)	13世紀後葉	

1区184号土坑出土土器観察表（第79図　PL47）

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
556	軟質陶器 焙烙	埋土	胴部～底部 1/6	(34.6) 5.5	 (31.0)	 10YR4/2灰黄褐		江戸（17～18世紀中葉）	口縁端部わずかに凹む。

1区210号土坑出土土器観察表（第79図）

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
557	軟質陶器 すり鉢	埋土	口縁部破片	 4.7残		 2.5Y6/2灰黄		中世（14世紀後葉～15世紀前葉）	口縁内面端部破損が顕著。

1区297号土坑出土土器観察表（第79図　PL47）

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
558	軟質陶器 焙烙	埋土	口縁～底部破片	(42.8) 5.5	 (36.6)	 10YR6/3にぶい黄橙		18世紀	断面中央黒灰色。

1区1溝西北土坑出土土器観察表（第79図）

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
559	軟質陶器 すり鉢	埋土	口縁部破片	 5.9残		 5Y5/1灰		中世（14世紀後葉～15世紀前葉）	還元気味の焼成。

1区18号竪穴状遺構出土土器観察表(第106図　PL47･48)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
567	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁～胴部 1/4弱	(26.6) 12.0残		10YR5/2灰黄褐		中世(16世紀)	燻し焼成。
568	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁～底部破片	29.0 15.7	20.3	10YR4/1褐灰		中世(16世紀)	燻し焼成。
569	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁～胴部下位	(32.0) 14.1残		10YR3/1黒褐色		中世(15世紀)	燻し焼成。
570	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁～胴部破片 1/4	(28.0) 13.0残		2.5Y5/2暗灰黄		中世(15世紀)	還元気味の焼成。
571	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁～胴部破片	10.0残		10YR5/3にぶい黄褐		中世(15～16世紀)	還元気味の焼成。
572	軟質陶器 すり鉢	埋土	胴部～底部 1/4	5.7残	(11.3)	10Y5/1灰		中世～江戸 (15～17世紀)	底部左回転糸切り無調整。
573	軟質陶器 内耳鍋	中央部 底面上　60cm	口縁～胴部破片	(32.0) 12.3残		7.5YR4/2灰褐		中世(14世紀後葉 ～15世紀前葉)	燻し焼成。外面刷毛目状調整痕。
574	陶器 片口鉢	埋土	口縁部破片	5.5残		5YR6/6橙	常滑	15～16世紀	片口鉢II類。
575	軟質陶器 内耳鍋?	埋土	胴部破片			10YR5/3にぶい黄褐		中世?	おろし目付鍋形か。内面両側割れ口に深さ3mmの直線状の切り込みあり。

1区20号竪穴状遺構出土土器観察表(第107図　PL48)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
576	土器 かわらけ	埋土	口縁～底部	(11.2) 3.3	(7.0)	7.5YR6/3にぶい褐		中世	
577	土器 かわらけ	埋土	口縁～底部	(7.0) 2.2	4.2	7.5YR7/6橙		中世	左回転糸切り無調整。
578	土器 かわらけ	埋土	口縁～底部	7.4 1.8	(5.0)	5YR5/6明赤褐		中世	

1区21号竪穴状遺構出土土器観察表(第108図)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
579	軟質陶器 内耳鍋	埋土	頸部～胴部破片	12.7残		10YR4/2灰黄褐		中世(14世紀後葉 ～15世紀)	胴部下半に焼成後小円孔が2カ所ある。
580	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁～胴部破片	9.7残		7.5Y5/1灰		中世(15～16世紀)	還元焼成。

1区24号竪穴状遺構出土土器観察表(第109図　PL48)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
581	土器 かわらけ	中央部 底面上　10cm	ほぼ完形	12.0 3.7	5.9	7.5YR6/6橙		中世(14世紀)	左回転糸切り無調整。
582	土器 すり鉢	埋土	口縁破片	5.3残		2.5Y8/2灰白		中世(14世紀)	

1区27号竪穴状遺構出土土器観察表(第112図　PL48・49)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
583	陶器 すり鉢	埋土	口縁~胴部	7.3残		10YR6/4にぶい黄橙	丹波 無	17世紀前葉~中葉	片口部片。
584	陶器 志野丸皿	埋土	口縁~底部	(11.2) 2.0	(7.0)	2.5Y6/1黄灰	瀬戸・美濃 長石釉	江戸(17世紀中葉~後葉)	
585	軟質陶器 香炉	埋土	口縁~脚部破片	(10.6) 5.9		5YR4/4にぶい赤褐		中世	底部と口縁部を復元実測。
590	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁~胴部	(33.8) 16.3残		10YR5/2灰黄褐		中世(15世紀)	還元焼成。

1区28・30号竪穴状遺構出土土器観察表(第112図　PL49)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
589	土器 かわらけ	埋土	ほぼ完形	7.1 1.9	4.1	7.5YR6/4にぶい橙		中世(14~15世紀)	左回転糸切り無調整。

1区29号竪穴状遺構出土土器観察表(第113図　PL49)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
587	土器 かわらけ	埋土	口縁~底部	12.4 2.8	6.6	2.5YR5/4にぶい赤褐		中世(14~15世紀)	左回転糸切り無調整。
588	軟質陶器 内耳鍋	埋土	口縁~胴部	(33.0) 14.6残		7.5Y5/1灰		中世(15~16世紀)	還元焼成。径大きい。

1区30号竪穴状遺構出土土器観察表(第113図)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
591	軟質陶器 すり鉢	埋土	胴部~底部破片	5.5残		5Y7/1灰白		中世	底部回転糸切り無調整。内面使用により磨滅。

1区遺構外出土土器観察表(第115図　PL50)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	胎土	焼成 色調	整形外面 内面	
135	須恵器 坏	1区20号住居 埋土	口縁~底部 1/4	(12.6) 2.8	(7.4)	微細砂、赤色鉱物粒を含む。	酸化焔焼成 10YR7/3にぶい黄橙	内外面回転撫で。底部左回転ロクロ切り離し。無調整。	
番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
141	陶器 天目碗	1区20号住居 埋土	口縁~底部 1/3	(11.2) 7.0	4.6	7.5YR4/3褐	瀬戸・美濃 柿釉	17世紀	高台脇以下無釉。
357	陶器 天目碗	1区14号土坑	高台部	1.0残	4.7	7.5YR4/4褐	瀬戸・美濃 鉄釉		高台脇以下鉄化粧。
565	軟質陶器 火鉢?	1区水田耕土	脚部破片	5.3残		N.4/灰		中世	搬入品であろう。燻し焼成。胎土灰白色。
592	陶器 志野丸皿	1区23号住居	口縁~体部破片	(11.6) 1.7残		5Y8/2灰白	瀬戸・美濃 長石釉	17~18世紀	
593	陶器 すり鉢	1区33号住居	口縁部破片	5.8残		7.5YR4/3褐	瀬戸・美濃 錆釉	18世紀前葉~中葉	内外面施釉。

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
595	土器 かわらけ	1区Ci－12 G　表土中	ほぼ完形	8.9 2.0	6.0	2.5Y8/2灰白		江戸(18世紀)	左回転無調整。
596	陶器 鉄絵鉢	1区Da－1G 表土中	口縁～胴部破片	8.2残		5Y6/1灰	瀬戸・美濃 灰釉	17世紀末～ 18世紀前葉	内面鉄絵。
597	陶器 壺	1区De－1G Df－0G	胴部～底部破片	7.7残	(9.9)	2.5YR4/1赤灰	常滑 無	中世	
598	土器 かわらけ	1区De－1G 表土中	口縁～底部破片	(11.0) 2.1	(6.8)	10YR6/3にぶい黄橙		中世(16世紀)	左回転糸切り無調整。
599	土器 かわらけ	1区Df－0G 表土中	口縁～底部 1/4	(10.9) 2.4	(6.3)	10YR7/3にぶい黄橙		中世(15世紀)	器表摩滅。
600	陶器 すり鉢	1区表面採集	口縁部破片	8.5残		5YR6/6橙	丹波 無	17世紀前葉	
601	陶器 片口鉢	1区表面採集	口縁～底部 1/5	(21.0) 10.2	(10.0)	7.5YR4/3褐	瀬戸・美濃 柿釉(内面～高台脇)	18世紀中葉	部分的に灰釉を施す。
603	軟質陶器 すり鉢	1区表面採集	口縁部破片	5.0残		5Y4/1灰		13世紀後葉	燻し焼成。
604	軟質陶器 焙烙	1区表面採集	口縁～底部	(36.6) 5.6	(33.0)	7.5Y5/1灰		江戸	断面中央黒灰色。燻し焼成。
612	軟質陶器 焙烙	1区27号住居	口縁～底部破片	6.2		7.5YR6/4にぶい橙		江戸(17世紀)	内面の段は緩やか。

1北区1号溝出土土器観察表(第119図　PL52)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
608	軟質陶器 甕?	埋土	口縁～肩部	(31.0) 5.7残		10Y5/1灰		中世	
609	陶器 瓶子?	埋土	胴部破片			7.5YR4/2灰褐	瀬戸・美濃 錆釉(外面)	古瀬戸?	

1北区3号溝出土土器観察表(第119図)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
610	軟質陶器 内耳鍋	埋土	胴部破片	15.0残		5Y4/1灰		中世	

1北区2号井戸出土土器観察表(第119図　PL52)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
566	陶器 瓶子	埋土上層	胴部～底部 1/4	6.2残	(8.0)	7.5Y6/2灰オリーブ	瀬戸・美濃 灰釉(外面)	13～15世紀	瓶子II類。内面横方向施撫で。

2区31号土坑出土土器観察表(第128図　PL53)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
605	土器 かわらけ	東南隅 底面上　26cm	完形	11.2 3.0	5.2	2.5YR5/8明赤褐		中世(14世紀)	

2区遺構外出土土器観察表(第138図　PL56)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
414	陶器 甕	2区東谷地東 溝　埋土	肩部破片			7.5YR3/3暗褐	常滑 自然釉(外面)	12～13世紀	肩部自然釉。叩き目あり。
594	瓦	2区4号住居 撹乱土中	破片	13.1残		5Y6/1灰		江戸～近·現代	
606	軟質陶器 すり鉢	2区東谷地東 溝　埋土	口縁～胴部破片	8.5残		5Y5/1灰		中世(14世紀)	還元気味焼成。
607	磁器 皿	2区東谷地西 溝　埋土	口縁部破片	(12.0) 1.8残		7.5Y6/2灰オリーブ	同安窯系 青磁	12世紀	

4区1号溝出土土器観察表(第146図　PL60)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
611	陶器 甕?	埋土	胴部破片			7.5Y5/1灰	常滑	12～13世紀	叩き目あり。

12. 荒砥宮田遺跡石器観察表

1区1号溝出土石器観察表(第53図　PL36)

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S256	軽石鉢	埋土	軽石	完形	11.1・8.2 7.5・275.79	表面中央には、長径7.0cm、短径6.5cm、深さ2.4cmの楕円形の凹みが穿たれている。凹みの表面は磨面が残る。凹みの周囲は巾0.4～1.0cmの平坦面になっている。裏面には、深く、鋭角な切りこみが2カ所あり、磨り面が残る。多機能に使われたものであろう。

1区3号溝出土石器観察表(第53図　PL36)

番号	器種	出土位置	石材	残存	長径・高さ 孔径・重さ	形状・調整加工の特徴
S257	玉	埋土	石英いわゆる水晶	完形	17.5・14.0 0.5・8.07	
番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S278	板碑	埋土	緑色片岩	半欠	26.5残・26.6 3.7・3700	やや丸く形づくられた板碑の上端部。浅い薬研彫りキリーク種子の上端が残る。二条線はみられない。

1区12号溝出土石器観察表(第53・54図　PL37)

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S167	石鉢	埋土	粗粒輝石安山岩	半欠	19.5残・12.5 11.5・2300	未製品。大きな円礫を2つに割り、両端を打ち欠いて鉢形の素材をとっているものと思われる。表面ほぼ中央に長径6.8cm、短径4.3cm、深さ1.5cmの楕円孔が穿たれている。内面には工具痕が残る。孔の線が擦られていることから孔を穿ったのは、素材が整形されてからと考えられる。
番号	器種	出土遺構	石材	残存	口径・器高 底径・重さ	形状・調整加工の特徴
S168	石鉢	埋土	粗粒輝石安山岩	口縁～底部 1/4	(23.0)・10.2 (10.8)・700	外反する鉢形に整形されている。外面上半には2条の幅広の凹線が削りこまれている。下半は細かなノミ痕が残る。内面はほぼ全面が使用により摩耗しており、平滑である。

1区21号溝出土石器観察表（第54図　PL37）

番号	器種	出土遺構	石材	残存	口径・器高 底径・重さ	形状･調整加工の特徴
S169	石鉢	埋土	粗粒輝石安山岩	口縁部 1/6破片	(26.4)・8.1残 ・700	口縁端部がやや内湾する鉢形に整形されている。口縁端部は、幅広の面をなす。外面は丁寧に仕上げられており、平滑である。内面は、使用により口縁端部から0.5～1㎝下から下位が摩耗している。

1区42号溝出土石器観察表（第54図　PL38）

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状･調整加工の特徴
S176	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	ほぼ完形	8.9・3.8 4.1・158.52	表面および両側面を砥面とする。表面の中央には欠損がある。下面および裏面には、自然面あるいは成形時の凹凸を残す。

1区40-41号溝出土石器観察表（第55図　PL38）

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状･調整加工の特徴
S173	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	ほぼ完形	14.8・3.4 4.4・183.91	表面および裏面を砥面とする。両側面には整形時の細長い削り痕および敲打痕が残る。
S174	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	完形	12.5残・3.15 3.3・164.83	表面および裏面を砥面とする。両側面には整形時の細長い削り痕跡や細い条線が残る。
S175	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	完形	9.6・3.6 2.4・109.41	表面および裏面を砥面とする。全体にふくらみのある形状を呈する。下面および裏面は自然面を残す。
番号	器種	出土位置	石材	残存	口径・器高 底径・重さ	形状･調整加工の特徴
S170	石鉢	埋土	粗粒輝石安山岩	口縁部破片	・7.8残 ・200	口縁部がやや内湾する鉢形に整形されている。口縁端部には幅広の面をなす。外面は細かなノミ痕を残すが丁寧に仕上げられている。内面は使用により、口縁端部から1～1.5㎝下から下位が摩耗している。

1区68号溝出土石器観察表（第58～60図　PL40～42）

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状･調整加工の特徴
S179	敲き石	埋土	粗粒輝石安山岩	完形	15.7・10.9 5.2・1198.32	楕円盤の上面中央に集合打痕を残す。一部条線状の擦痕が残る。敲打痕のある面の一部にスス付着。
S180	磨り石	埋土	粗粒輝石安山岩	周縁部欠損	13.7・10.5 4.8・839.14	円盤状の礫の周囲を打ちかいて成形している。外面全体にススが付着している。
S181	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	完形	11.0・3.7 3.1・173.67	表面および右側面を砥面とする。全体にふくらみがある。左側面は、凹凸が著しいが、滑らかな面があり、金属以外の対象物との摩擦痕とみられる。裏面および下面には自然面が残る。
S182	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	完形	16.7・3.0 3.3・211.65	表面のみを砥面とする。砥面の中央部には3条の刻線が残る。両側面および裏面には整形時の細長い削り痕や、細い条線が残る。
S183	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	完形	10.6・2.8 2.8・103.15	目の細かい砥石である。表裏面および両側面を砥面とする。上下端と左側面の上端部には自然面を残す。右側面は凹凸が著しい。
S184	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	下端欠損	10.1残・2.5 2.8・98.38	表面のみ砥面としている。砥面に細かい条線が残る。左側面および裏面は、整形時の細長い削り痕を残すが、平滑な面になっている。
S185	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	完形	8.4・4.0 5.0・163.71	表面、左側面、裏面を砥面とする。全体にふくらみのある形状を呈する。下面および右側面は、自然面を残す。
S186	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	上下端欠損	7.7残・3.2 3.4・118.94	表面、両側面を砥面とする。左側面は細い条線を残す。下面は整形時の凹凸を残す。

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S187	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	半欠	8.2残・3.9 4.4・146.97	表面を砥面とする。左側面および上面には自然面を残す。
S188	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	半欠	6.3残・3.1 2.7・73.49	表面、裏面を砥面とする。両側面には整形時の細長い削り痕を残す。
S189	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	上端欠損	4.6残・2.9 2.1・38.29	表面のみ砥面とする。両側面、裏面、下面には整形時の細い平行する条線を残す。
S190	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	端部破片	3.2残・2.8 2.0・21.53	表裏面を砥面とする。両側面には整形時の帯状の削り痕がかすかに残る。
S191	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	半欠	5.1残・2.8 1.2・31.34	表裏面、両側面ともに砥面とする。
S192	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	下端欠損	7.2残・4.3 2.1・96.12	表面のみ砥面とする。両側面および裏面は整形時の面で、平滑であり細い条線を残す。
S193	磨り石?	埋土	粗粒輝石安山岩 雲母石英片岩	半欠	10.4残・5.1 1.5・144.82	表面および右側面上半部がよく磨られている。
S258	砥石	埋土	軽石	ほぼ完形	6.4・6.5 2.9・47.85	円盤状に加工した軽石の表裏2面を砥ぎ面とする砥石。砥ぎ面の方向は、若干斜交する。
S266	スタンプ 形石器の 2次利用	埋土	粗粒輝石安山岩	完形	13.3・5.5 3.6・350.61	棒状礫の一端を分割した分割面とその一部に磨り面が残り、裏面の側縁の一部に剥離痕がみられる。これらの3つの面には、風化の度合いのちがいを示すと思われる色調のちがいがみられ、分割面→磨り面→剥離痕の使用痕跡の順に対応する。本石器は縄文時代早期のスタンプ形石器に類似し、比較的風化の進んだ分割面や磨り面は、一次利用時の痕跡と考えられる。一方、裏面側縁の剥離痕は新鮮であり、出土遺構を考えれば中世以降の転用である可能性が高いと考えられる。
S267	磨り石	埋土	粗粒輝石安山岩	完形	9.3・9.0 4.3・554.07	表裏面に磨り面があり、左側面、小口に敲打痕が残る。
S280	凹み石	埋土	粗粒輝石安山岩	ほぼ完形	23.2・25.4 9.7・5300	円盤状の礫の側縁を打ち欠いて、楕円形に整形していると思われる。一部の側面には自然面を残す。表面には、ほぼ中央に集合打痕による凹みが残る。裏面には、中央よりやや偏った位置に集合打痕による凹みと、その中央を磨ったとみられる凹みが残る。表裏の凹みは、ほぼ対応する位置にある。
番号	器種	出土位置	石材	残存	縦・横 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S281	石塔 台石	埋土	粗粒輝石安山岩	一隅欠損	33.8・32.2 10.4・15200	方形の台状の石。右上隅は後の欠損と判断できるが、他の3隅は、上下側面と同様な整形痕で、欠損とは判断し難い。上面は平滑に仕上げられている。石塔の台石としたが、五輪塔地輪の可能性もある。厚さが小さいことを除けば、石材や加工状況は、地輪と同様である。
番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ・上幅・最大幅 下幅・重さ	形状・調整加工の特徴
S177	五輪塔 空風輪	埋土	粗粒輝石安山岩	ほぼ完形	31.7・・14.5 ・9100	表面の削りは荒く仕上げられている。小さな欠損が著しい。
S178	五輪塔 水輪	埋土	粗粒輝石安山岩	完形	20.7・14.0・26.9 13.9・16700	いびつな形状を呈する。側面には自然面を残すところもあり、凹凸が著しい。未成品の可能性もある。
S279	五輪塔 空風輪	埋土	粗粒輝石安山岩	空輪部のみ残存	13.3残・・15.1 ・1900	全体に荒い仕上げで、欠損による打欠きも多い。上端部も欠損している。
番号	器種	出土位置	石材	残存	①上面径 ②高さ ③上縁幅 ④上縁高 ⑤ふくみ ⑥芯穴径 ⑦供給口径 ⑧重さ	形状・調整加工の特徴
S194	粉挽き臼 上臼	埋土	粗粒輝石安山岩	半欠。上縁部のほとんどは欠損	①(31.2) ② 12.6 ③ 2.4 ④ 1.3 ⑤ 0.7 ⑥ − ⑦ (4.6) ⑧6200	残存部に挽き手の構造を示す痕跡はない。上面縁部および側面は丁寧な仕上げ。上面はやや凹凸がある。かろうじて上面に供給口が、下面中央に芯棒受けの孔が残る。下面の目は6分割、副溝は4本で、擦合部は摩耗している。

番号	器種	出土位置	石材	残存	①上面径 ②高さ ③ふくみ ④えぐり高 ⑤芯穴径 ⑥ 重さ	形状・調整加工の特徴
S206	粉挽き臼 下臼	埋土	粗粒輝石安山岩	破片	①(29.4) ② 8.2 ③ 1.0以上 ④1.0以上 ⑤ − ⑥ 2000	小礫をかみこむ荒い石材を使っている。下面に凹みがあるが、偏減りしており、長期の使用が推定される。目は6分割、副溝は4本、摩合部は摩耗している。

1区72号溝出土石器観察表（第62図　PL42）

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S268	凹み石	埋土	粗粒輝石安山岩	ほぼ完形	22.5 · 19.1 11.3 · 4300	表裏面とも小さな欠損部が目立ち、使用・整形痕との識別が困難である。特に、表裏面と側面との間を整形している部分は欠損としたが、あるいは整形痕かもしれない。左側面の平坦面も自然面の可能性もあるが、整形しているかもしれない。ただし、顕著な工具痕は認められない。
S275	磨り石	埋土	粗粒輝石安山岩	完形	30.3 · 14.3 6.9 · 5122.02	大形の細長い礫の表裏面が磨られている。平滑面ができるほどではないが、側面のザラザラしたところが表面にはなくなっている。

番号	器種	出土位置	石材	残存	①上面径 ②高さ ③上縁幅 ④上縁高 ⑤ふくみ ⑥芯穴径 ⑦供給口径 ⑧重さ	形状・調整加工の特徴
S276	粉挽き臼 上臼	埋土	粗粒輝石安山岩	半欠。上縁部のほとんどは欠損	① 27.6 ② 11.0残 ③ − ④ (2.3) ⑤ 0.8 ⑥ (3.0) ⑦ (3.0) ⑧ 5100	側面残存部に挽き手の構造を示す痕跡はない。上面および側面はやや荒い仕上げ。かろうじて上面に供給口が、下面中央に芯棒受けの孔が残る。また下面に、もの配りの溝が残る。下面の目は4分割と思われ、副溝は放斜状に4本刻まれている。擦合部は摩耗している。
S277	粉挽き臼 上臼	埋土	粗粒輝石安山岩	破片	① (31.0) ② 12.0 ③ 3.1 ④ 1.7 ⑤ 1.0以上 ⑥ − ⑦ (3.0) ⑧ 2800	供給口側の破片。供給口半分を残す。上面・側面ともやや荒い仕上げ。下面の目は6分割、副溝は6本で、擦合部は摩耗している。

1区75号溝出土石器観察表（第63図　PL43）

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S195	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	半欠	7.4残 · 3.0 2.7 · 96.16	表面および裏面を砥面とする。左側面は整形時の平滑面、右側面は自然面を残す。

1区94号溝出土石器観察表（第64図　PL44）

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S196	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	半欠	9.2残 · 3.5 4.0 · 171.25	表面、裏面、左側面の半分を砥面とする。右側面は自然面を残す。
S197	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	半欠	10.2 · 2.7 3.5 · 129.48	表面のみを砥面とする。左側面には整形時の帯状の削り痕を残す。
S198	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	ほぼ完形	8.6 · 2.6 2.0 · 74.44	表裏面を砥面とする。両側面には整形時の帯状の削り痕を残す。

1区1号井戸出土石器観察表（第65図　PL44）

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S199	加工石	埋土	粗粒輝石安山岩	残存は不明	21.8残 · 21.8残 20.8 · 9700	立方体の大形角礫の一部に、方形のくりこみを入れている。用途は不明。

1区4号井戸出土石器観察表（第65図　PL44）

番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ・幅 厚さ・重さ	形状･調整加工の特徴
S285	板碑	埋土	緑色片岩	上端部のみ残存	30.0残・24.3 3.3・3400	表面の一部、裏面の剥離が著しい。種子・蓮座等はみられない。

1区2号井戸出土石器観察表（第66･67図　PL44）

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状･調整加工の特徴
S201	砥石 刃付砥	埋土	砥沢石	完形	8.7・4.3 3.7・168.03	表面のみを砥面とする。右側面には整形時の細い条線を残す。左側面および裏面は自然面を残す。
S284	砥石	埋土	粗粒輝石安山岩	半欠	14.7残・11.1 6.6・1125.25	細長い礫の両側面および表裏面を砥石として使っている。又、表面の一部や上面に敲打痕が残る。各磨り面には、巾が0.8～1.0cm、断面形U字形の溝と、幅が0.5㎜、断面V字形の溝の2者の研磨痕が残る。
S282	敲き石	埋土	粗粒輝石安山岩	完形	11.5・11.6 9.2・1429.52	断面三角の円礫の2面に敲打痕を残す。表面の敲打痕の中心はやや擦られている。
S283	磨り石	埋土	粗粒輝石安山岩	完形	11.3・13.0 6.9・1224.97	円盤状の礫の上面中央に、方形に広がる磨り面が残る。
番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ･上幅･最大幅 下幅・重さ	形状･調整加工の特徴
S200	五輪塔 火輪	埋土	粗粒輝石安山岩	ほぼ完形	15.4・12.8・28.5残 25.0・16900	四隅のうち、三隅の先端が小さく欠損する。全体に細かなノミ痕が残り、平滑に仕上げられている。底面も同様であるが、中央部にやや荒く凹む部分がある。

1区18号井戸出土石器観察表（第67図　PL45）

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状･調整加工の特徴
S202	凹み石	埋土	粗粒輝石安山岩	完形	22.0・19.1 8.4・2800	楕円形の大形礫の内面を凹ませている。表面の凹みはほぼ中央にあり、直径8cm、深さ3.5cmのすり鉢状の凹みが擦られている。この凹みの周囲には敲打痕が残ることから、敲いた後、擦られたと見られる。裏面には中央から側縁に向かって、敲打痕が残る。
番号	器種	出土位置	石材	残存	口径・器高 底径・重さ	形状･調整加工の特徴
S286	石鉢	埋土	粗粒輝石安山岩	胴部下位～底部1/4	・5.8残 (14.0)・500	平底の鉢形につくられている。内面は使用により磨られている。外面は斜め方向にノミ痕が残る。底面は平滑である。底部～胴部外面スス付着。

1区36号井戸出土石器観察表（第67図　PL45）

番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ･上幅･最大幅 下幅・重さ	形状･調整加工の特徴
S203	五輪塔 空風輪	埋土	粗粒輝石安山岩	火輪の挿入部欠損	9.3残・・17.5 ・2300	やや荒い仕上がりである。
S287	宝塔 （赤城塔） 相輪	埋土	粗粒輝石安山岩	上端部欠損	28.1残・・13.1 ・4600	成形は輪郭の表現を略し、反花も持たず、やや粗雑。表面の整形は細かなノミ痕を残し、粗く研磨。やや風化磨滅する。

1区48号井戸出土石器観察表（第67図　PL45）

番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ･上幅･最大幅 下幅・重さ	形状･調整加工の特徴
S204	五輪塔 火輪	埋土	粗粒輝石安山岩	一隅先端欠損	16.5・13.5・27.5 24.3・16700	四隅がほとんどせり上がらない。全面に細かなノミ痕が残るが、平滑に仕上げられている。
S205	五輪塔 火輪	埋土	粗粒輝石安山岩	ほぼ完形	18.6・15.0・32.3 27.3・19200	粒子の粗い粒を含む石材。やや荒い印象があるが、平滑に仕上げられている。四隅は先端が欠損する。底面には、中央に削り痕が集中し、凹む。

1区53号井戸出土石器観察表（第68図　PL45）

番号	器種	出土位置	石材	残存	①上面径 ②高さ ③ふくみ ④えぐり高 ⑤芯穴径 ⑥重さ	形状・調整加工の特徴
S288	粉挽き臼 下臼	埋土	粗粒輝石安山岩	1/4破片	①(28.6) ②5.7残 ③0.2 ④1.0 ⑤(3.0) ⑥1500	下面下端の一部欠損。下面、側面ともに丁寧に仕上げられている。下面に直径1.3cm、深さ1.5cmの円形の穴があけられているが、用途は不明である。上面の目は6分割、副溝は4本で、擦合部は摩耗している。
番号	器種	出土位置	石材	残存	口径・器高 底径・重さ	形状・調整加工の特徴
S289	石鉢	埋土	粗粒輝石安山岩	口縁～底部 1/6	(30.4)・8.0 (19.2)・1400	外面は荒い仕上げで下位は高台状に作り出している。口縁端部は巾2.4cmの平坦面になっており、平滑に磨かれている。内面は外面と同様荒い仕上げで、未製品の可能性もある。底部外面中央の凹みは、破損の可能性もあるが、高台状に作り出されたと判断した。

1区54号井戸出土石器観察表（第68図　PL45）

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S290	敲き石	埋土	粗粒輝石安山岩	完形	19.1・13.9 6.9・1567.35	扁平な大形の礫の上・下面に敲打痕を残す。上面右縁には、赤い付着物が残る。
番号	器種	出土位置	石材	残存	縦・横 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S207	板状石	埋土	粗粒輝石安山岩	一部残存	37.2・29.0 8.5・11600	隅を丸く加工した板石の一部。上面は平滑に研磨されているが、下面は剥離が著しい。

1区59号井戸出土石器観察表（第69図　PL46）

番号	器種	出土位置	石材	残存	①上面径 ②高さ ③上縁幅 ④上縁高 ⑤ふくみ ⑥芯穴径 ⑦供給口径 ⑧重さ	形状・調整加工の特徴
S291	粉挽き臼 上臼	埋土	粗粒輝石安山岩	破片	①(－) ②8.5 ③3.7 ④3.0 ⑤0.6以上 ⑥－ ⑦－ ⑧800	破片の為、全体は不明であるが、やや偏減りしている。上面・側面とも丁寧な仕上がり。擦合面は摩耗しているが、目は刻まれていない。

1区61号井戸出土石器観察表（第69図　PL46）

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S292	砥石 刃付砥	埋土	粗粒輝石安山岩	完形	12.5・3.6 3.0・139.49	表裏面を砥面とする。右側面は整形時の帯状の削り痕が残るが、平滑である。右側面は整形時の面が残る。
S293	敲き石	埋土	粗粒輝石安山岩	完形	17.6・12.1 5.3・1324.87	扁平な大形礫の表面と両側面および上面に敲打痕を残す。表面の敲打を中央よりやや上方に偏る。裏面中央は、明瞭な使用痕はみられないが、細かな敲打あるいは摩擦を受けている。

1区67号井戸出土石器観察表（第69図　PL46）

番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S294	板碑	埋土	緑色片岩	上端部残存	38.5残・27.7 3.2・5500	表面は平滑に仕上げられている。碑面磨滅の為、種子等はみられない。右上端部に2次加工とみられる凹みがある。

1区108号土坑出土石器観察表(第78図)

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S139	紡錘車	北東隅 底面直上	軽石	完形	6.3・6.1 2.5・53	中央よりやや偏った位置に貫通する穿孔があり、その外側に表面からあけた穿孔痕が残る。
S140	敲き石	中央部 底面上 2cm	珪質頁岩	完形	13.9・5.3 3.2・353	扁平な自然小礫の一端に、敲打によるとみられる剥離が残る。

1区40号土坑出土石器観察表(第79図 PL46)

番号	器種	出土位置	石材	残存	①上面径 ②高さ ③上縁幅 ④上縁高 ⑤ふくみ ⑥芯穴径 ⑦供給口径 ⑧重さ	形状・調整加工の特徴
S165	粉挽き臼 上臼	埋土	粗粒輝石安山岩	未完成品 半欠	①28.2 ②14.2 ③2.5~4.0 ④2.0 ⑤1.8 ⑥未穿孔 ⑦未穿孔 ⑧13800	上面は上縁がやや荒く作り出されている。側面は下位1/3が整形されているところで、上位2/3は荒割状態である。下面のふくみは形づくられているが、芯穴、供給口はあけられていない。又、下面の目は切られていない。

1区225号土坑出土石器観察表(第79図 PL47)

番号	器種	出土位置	石材	残存	①径 ②上面径 ③高台高 ④受皿部幅 ⑤上縁幅 ⑥全高 ⑦体高 ⑧重さ	形状・調整加工の特徴
S166	茶臼 上臼	埋土	粗粒輝石安山岩	半欠	① (31.8) ② (19.4) ③ 5.0 ④ (−) ⑤ (−) ⑥ 10.4 ⑦ 3.0 ⑧ 5500	残存する上面および側面は丁寧に磨かれている。側面の受け皿は欠落する。下面は荒いノミ痕が残る。目は8分割、副溝は明瞭でない部分もあるが、8~10本である。磨合せ部は摩耗。

1区11号竪穴状遺構出土石器観察表(第103図 PL47)

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S209	凹み石	埋土	粗粒輝石安山岩	一隅を欠損	15.5・14.7 9.0・1700	自然礫の3辺を敲打し、隅丸方形につくりだしている。表面は中央が大きく逆円錐状に磨られて凹む。裏面は中央よりやや一隅に偏った位置に表面より小さく、浅い凹みが磨り痕として残っている。その周囲には敲打痕が残っており、磨り面に切られていることから、磨り始める前に敲打されたことを示している。

1区20号竪穴状遺構出土石器観察表(第107図 PL48)

番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S210	板碑	埋土	緑色片岩	基部破片	20.9残・11.8残 2.4・800	表面は滑らか。裏面には、板状剥離加工時の横・斜め方向の巾1.3cmのノミ痕が残る。

1区21号竪穴状遺構出土石器観察表(第108図 PL48)

番号	器種	出土位置	石材	残存	口径・器高 底径・重さ	形状・調整加工の特徴
S211	石鉢	埋土	粗粒輝石安山岩	口縁~底部 1/4	(16.3)・10.9 ・1300	口縁部が大きく内湾する鉢形に整形されている。口縁端部に面とりはない。外面は平滑に仕上げられているが、上半の一部に凹みが残る。石材の自然面がそのまま残ったものと推定される。内面は小さな凹凸が残り、摩耗も顕著でない。

1区24号竪穴状遺構出土石器観察表(第109図　PL48)

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状･調整加工の特徴
S265	敲き石	埋土	粗粒輝石安山岩	完形	8.8・7.8 2.6・222.62	扁平な円盤状の礫。表面中央および、左側縁上半に敲打痕が残る。

1区25号竪穴状遺構出土石器観察表(第110図　PL48)

番号	器種	出土位置	石材	残存	口径・器高 底径・重さ	形状･調整加工の特徴
S212	石鉢	1区68号溝埋土 1区26号竪穴埋土	粗粒輝石安山岩	口縁～底部1/4	(31.0)・12.1 (14.8)・2200	口縁が外反する鉢形で、内外面とも丁寧に整形されている。外面上半には、縦方向に細かいノミ痕が残る。内面は平滑であるが、特に上半部が使用により摩耗している。

1区29号竪穴状遺構出土石器観察表(第113図　PL49)

番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ・幅 厚さ・重さ	形状･調整加工の特徴
S213	板碑	埋土	緑色片岩	上半部破片	15.7残・20.7 2.7・1200	表面には、薬研彫りのキリーク種子下部～蓮座及びサ種子の一部が残る阿弥陀三尊種子板碑。裏面は、横・斜め方向ノミ痕（巾1.5～1.7cm）が明瞭に残る。

1区30号竪穴状遺構出土石器観察表(第113図　PL49)

番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ・幅 厚さ・重さ	形状･調整加工の特徴
S214	板碑	埋土	緑色片岩	下部破片	29.1残・14.8残 1.3・1500	枠線等の彫り込みはなし。表面は磨かれている。

1区遺構外出土石器観察表(第116･117図　PL51)

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状･調整加工の特徴
S145	板碑	1区81号溝埋土	緑色片岩	頂部破片	17.7残・16.9 2.8・1453	隅丸の方形に加工された上端部破片。きめの荒い石材のため、凹凸が著しい。種子等は残っていない。
S146	板碑	1区81号溝埋土	緑色片岩	頂部破片	15.1残・14.8 2.5・904	頂部破片。種子等はみられない。山形頂部が平坦に研磨されており、二次的に砥石として用いられたものと思われる。
S164	敲き石?	1区Ei－19G表土中	粗粒輝石安山岩	完形	14.9・12.6 5.8・1110.20	扁平な大形礫の表面および上面に敲打痕を残す。
S218	加工石	1区表面採集	デイサイト質凝灰岩	残存は不明	19.6・20.4 13.0・3700	風化が著しいが、底面および3側面を立方体に整形していると思われる。右側面は欠損かどうか判断できない。上面には段が整形されている。
S219	加工石	1区表面採集	デイサイト質凝灰岩	残存は不明	23.0・17.2 16.2・4400	風化が著しい。底面および側面を立方体に整形していると思われる。上面には、段が整形されており、側面と上面には、人為か自然か判断に迷うが、凹凸が著しい。
S259	軽石鉢	1区80号溝埋土	軽石	半欠	11.2・6.4残 7.1・139.08	表面中央に長径7.8cm、短径4.0cm以上で、深さ3.5cmの楕円形の凹みが穿たれている。凹みの表面には同心円状の磨面が残る。前側面下方には長径5.3cm、短径4.3cmの楕円形の平滑面があり、摩耗痕が残る。
S269	敲き石	1区Ea～h－3･4G表土	粗粒輝石安山岩	完形	7.6・7.6 3.6・262.15	表裏面中央及び左側面（小口）、下面（小口）に敲打痕が残る。下面のそれは広範囲で、表面下半まで及ぶ。
S270	磨り石	1区Da－1G表土中	粗粒輝石安山岩	完形	10.1・9.6 5.4・690.49	表面に磨り面が残る。同範囲に炭化物が付着している。

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S271	敲き石	1区Da－1G 表土中	粗粒輝石安山岩	半欠	9.9残・13.7 4.9・685.51	表面中央、左側面・上面に敲打痕が顕著に残る。
S272	凹み石	1区表面採集	粗粒輝石安山岩	完形	19.8・17.9 8.1・2600	楕円形の礫の表面および裏面中央に、円形の磨り痕が集中し、すり鉢状に凹む。礫の厚みのほぼ中位で両面からの凹みが貫通している。裏面の凹みの周囲は平滑に磨られている。
番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ・最大幅 下幅・重さ	形状・調整加工の特徴
S215	五輪塔 空風輪	1区表面採集	粗粒輝石安山岩	頂部および火輪装入部欠損	21.5残・16.6 ・5000	側面の一部も欠損している。全体に荒い削り痕が残る。
番号	器種	出土位置	石材	残存	①上面径 ②高さ ③上縁幅 ④上縁高 ⑤ふくみ ⑥芯穴径 ⑦供給口径 ⑧重さ	形状・調整加工の特徴
S216	粉挽き臼 上臼	1区表面採集	粗粒輝石安山岩	1/4破片	①(47.0) ②11.3 ③4.4～6.1 ④ 2.4 ⑤ 0.6 ⑥ － ⑦ － ⑧ 3100	上面・側面とも荒い仕上げ。偏減りしている。上面の一部にスス付着。側面に斜行する溝状の加工がみられる。斜行するので挽き木用の溝とは思えない。この溝は欠損面にも及んでおり、再加工痕と考えたい。ただし、上縁幅が一定でなく、広くなっている部分が挽き木の装着部として加工されているのかもしれない。下面は、荒い工具痕が全面に残り、目立ては見えない。しかし、周縁部の一部に擦合面が残っていることから、工具痕は再加工痕と考えられる。
番号	器種	出土位置	石材	残存	口径・器高 最大径・重さ	形状・調整加工の特徴
S217	石鉢	1区表面採集	粗粒輝石安山岩	口縁～底部1/3	(23.4)・17.5 (27.0)・6700	口縁部が直立し、全体に丸い鉢形に整形されている。外面はやや荒いノミ痕が残る。内面は使用により、ほぼ全面が磨れている。
S260	石鍋	1区表面採集	滑石	口縁部破片	・6.9残 ・63.87	外面は縦方向の擦痕が細かく残り、巾0.5cmほどの工具痕をかすかに残している。鍔の上下は横方向に磨かれている。内面は斜め方向の擦痕を残すが、よく磨かれている。

1北区3号溝出土石器観察表(第119図　PL52)

番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S220	板碑	埋土	緑色片岩	上半部破片	37.5残・15.2残 2.7・1900	碑面は磨滅し、種子・蓮座等は残存部では明瞭に認められない。

1北区1号井戸出土石器観察表(第119図　PL52)

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S300	加工石	埋土	粗粒輝石安山岩	隅部1カ所残存	24.7残・14.2残 10.7残・3400	方形状に加工された石。残存する3面ともに荒割り状態である。

2区2号井戸出土石器観察表(第120図　PL52)

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S261	軽石鉢	埋土	軽石	半欠	8.6残・9.8 6.2・186.71	底面にも凹凸があるが、これは自然面と思われる。
S273	敲き石	埋土	粗粒輝石安山岩	完形	10.6・7.6 3.6・309.10	表裏面のほぼ中央および下面に敲打痕を残す。

2区1号土坑出土石器観察表(第127図　PL52)

番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ・上幅・最大幅 下幅・重さ	形状・調整加工の特徴
S301	五輪塔 空風輪	中央部 底面上　30cm	粗粒輝石安山岩	上端部欠損	26.2残・　・15.7 ・4900	全体に、縦・斜め方向の細かなノミ痕が残る。風輪部下面には放射状のノミ痕が残る。

2区27号土坑出土石器観察表(第128図　PL52)

番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ・上幅・最大幅 下幅・重さ	形状・調整加工の特徴
S221	五輪塔 空風輪	埋土	粗粒輝石安山岩	完形	31.0・　・18.3 ・7900	全面に細かな凹凸が残る。空輪部下半の丸みが少ない。

2区51号土坑出土石器観察表(第131図　PL54)

番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ・上幅・最大幅 下幅・重さ	形状・調整加工の特徴
S222	五輪塔 地輪?	中央部 底面上　23cm	粗粒輝石安山岩	一隅を欠損	20.6・　・25.5 ・17600	上面および側面は平滑に仕上げられている。下面は中央部が大きく凹み、荒いノミ痕が残る。
S223	五輪塔 火輪	中央部 底面上　5cm	粗粒輝石安山岩	ほぼ完形	18.0・13.7・30.1 26.7・14500	四隅が大きくせり上がった火輪。一隅は先端を大きく欠損する。底面はほぼ平滑にノミ痕が残る。
S302	五輪塔 火輪	西隅 底面上　8cm	粗粒輝石安山岩	ほぼ完形	12.0・11.1・24.4 22.5・8700	細かなノミ痕が残るが、平滑な仕上がりである。底面も同様で凹みがない。

2区53号土坑出土石器観察表(第132図　PL53)

番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ・上幅・最大幅 下幅・重さ	形状・調整加工の特徴
S224	五輪塔 空風輪	北隅 底面上　4cm	粗粒輝石安山岩	空輪部の一部 欠損	27.5・　・17.3 ・4500	全体に細かな縦方向のノミ痕が残るが、平滑に仕上げられている。風輪部下面には横方向のノミ痕が残る。
S303	五輪塔 空風輪	中央部 底面上　5cm	粗粒輝石安山岩	下半は半欠	29.8・　・15.6 ・4100	全体に縦・斜め方向のノミ痕が残る。

2区遺構外出土石器観察表(第140～145図　PL55-56)

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S252	磨り石	2区	石英閃緑岩	完形	18.5・12.6 4.5・1778.72	表裏面に磨り面が残る。左側面にも滑らかな面が残るが、平らでなく、摩擦の結果とは考えにくい。
S253	磨り石?	2区	粗粒輝石安山岩	破片	13.1残・10.7残 6.7・489.41	円柱形で上面の平らな石造物の破片。上面に磨り面が残るが、破損面まで磨り面は及んでおり、磨り石として使われたのは元の形が壊れてからかもしれない。磨り面には、中央から周縁に向けて帯状の敲打痕が施されており、さらなる二次使用も想定される。
S262	砥石	2区	軽石	完形	8.3・7.4 3.6・95.08	円盤状に作り出した軽石の表面の2カ所を砥石として使用している。相対する位置に、巾3.5cmの平らな研磨面が残されている。
S254	異形板碑	2区表面採集	粗粒輝石安山岩	完形	47.4・16.3 11.6・11900	舟形石塔の形態に、板碑形式の刻文のある石塔。基部は左右非対称。円柱状の用石の一面を平坦につくり出している。正面は全体に細かなノミ痕を残すが平滑である。側面から背面は、荒いノミ痕が一部に残る。碑面頂部に線刻二条線を有し、板碑状の額内部に阿弥陀如来一尊種子と線刻異形蓮座を刻む。

番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ・幅 最大厚・重さ	形状･調整加工の特徴
S263	軽石鉢	2区	軽石	半欠	10.4残・10.3 6.0・207.21	軽石鉢の周縁が欠損したものと思われる。
S250	石鉢	2区表面採集	粗粒輝石安山岩	半欠	22.7・13.4 13.0・3100	裏面に平滑な磨り面の残る石塊。この磨り面を切るように、右側には内部をえぐりこんだような削りがみられ、石鉢として転用しようとしたものか？
S251	石鉢	2区表面採集	粗粒輝石安山岩	口縁小破片	(29.0)・6.6残 (30.0)・400	口縁部がやや内湾する鉢形に整形されている。口縁端部は、幅広の面をなす。外面には凹凸が残り、石材の自然面を残しているとも考えられる。内面は小さな凹凸が残るが、使用により摩耗している。
S225	五輪塔 空風輪	2区1周溝東南隅 埋土上層	粗粒輝石安山岩	ほぼ完形	27.0・・17.7 ・6200	一部に細かな凹凸が残るが、全体に平滑に仕上げられている。比較的滑らかに磨かれているか？
S226	五輪塔 空風輪	2区1周溝東南隅 埋土上層	粗粒輝石安山岩	半欠	27.0・・17.2 ・5200	全体に細かな凹凸が残る。
番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ・上幅・最大幅 下幅・重さ	形状･調整加工の特徴
S227	宝塔 屋蓋	2区1周溝東南隅 埋土上層	粗粒輝石安山岩	上端部半欠	20.4・14.4・33.0 31.3・22300	成形は均質で全体に細かなノミ痕が残るが、平滑に仕上げられている。四隅が大きくせり上がる。上端は2段になっており、宝塔屋蓋と思われる。下面には細長いノミ痕が規則的に残る。中央部には不定形な凹みがある。
S228	五輪塔 火輪	2区1周溝東南隅 埋土上層	粗粒輝石安山岩	ほぼ完形	16.9・14.3・28.3 24.2・14700	細かなノミ痕が残るが、平滑に仕上げられている。底面もほぼ平滑である。
S229	五輪塔 火輪	2区1周溝東南隅 埋土上層	粗粒輝石安山岩	完形	19.0・13.9・29.5 25.3・22300	全体に細かな凹凸が残るが、他に比して平滑に仕上げられている。下面には、細かなノミ痕が規則的に残る。
S230	五輪塔 水輪	2区1周溝東南隅 埋土上層	粗粒輝石安山岩	側面の一部欠損	17.8・20.4・27.8 20.4・15000	側面は細かなノミ痕が残るが、平滑に仕上げられている。上面・下面には放射状のノミ痕が残り、中央部が凹む。
S295	五輪塔 空風輪	2区1周溝東南隅 埋土上層	粗粒輝石安山岩	完形	23.2・・15.1 ・4100	細かな凹凸が残るが、比較的滑らかに仕上げられている。
S296	宝塔 (赤城塔) 相輪	2区1周溝東南隅 埋土上層	粗粒輝石安山岩	ほぼ完形	39.0・・12.9 ・4600	輪部下段及び宝珠下に反華を陽刻。水研磨による丁寧な整形。表面の風化磨滅は少ない。
S297	宝塔 (赤城塔) 相輪	2区1周溝東南隅 埋土上層	粗粒輝石安山岩	基部欠損	37.6残・・13.1 ・5300	輪部下段のみに反華を線刻。表面は研磨されるものの、一部にノミ痕を残す。やや粗雑な整形。
S298	五輪塔 空風輪	2区1周溝東南隅 埋土上層	粗粒輝石安山岩	上下端部欠損	21.0残・・15.6 ・4300	細かな凹凸は残るが、平滑に仕上げられている。表面は磨かれているか？
S299	五輪塔 空風輪	2区1周溝東南隅 埋土上層	粗粒輝石安山岩	下半部残存	15.6残・・15.8 ・2600	全体に縦方向の細かなノミ痕が残る。
S231	五輪塔 空風輪	2区西側	粗粒輝石安山岩	下端部欠損	26.6残・・17.7 ・6100	全体に縦方向の細かな凹凸が残る。
S232	五輪塔 空風輪	2区西側	粗粒輝石安山岩	ほぼ完形	30.4・・19.1 ・9400	全体に細かな凹凸は残るが、平滑に仕上げられている。空輪部の下半に欠損部がある。
S233	五輪塔 空風輪	2区西側	二ツ岳石	上端･下端部 欠損	18.0残・・18.0 ・3800	全体に縦方向の細かいノミ痕が残る。風輪下面には横方向のノミ痕が残る。
S234	五輪塔 火輪	2区北西側	粗粒輝石安山岩	完形	15.1・14.0・28.7 25.4・11500	細かな凹凸は残るが、平滑に仕上げられている。底面もほぼ平坦であるが、一部に凹みがある。
S235	五輪塔 火輪	2区北東隅	粗粒輝石安山岩	ほぼ完形	18.7・15.0・34.2 31.0・22200	表面には荒くノミ痕が残る。四隅等小さな欠損が著しい。

番号	器種	出土位置	石材	残存	高さ・上幅・最大幅 下幅 ・ 重さ	形状・調整加工の特徴
S236	五輪塔 地輪	2区北東隅	粗粒輝石安山岩	上・下面 一部欠損	26.0・31.5・ 31.5 ・ 40900	全体に浅いノミ痕を残す。下面中央には円形に凹むノミ痕が残っている。
S237	五輪塔 地輪	2区北東端	粗粒輝石安山岩	上・下面 一部欠損	26.7・30.5・ 31.8 ・ 43300	上面および側面は細かなノミ痕が残るが、平滑に仕上げられている。下面は荒いノミ痕が残り、中央部が凹む。
S238	五輪塔 水輪	2区北東端	粗粒輝石安山岩	完形	20.1・20.9・27.6 19.7 ・ 16500	比較的荒いノミ痕が全体に残る。上面・下面は全体に荒いノミ痕が残り、縁から中央に向かって全体的に凹む。
S239	石製骨蔵器	2区北東隅	粗粒輝石安山岩	底部の一部 欠損	24.0・31.6・ ・ 21400	上面はほぼ正方形につくられている。上面中央に、上端一辺11.5cm、深さ10.5cmの隅丸方形の孔が穿たれている。上面および下面の一部は破損している。孔内部の容積はやや小さいものの、同石材の類例から石製骨蔵器の可能性が高い。
S240	五輪塔 火輪	2区東	粗粒輝石安山岩	完形	23.2・15.9・38.2 30.4 ・ 28000	四隅の先端が鋭くつくり出されている。細かなノミ痕が残り、平滑に仕上げられている。底面にはほぼ中央に割り痕が集中し、凹む。
S241	五輪塔 空風輪	2区	粗粒輝石安山岩	ほぼ完形	36.5・ ・22.4 ・ 15500	大形の空風輪。やや中軸がずれている。他に比べ緻密な石を用い、表面が平滑に丁寧に仕上げられている。空輪部側面や、風輪部には縦方向のごく細かなノミ痕が規則的に残る。風輪部下面にも細かな横方向のノミ痕が残る。
S242	五輪塔 空風輪	2区	粗粒輝石安山岩	空輪部一部 欠損	26.1・ ・15.9 ・ 5000	全体に細かな斜め・縦方向のノミ痕を残す。風輪部下面のノミ痕は顕著でない。
S243	五輪塔 空風輪	2区	粗粒輝石安山岩	下端部一部 欠損	(25.0)・ ・16.0 ・ 6400	全体に小さな凹凸を残し、荒い仕上がりである。風輪部下面に斜め方向のノミ痕が残る。
S244	五輪塔 火輪	2区	粗粒輝石安山岩	ほぼ完形	19.3・14.9・33.0 29.3 ・ 21600	全体に縦方向の細かいノミ痕が残る。底面は、中央および各辺の中央部に荒いノミ痕が残り、凹みがある。
S245	五輪塔 火輪	2区	粗粒輝石安山岩	一部欠損	16.4・13.0・25.5 23.5 ・ 15200	小形の火輪。四隅があまり上がらない形態である。全面に平滑に磨かれている。底面もほぼ平滑である。底面の一部に補修の為に使われたと見られるセメントが残る。
S246	五輪塔 火輪	2区	粗粒輝石安山岩	ほぼ完形	14.9・12.6・27.9 23.1 ・ 11000	小形の火輪。細かなノミ痕が全体に残り、平滑に仕上げられている。
S247	五輪塔 水輪	2区Ib－2G 表土中	粗粒輝石安山岩	完形	18.9・19.4・28.1 17.3 ・ 10000	側面は細かいノミ痕が縦方向に残るが、平滑に仕上げられている。上面・下面には荒いノミ痕が残り、中央部が凹む。
S255	五輪塔 空風輪	不明	粗粒輝石安山岩	空輪部下端 一部欠損	32.8・ ・19.6 ・ 10700	細かな凹凸があるが、平滑に仕上げられている。一部に縦方向のノミ痕や磨かれたような痕跡もみられる。
番号	器種	出土位置	石材	残存	①上面径 ②高さ ③ふくみ ④えぐり高 ⑤芯穴径 ⑥重さ	形状・調整加工の特徴
S248	粉挽き臼 未成品	2区北東端	粗粒輝石安山岩	1/3欠損	① 28.9 ② 17.5 ③ － ④ － ⑤ － ⑥ 18200	側面・上面は荒割り状態である。下面は、やや細かなノミ痕が残り、荒く平坦に整形されている。下端幅は33.5cm。
番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ ・ 幅 高さ ・ 重さ	形状・調整加工の特徴
S249	粉挽き臼 未完成品	2区	粗粒輝石安山岩	破片	17.5 ・ 11.4 17.2 ・ 2800	石臼の未成品と考えられる。底面はほぼ平らに整形されているが、上面は未整形である。

4区遺構外出土石器観察表(第146図 PL60)

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ ・ 幅 厚さ ・ 重さ	形状・調整加工の特徴
S274	敲き石	4区表面採集	粗粒輝石安山岩	半欠	7.1残 ・ 7.6 2.1 ・ 125.99	薄い円盤状の礫の表裏面中央に敲打痕が残る。

13. 荒砥宮田遺跡金属関連遺物観察表

2区7号住居出土鉄生産関連遺物観察表(PL36)

番号	器種	出土位置	材質	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	外観形状	備考
M16	鉄滓	貯蔵穴			4.2 · 3.2 6.0 · 30	塊状。黒褐色を呈し、赤錆が混在している。	分析No3
M17	鉄塊	埋土	鉄		4.4 · 2.1 1.9 · 14	板状。錆中にメタルが混在している。	分析No2
M18	鉄滓	埋土			3.2 · 2.0 1.1 · 6	塊状。錆と黒褐色を呈する鉄滓が混在している。	分析No4
M19	羽口	埋土		先端部	5.5 · 3.3 1.6 ·	曲面をもち、外面が黒褐色・灰褐色に溶融している。内面は粘土が剥落した状態で、形状からは羽口先端部破片と推定される。	分析No5

1区水田耕作土出土鉄器観察表(第15図 PL36)

番号	器種	出土位置	材質	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴	備考
M11	鉄釘	埋土	鉄	軸部破片	3.25残 · 0.65残 0.45残 · 1	断面方形の釘。	

1区72号溝出土銅製品観察表(第61図 PL42)

番号	器種	出土位置	材質	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴	備考
M8	小柄	埋土	銅	完形	9.5 · 1.5 0.5 · 19	地金は銅主材で銅錆より若干黒味がかる。型式は棒小柄で、わずかながらタガネによる松葉様の単純な施文あり。地は磨地に見える。他に地側に鑞付けによる継ぎ目あり。鑞は黒色の錆色。身幅があることから、17・18世紀頃と思われる。	

2区7号土坑出土鉄器観察表(第135図 PL52)

番号	器種	出土位置	材質	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴	備考
M20	釘	埋土	鉄	完形	8.1 · 1.7 1.0 · 21	断面長方形の鉄釘。	分析No1

14. 荒砥宮田遺跡古銭計測表

番号	遺構名	出土位置	銭名	初鋳年代		銭外径mm		銭内径mm		銭厚mm				量目g	遺物図	遺物写真	備考
						銭径A	銭径B	銭径C	銭径D	①	②	③	④				
M 24	1区3号住居	埋没土中															所在不明
M 25	1区 42号土坑	埋没土中	○○○○			23.80	23.90	21.37	22.59	1.48	1.42	1.29	1.47	1.92	−	PL46	
M 26	1区 99号土坑	埋没土中	永楽通寳	1408	明	25.73	25.17	20.45	20.00	1.42	1.32	1.29	1.09	2.65	第114図	PL49	
M 27	1区 99号土坑	埋没土中	熙寧元寳	1068	北宋	23.75	23.98	19.53	19.48	1.27	1.23	1.19	1.22	2.66	第114図	PL49	
M 28	1区 99号土坑	埋没土中	○○○○			24.38	24.44	18.91	18.48	1.41	1.35	1.26	1.41	3.39	第114図	PL49	
M 29	1区 99号土坑	埋没土中	太平通寳	976	北宋	24.98	24.71	19.02	18.98	1.08	1.19	1.05	1.03	2.21	第114図	PL49	
M 30	1区 99号土坑	埋没土中	皇宋通寳	1038	北宋	24.63	24.75	19.17	19.58	1.38	1.25	1.32	1.39	2.29	第114図	PL49	
M 31	1区 99号土坑	埋没土中	永楽通寳	1408	明	25.23	25.12	20.41	20.17	1.38	1.36	1.48	1.67	3.03	第114図	PL49	

番号	遺構名	出土位置	銭名	初鋳年代		銭外径mm		銭内径mm		銭厚mm				量目g	遺物図	遺物写真	備考
						銭径A	銭径B	銭径C	銭径D	①	②	③	④				
M 32	1区153号土坑	埋没土中	元○○○?			24.14	23.64	18.96	18.02	1.43	1.27	1.54	1.50	2.73	第114図	PL49	
M 33	1区153号土坑	埋没土中	洪武通寳	1368	明	23.80	23.83	19.61	18.87	1.62	1.43	1.55	1.36	2.28	第114図	PL49	
M 34	1区 59号溝	埋没土中	寛永通寳	1637		24.70	24.39	19.23	18.90	1.38	1.54	1.41	1.39	3.49	第 63図	PL38	
M 35	1区40-41号溝	埋没土中	太平通寳	976	北宋	23.78	23.85	18.64	18.80	1.15	1.14	1.15	1.17	2.24	第 55図	PL38	
M 36	1区 73号溝	埋没土中	元祐通寳	1086	北宋	25.52	24.92	19.17	19.18	1.48	1.51	1.49	1.54	3.82	第 61図	PL42	
M 37	1区 73号溝	埋没土中	太平通寳	976	北宋	24.54	24.59	18.57	18.36	1.40	1.33	1.29	1.32	2.86	第 61図	PL42	
M 38	1区 28号竪穴	埋没土中	元豊通寳	1078	北宋	24.87	24.81	20.06	19.20	1.22	1.23	1.35	1.33	2.78	第112図	PL49	
M 39	1区 28号竪穴	埋没土中	嘉祐通寳	1056	北宋	25.13	25.46	18.79	19.60	1.13	1.24	1.11	1.15	2.38	第112図	PL49	
M 40	1区 28号竪穴	埋没土中	嘉祐通寳	1056	北宋	25.62	25.22	19.05	19.02	1.25	1.24	1.25	1.27	2.74	第112図	PL49	
M 41	2区 1号住居	埋没土中	永楽通寳	1408	明	24.80	24.87	20.60	20.57	1.22	1.12	1.14	1.36	2.24	第139図	PL59	
M 42	2区 1号土坑	埋没土中	○○○○			24.60	24.43	20.63	20.16	1.03	1.06	1.03	1.06	2.14	第127図	PL52	
M 43	2区 23号土坑	埋没土中															所在不明
M 44	2区 23号土坑	埋没土中															所在不明
M 45	2区 23号土坑	埋没土中															所在不明
M 46	2区 27号土坑	埋没土中	永楽通寳	1408	明	25.04	24.98	20.21	20.20	1.41	1.41	1.49	1.39	3.71	第128図	PL52	
M 47	2区 27号土坑	埋没土中	×楽通寳	1408	明	25.04	測定不可	21.05	測定不可	1.16	測定不可	0.99	1.03	1.45	第128図	PL52	
M 48	2区 27号土坑	埋没土中	永楽通寳	1408	明	24.80	25.01	20.28	19.98	1.19	1.26	1.27	1.35	3.15	第128図	PL52	
M 49	2区 27号土坑	埋没土中	永楽通寳	1408	明	25.10	24.80	20.39	20.30	0.89	0.95	0.95	0.93	2.05	第128図	PL52	
M 50	2区 31号土坑	埋没土中	嘉泰通寳	1201～	南宋	23.76	23.92	19.90	20.01	1.14	1.11	1.12	1.11	3.04	第128図	PL53	
M 51	2区 31号土坑	埋没土中	大観通寳	1107	北宋	24.05	24.09	20.89	20.97	1.15	1.19	1.15	1.16	2.61	第128図	PL53	
M 52	2区 31号土坑	埋没土中	永楽通寳	1408	明	24.35	24.84	20.01	19.63	1.05	1.12	1.00	0.94	2.72	第128図	PL53	
M 53	2区 31号土坑	埋没土中	皇宋通寳	1039	北宋	24.64	24.78	20.20	20.04	1.06	1.03	1.06	1.06	2.81	第128図	PL53	
M 54	2区 31号土坑	埋没土中	永楽通寳	1408	明	24.66	24.64	19.96	20.00	1.34	1.27	1.16	1.11	3.48	第128図	PL53	
M 55	2区 31号土坑	埋没土中	永楽通寳	1408	明	24.46	24.58	21.00	20.53	1.14	1.19	1.38	1.20	3.62	第128図	PL53	
M 56	2区 40号土坑	底面上10.5cm	元祐通寳	1086	北宋	23.98	24.00	18.13	18.55	1.44	1.42	1.36	1.39	3.64	第129図	PL53	
M 57	2区 40号土坑	底面上10.5cm	永楽通寳	1408	明	25.07	25.15	20.14	20.75	1.36	1.13	1.17	1.32	3.59	第129図	PL53	
M 58	2区 40号土坑	底面上10.5cm	洪武通寳	1368	明	21.54	21.39	16.90	16.37	1.29	1.06	1.35	1.46	2.52	第129図	PL53	裏に銭。模鋳銭か
M 59	2区 40号土坑	底面上14cm	元宝通寳	1078	北宋	25.02	25.09	18.45	18.28	1.23	1.26	1.24	1.10	2.70	第129図	PL53	
M 60	2区 40号土坑	底面上3cm	永楽通寳	1408	明	24.98	25.02	20.48	20.12	1.37	1.38	1.36	1.36	3.93	第129図	PL53	
M 61	2区 40号土坑	底面上4cm	○○○寳			23.89	24.71	17.18	18.70	1.59	1.35	1.34	1.27	3.13	第129図	PL53	
M 62	2区 40号土坑	底面上6.5cm	天聖元寳	1023	北宋	24.83	24.86	20.62	20.21	1.30	1.25	1.21	1.25	2.27	第129図	PL53	
M 63	2区 41号土坑	底面上14cm	天聖元寳	1023	北宋	23.97	24.05	19.67	20.15	1.11	1.19	1.19	1.16	2.23	第129図	PL53	
M 64	2区 41号土坑	埋没土中	皇宋×寳	1039	北宋	24.43	測定不可	19.48	測定不可	1.20	測定不可	1.10	1.25	1.40	第129図	PL53	
M 65	2区 42号土坑	埋没土中															所在不明
M 66	2区 44号土坑	埋没土中	大観通寳	1107	北宋	25.17	24.63	20.18	21.63	1.05	1.06	1.07	1.16	2.90	第130図	PL53	
M 67	2区 44号土坑	埋没土中	元○○○			24.16	24.09	18.20	17.81	1.13	1.18	1.13	1.11	3.03	第130図	PL53	
M 68	2区 44号土坑	埋没土中	○○○寳			24.01	24.15	20.55	20.76	1.47	1.41	1.59	1.30	2.45	第130図	PL53	
M 69	2区 45号土坑	埋没土中	永楽通寳	1408	明	25.48	25.31	20.33	20.11	1.09	1.06	1.10	1.10	2.87	第130図	PL53	
M 70	2区 45号土坑	埋没土中	熙寧元寳	1068	北宋	24.84	24.69	19.59	20.04	1.09	1.20	1.13	1.07	3.00	第130図	PL53	
M 71	2区 45号土坑	底面上4.5cm	元祐通寳	1086	北宋	24.35	24.18	19.59	19.28	1.22	1.20	1.24	1.21	2.65	第130図	PL53	
M 72	2区 45号土坑	底面上4.5cm	治平元寳	1064	北宋	24.10	24.22	18.64	18.26	1.30	1.33	1.35	1.25	3.56	第130図	PL53	

番号	遺構名	出土位置	銭名	初鋳年代		銭外径mm		銭内径mm		銭厚mm				量目g	遺物図	遺物写真	備考
						銭径A	銭径B	銭径C	銭径D	①	②	③	④				
M 73	2区 50号土坑	埋没土中	洪武通寳	1368	明	23.40	23.33	18.10	17.86	1.45	1.40	1.32	1.27	3.00	第126図	PL53	
M 74	2区 50号土坑	埋没土中	熙寧元寳	1068	北宋	23.83	23.81	18.80	17.70	1.52	1.43	1.45	1.36	3.12	第126図	PL53	
M 75	2区 50号土坑	埋没土中	○○○寳			25.43	25.02	20.11	17.54	1.24	1.13	1.16	1.12	2.84	第126図	PL53	
M 76	2区 50号土坑	埋没土中	皇宋通寳	1039	北宋	23.31	23.60	17.46	17.73	1.28	1.35	1.32	1.44	3.11	第126図	PL53	
M 77	2区 50号土坑	埋没土中	×○通寳			25.07	24.90	18.39	18.56	測定不可	1.06	1.08	1.13	2.08	第126図	PL53	
M 78	2区 53号土坑	埋没土中	永楽通寳	1408	明	25.33	25.19	20.62	20.68	1.34	1.28	1.16	1.20	3.24	第132図	PL53	
M 79	2区 53号土坑	埋没土中	景徳元寳	1004	北宋	24.48	24.52	17.50	18.07	1.21	1.12	1.14	1.04	2.93	第132図	PL53	
M 80	2区 53号土坑	埋没土中	政和通寳	1111	北宋	23.87	24.30	18.76	20.70	0.89	0.90	0.79	0.91	1.90	第132図	PL53	
M 81	2区 61号土坑	底面上3cm	聖宋元寳	1101	北宋	23.65	23.19	18.14	18.22	1.41	1.41	1.28	1.27	2.29	第132図	PL54	
M 82	2区 61号土坑	底面上3cm	永楽通寳	1408	明	25.07	25.03	20.35	20.58	1.78	1.67	1.64	1.78	3.70	第132図	PL54	
M 83	2区 61号土坑	底面上4cm	天禧通寳	1017	北宋	25.51	25.63	19.49	19.23	1.45	1.30	1.28	1.32	2.76	第132図	PL54	
M 84	2区 62号土坑	底面上5cm	永楽通寳	1408	明	25.21	25.33	20.89	20.99	0.94	1.04	1.27	1.34	1.99	第133図	PL54	
M 85	2区 62号土坑	底面上5cm	洪武通寳	1368	明	24.39	23.92	19.71	19.34	1.10	1.19	1.45	1.22	2.14	第133図	PL54	
M 86	2区 62号土坑	底面上9cm	○○○○			23.15	23.11	17.86	18.39	1.15	1.14	1.13	1.15	1.69	第133図	PL54	
M 87	2区 62号土坑	底面上4cm	治平元寳	1064	北宋	24.19	24.13	17.88	18.07	1.29	1.24	1.25	1.25	3.21	第133図	PL54	
M 88	2区 62号土坑	底面上4cm	宣和通寳	1119	北宋	25.14	25.05	20.77	20.47	1.15	1.39	1.36	1.16	2.93	第133図	PL54	
M 89	2区 62号土坑	底面上4cm	皇宋通寳	1039	北宋	23.86	23.83	19.50	19.42	0.98	1.11	1.03	0.98	2.46	第133図	PL54	
M 90	2区 62号土坑	底面上4cm	元豊通寳	1078	北宋	24.46	24.42	17.00	18.54	1.39	1.33	1.47	1.53	2.71	第133図	PL54	
M 91	2区 62号土坑	埋没土中	○○××			測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	1.06	1.04	0.94	第133図	PL54	
M 92	2区 62号土坑	埋没土中	淳×××			測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	1.14	測定不可	測定不可	測定不可	0.64	第133図	PL54	
M 93	2区 62号土坑	埋没土中	永×通×	1408	明	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	1.18	1.25	測定不可	測定不可	0.88	第133図	PL54	
M 94	2区 63号土坑	埋没土中	永楽通寳	1408	明	24.74	24.59	21.11	20.47	0.96	1.01	1.05	0.90	2.21	第134図	PL54	
M 95	2区 63号土坑	埋没土中	永楽通寳	1408	明	25.28	25.71	23.37	21.02	0.94	0.96	1.06	0.98	2.73	第134図	PL54	
M 96	2区 63号土坑	埋没土中	景徳元寳	1004	北宋	銹着・ﾘﾈﾝ包み残存のため詳細は未調査									—	PL54	
M 97	2区 63号土坑	埋没土中	銹着・ﾘﾈﾝ包み残存のため詳細は未調査												—	PL54	
M 98	2区 63号土坑	埋没土中	銹着・ﾘﾈﾝ包み残存のため詳細は未調査												—	PL54	
M 99	2区 65号土坑	埋没土中	銹着のため詳細は未調査												—	PL55	
M100	2区 65号土坑	埋没土中	銹着のため詳細は未調査												—	PL55	
M101	2区 65号土坑	埋没土中	銹着のため詳細は未調査												—	PL55	
M102	2区 65号土坑	底面上3cm	×楽通×	1408	明	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	測定不可	1.10	1.14	測定不可	1.11	第134図	PL55	
M103	2区1号方形周溝墓	方台部表土中	紹聖元寳	1094	北宋	23.57	23.56	18.46	18.61	1.27	1.33	1.27	1.29	2.75	第139図	PL56	
M104	2区1号方形周溝墓	埋没土中	咸平元寳	998	北宋	23.89	23.85	17.74	18.39	1.26	1.25	1.29	1.27	3.02	第139図	PL56	
M105	2区地下式土坑	埋没土中	永楽通寳	1408	明	24.98	24.99	19.84	20.12	1.39	1.26	1.39	1.52	3.73	第126図	PL52	
M106	2区Ii−9G	埋没土中	宋通元寳	960	北宋	24.44	24.58	18.69	18.50	1.38	1.40	1.41	1.30	2.69	第139図	PL59	
M107	2区Ii−10G	埋没土中	皇宋通寳	1039	北宋	23.83	23.96	18.02	16.75	1.02	1.02	1.13	1.02	1.91	第139図	PL59	
M108	2区東谷地斜面	表土中	治平元寳	1064	北宋	24.32	24.15	17.81	17.35	1.22	1.16	1.26	1.25	2.33	第139図	PL59	
M109	2区東谷地斜面	表土中	元豊通寳	1078	北宋	23.98	24.72	18.67	19.00	1.19	1.25	1.26	1.25	3.09	第139図	PL59	
M110	2区台地中央部	表土中	政和通寳	1111	北宋	24.50	24.48	21.01	20.78	1.21	1.27	1.16	1.21	2.81	第139図	PL59	
M111	2区台地中央部	表土中	元豊通寳	1078	北宋	24.34	24.47	17.47	17.28	1.48	1.49	1.45	1.39	3.02	第139図	PL59	
M112	2区	表土中	景徳元寳	1004	北宋	24.32	24.37	18.70	18.77	1.20	1.17	1.24	1.27	3.35	第139図	PL59	
M113	2区表採	埋没土中	祥符元寳	1008	北宋	24.34	24.92	17.47	18.65	1.22	1.23	1.17	1.21	2.63	第139図	PL59	

1．荒砥前田遺跡　掘立柱建物一覧

番号	グリッド	規模	建物の向き	主軸方位	本文	遺構図	遺構写真
1号	Q·R−1～3G	(2+2)×(3+3)間	南北棟	N−24°−E	P181	第147·153図	PL61
2号	L～O−5～7G	(2+4)×(6+2)間	東西棟	N−65°−W	P181·182	第148·153図	PL61
3号	P·Q−2～5G	3×(7+2)間	南北棟	N−23°−E	P182·183	第149·153図	PL61
4号	P·Q−4·5G	2×3間	東西棟	N−57°−W	P187	第150·153図	
5号	N−2G	2×3間	南北棟	N−22°−E	P187	第151·153図	

2．荒砥前田遺跡　土坑一覧表

土坑番号	グリッド	平面形	長軸方向	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
1号	Q−5G	円形	N−69°−W	122	114	12	P191	第152·153図	PL62		
2号	O−1·2G	楕円形	−	184	184	31	P191	第152·153図	PL62		
3号	N−2G	方形	N−11°−E	136	90	20	P191	第152·153図	PL62		
4号	R·S−4G	楕円形	N−84°−W	100以上	94	11.5	P204	第162図	PL68	第162図	
5号	N·O−2G	楕円形	N−2°−W	115以上	62以上	22	P204	第162図		第162図	PL60

3．荒砥前田遺跡　溝一覧表

溝番号	グリッド	長さ m	幅(長) m	幅(短) m	深さ m	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
1号	T～E−0～8G	46.9	2.92	0.73	0.44	P192	第154図	PL63		
2号	T～E−3～10G	37.3	2.42	0.45	0.29	P192	第154図	PL63		
3号	D·E−1·2G	8.12	0.93	0.49	0.1	P192	第154図	PL63	第154図	
4号	C·D−1·2G	11.4	1.33	0.53	0.14	P192	第154図		第154図	
5号	T～E−0～9G	52.68	3.21	0.73	0.51	P196·201	第157·158図	PL65		
6号	H·I−1～6G	30.6	0.62	0.36	0.45	P191	第152·153図	PL62		
7A号	H～J−1～7G	37.2	0.81	0.6	0.54	P191	第152·153図	PL62		
7B号	I·J−1～9G	45.1	0.8	0.6	0.43	P191	第152·153図	PL62		
8号	H～M−1～6G	39.3	2.46	0.87	0.32	P201·203	第159·161図	PL68	第160図	PL60
9号	F～M−1～10G	49.8	1.95	0.56	0.66	P203	第159·161図	PL68	第160図	PL60
10号	G·H−8～10G	10.5	1.04	0.71	0.39	P203	第159·161図	PL68		
11号	M·N−5～7G	9.4	0.96	0.38	0.67	P203	第159·161図	PL68		
12号	N·O−1～5G	21.3	1.1	0.45	0.81	P203	第159図			
13号	E·F−8～10G	11.8	1.35	0.75	0.4	P203·204	第159図			

4．荒砥前田遺跡　井戸一覧表

井戸番号	グリッド	平面形	長軸方向	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm	本文	遺構図	遺構写真	遺物図
1号	Q·R−7·8G	円形	N−67°−W	175	160	176.5	P191	第152·153図	PL62	
2号	Q−5·6G	円形	N−67°−W	105	104	205	P191	第152·153図	PL62	第152図

5．荒砥前田遺跡　畠一覧表

畠番号	グリッド	畝幅 cm	畝間下半部溝の幅cm	畝間下半部溝の深さcm	畝間下半部溝の間隔cm	本文	遺構図	遺構写真
洪水層上畠	H～L−7～10G	78～235	12～41	10	55～206	P192·196	第155図	PL64

6．荒砥前田遺跡　水田一覧表

水田名称	グリッド	畦の幅 cm	畦の高さ cm	本文	遺構図	遺構写真	遺物図	遺物写真
浅間B軽石下水田	C～I−1～10G	50～72	2～8	P191·192	第154図	PL63	第154図	
洪水層下水田	T～S−1～10G	45～60	5～19	P196·201	第157·158図	PL64～67	第156図	PL60

7．荒砥前田遺跡土器観察表

2号井戸遺物観察表(第152図)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	胎土	焼成 色調	整形外面 内面
17	土師器 甕	埋土	底部	 1.5残	 4.0	砂粒を多く含む。	酸化焔焼成 2.5Y7/2灰黄	底部外面は平滑に撫でられている。

浅間B軽石下水田出土土器観察表(第154図)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	胎土	焼成 色調	整形外面 内面
18	須恵器 坏	耕土中	底部破片	 1.1残	 6.0	細砂と少量の白色鉱物粒を含む。	酸化焔焼成 5YR5/6明赤褐	ロクロ右回転糸切り離し。無調整。

3号溝出土土器観察表(第154図)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
1	軟質土器 鉢?	埋土	口縁部破片	 4.8残		2.5Y6/2灰黄		不明	

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	胎土	焼成 色調	整形外面 内面
2	土師器 坏	埋土	口縁破片	(10.0) 2.0残		微細砂を含む。	酸化焔焼成 5YR6/8橙	口縁部横撫で。底部外面箆撫で。

4号溝出土土器観察表(第154図)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
3	陶器 甕	埋土	肩部破片			7.5Y4/2灰オリーブ	常滑 肩部外面に自然釉	12～13世紀	
4	陶器 甕	埋土	底部破片	 4.8残		5YR5/3にぶい赤褐	常滑 無釉	不明	

畝状遺構出土土器観察表(第155図)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	胎土	焼成 色調	整形外面 内面
27	須恵器 甕	畝間より	頸部破片			白色鉱物粒を含む。	還元焔焼成 N3/暗灰	2条の凹線状の削りにより、中間に1条の凸帯がつくり出されている。その下位には波状文。
28	須恵器 甕	鋤痕をもつ掘りこみ内	底部 1/2	 2.5残	 6.2	微細砂を少量含む。	還元焔焼成 10YR6/4にぶい黄橙	

I期水田耕作土出土土器観察表(第156図 PL60)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	焼成 色調	製作地 釉	時期	その他の特徴
19	陶器 碗	耕作土中	胴部破片			5YR3/2暗赤褐	瀬戸・美濃 飴釉	江戸時代	下端には薄く、飴色の化粧がされる。

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	胎土	焼成 色調	整形外面 内面
20	土師器 坏	耕作土中	口縁部破片	(12.0) 2.7残		微細砂を含む。	酸化焔焼成 7.5YR4/4褐	体部外面斜め箆削り。口縁部横撫で。内面丁寧な撫で。
22	土師器 坏	耕作土中	口縁部破片	(11.8) 2.3残		微細砂を含む。	酸化焔焼成 5YR6/8橙	底部外面撫で。口縁部横撫で。内面丁寧な撫で。
23	土師器 坏	排水路内	口縁～底部 2/3	12.0 3.4	9.2	微細砂を少量含む。	酸化焔焼成 5YR6/8橙	体部外面斜め方向撫で。内面は丁寧に撫でられている。
24	土師器 甕	排水路内	口縁部破片	(20.4) 5.1残		細砂·微細砂を多量に含む。	酸化焔焼成 10YR6/3にぶい黄橙	口縁部外面剥離が著しい。胴部外面横方向箆削り。 内面横撫で。指頭による凹凸が残る。

I 期水田より新しい水路下部出土土器観察表(第156図)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	胎土	焼成 色調	整形外面 内面
26	土師器 坏	耕土中	口縁部破片	(10.0) 3.1残		微細砂を含む。	酸化焔焼成 5YR6/8橙	内外面とも磨耗が著しい。

8号溝出土土器観察表(第161図)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	胎土	焼成 色調	整形外面 内面
5	土師器 坏	底面付近	口縁～底部	(12.0) 2.3残		微細砂·白色鉱物粒を含む。	酸化焔焼成 7.5YR5/4にぶい褐	底部外面箆撫で。口縁部横撫で。内面丁寧な撫で。
6	土師器 甕	底面付近	底部	 5.8残		細砂を多く含む。	酸化焔焼成 10YR8/3浅黄橙	大形の甕の底部。底部外面はよく撫でられている。

9号溝出土土器観察表(第161図　PL60)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	胎土	焼成 色調	整形外面 内面
7	土師器 坩	底面付近	頸部～胴部破片	 4.6残	(9.0)	微細砂を多く含む。	酸化焔焼成 10YR6/3にぶい黄橙	広口の坩形土器。内外面ともよく撫でられている。
8	土師器 坩	底面付近	口縁～底部 1/4	(7.2) 8.4	10.0	微細砂を多く含む。	酸化焔焼成 10YR7/4にぶい黄橙	広口で肩の張る坩形土器。外面上半のみ磨かれている。
9	土師器 坩	埋土	口縁～胴部 1/3	(11.4) 6.8残		微細砂·白色鉱物粒を多く含む。	酸化焔焼成 10YR7/4にぶい黄橙	広口の坩形土器。胴部内外面ともよく撫でられているが、口縁部内外面には、縦方向ハケメが残る。
10	土師器 坩	底面付近	胴部～底部 1/3	 7.5残	(11.3) (7.0)	細砂を含む。	酸化焔焼成 7.5YR7/4にぶい橙	内外面ともよく磨かれている。
11	土師器 壺	底面付近	胴部下半～底部	 3.2残	 5.7	砂粒·細砂を多く含む。	酸化焔焼成 7.5YR7/6橙	胴部外面縦方向箆磨き。内面放射状の箆削り。底部外面横方向箆削り。
12	土師器 壺	底面付近	口縁～肩部破片	(13.8) 6.1残		微細砂·白色鉱物粒を多く含む。	酸化焔焼成 5YR5/4にぶい赤褐	緩やかに「く」の字に屈曲する壺の口縁部。
13	土師器 S字甕	底面付近	台部破片	 5.1残	(9.0)	微細砂を含む。	酸化焔焼成 7.5YR7/4にぶい橙	S字甕の台部破片。内外面にハケメ（8本/1cm）が残る。
14	土師器 坏	埋土中層	口縁部破片	(11.0) 3.2残		ほとんど挿挾雑物を含まない。	酸化焔焼成 5YR7/8橙	精選された胎土の坏。

4号土坑出土土器観察表(第162図)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	胎土	焼成 色調	整形外面 内面
15	土師器 甕	埋土	胴下部破片			細砂、微細砂を含む。	酸化焔焼成 10YR7/3にぶい黄橙	外面斜め方向施磨き。内面丁寧な撫で。

5号土坑出土土器観察表(第162図　PL60)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	胎土	焼成 色調	整形外面 内面
16	土師器 高坏	埋土	坏部	12.9 5.3残		微細砂を多く含む。	酸化焔焼成 7.5YR7/4にぶい橙	底部に鋭い稜をもち、丸みを帯びた坏部。口縁内面端部に緩やかな面とりを持つ。

遺構外出土土器観察表(第163図)

番号	種別	出土位置	残存	口径 器高	最大径 底径	胎土	焼成 色調	整形外面 内面
21	縄文土器 深鉢	耕作土中	胴部破片			細砂を含む。	酸化焔焼成 2.5Y7/3浅黄	後期称名寺式期。充填縄文ＲＬ単節
25	土師器 甕	耕作土下の浅間C軽石中	口縁部破片	2.2残		細砂を多量に含む。	酸化焔焼成 10YR6/4にぶい黄橙	外面巾７㎜程の粘土紐。３条の接合痕を残す。

8．荒砥前田遺跡石器観察表

遺構外出土石器観察表(第163図)

番号	器種	出土位置	石材	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴
S1	スクレイパー	表採	黒色頁岩	完形か	6.9・9.7 3.1・202	単設打面から剥離された肉厚で、やや横長の剥片を素材とする。裏面及び側面の一部に自然面を残す。打面部は残され、バルブ及びバルブァ・スカーを明瞭に確認できる。下辺及び右側縁に２次加工が施されている。下部の２次加工は背面側から、右側縁の２次加工は背面側→腹面側の順に、やや粗雑な加工が施されている。石器が完成状態であったか不明であるが、右側縁上半部はそのエッジが鋸歯状になっており、直線的なエッジをもつ下辺～右側縁下部に本来的な刃部が想定される。

9．荒砥前田遺跡金属器観察表

8号溝出土鉄器観察表(第160図　PL60)

番号	器種	出土位置	材質	残存	長さ・幅 厚さ・重さ	形状・調整加工の特徴	備考
M1	刀子か	埋土	鉄	完形か	10.1・2.1 0.6・22.0	刀子状の形態をした鉄製品。銹化が著しく、破断面で観察すると、ほとんどメタル部は残存していない。	
M2	鎌	埋土	鉄	基部のみ	7.2・4.6 0.9・33.0	全体に銹化が著しい。先端部が欠損のため全体形状は不明。	

報告書抄録

ふりがな	あらとみやたいせきに　　あらとまえだいせき
書　　名	荒砥宮田遺跡II　古代・中近世の調査　　荒砥前田遺跡　弘仁九年被災の水田と復旧畠の調査
副 書 名	昭和58年度県営圃場整備事業荒砥北部地区に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団報告
シリーズ番号	第336集
編 著 者 名	小島敦子　徳江秀夫　赤沼英男　橋崎修一郎　新倉明彦　飯森康広
編 集 機 関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
所 在 地	〒377－8555　群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784－2　TEL0279－52－2511
発行年月日	2004年9月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査機関	調査面積 m²	調査原因
あらとみやた 荒砥宮田	ぐんまけん 群馬県 まえばししあらくちまち 前橋市荒口町	10201		36° 22′ 50″	139° 9′ 20″	19830823～ 19840324	20265	県営圃場整備
あらとまえだ 荒砥前田	ぐんまけん 群馬県 まえばししいまいまち 前橋市今井町	10201		36° 22′ 41″	139° 9′ 13″	19811001～ 19820331	5000	県営圃場整備

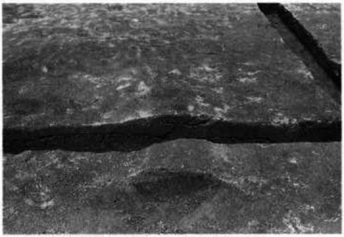
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
荒砥宮田	集落遺跡	古代	竪穴住居	土師器 須恵器 鉄滓・鉄塊	群馬県中央部にある赤城山の南麓に立地する。 縄文時代から中近世にかけての複合遺跡。 第II分冊では古代・中近世の遺構を報告した。 1区では中世から近世にかけての屋敷跡が確認できた。 2区では中世から近世初期と推定される墓域が検出された。また1区南部の低地では弘仁九(818)年の地震に伴う洪水で埋まった水田と、それを復旧したと考えられる畠跡が確認された。
		中世 近世	掘立柱建物 土坑 井戸 溝 墓 水田・畠	陶器・磁器 軟質土器 古銭 砥石・粉挽き臼・石鉢 石塔・板碑	
荒砥前田	集落遺跡	縄文 古墳 中世 近世	包含層 溝・土坑 掘立柱建物 土坑 井戸 溝 水田・畠	縄文土器(後期) 土師器 陶器・軟質土器	荒砥宮田遺跡1区の南に隣接する。 縄文時代から中近世にかけての複合遺跡。 弘仁九(818)年の地震に伴う水田と、それを復旧したと考えられる畠跡が、荒砥宮田遺跡と連続するように検出された。

写 真 図 版

1　１区南東部浅間Ｂ軽石下面全景（北から）

2　１区南東部浅間Ｂ軽石下面検出状況全景（北西から）

3　１区南東部浅間Ｂ軽石下面検出状況（北東から）



4　１区南東部浅間Ｂ軽石下面土層断面（南西から）

5　１区東谷地浅間Ｂ軽石下面全景（東から）

6　１区東谷地浅間Ｂ軽石下面全景（北西から）

7　１区東谷地北壁土層断面（南西から）

8　１区東谷地北壁土層断面（南から）

1　1区1号畠近景（東から）

2　1区1号畠検出状況全景（北東から）

3　1区2号畠全景（北東から）

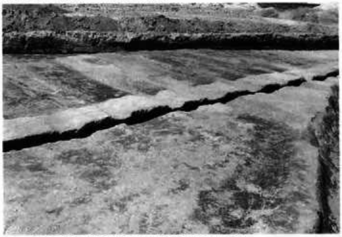
4　1区2号畠土層断面（東から）

5　1区3号畠検出状況全景（東から）

6　1区3号畠作業風景

7　1区3号畠全景（東から）

8　1区3号畠土層断面（東から）



1　１区３号畠畝断ち割り土層断面（南東から）

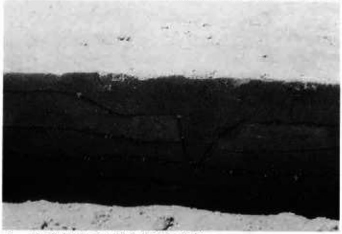
2　１区３号畠畝断ち割り土層断面

3　１区４号畠全景（南から）

4　１区５号畠全景（南から）

5　１区洪水層下水田全景（東から）

1　１区洪水層下水田全景（南西から）



2　１区洪水層下水田耕土土層断面近接

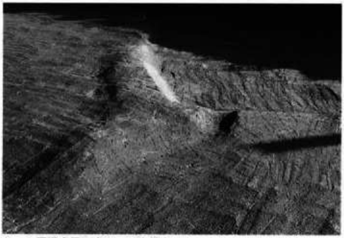
3　１区洪水層下水田北半全景（東から）

4　１区洪水層下水田南半全景（北東から）

5　１区洪水層下溝全景（北から）

6　１区洪水層下溝近景（南から）

7　１区洪水層下溝南端（南から）



8　１区洪水層下水田アゼ交差点

1　２区東谷地浅間Ｂ軽石下水田南壁西端土層断面（北から）

2　２区東谷地浅間Ｂ軽石下水田南壁西端浅間Ｂ軽石層（北から）

3　２区東谷地浅間Ｂ軽石下水田全景（北から）

4　２区東谷地浅間Ｂ軽石下水田南半部全景（北東から）

5　２区４号住居全景（西から）

6　２区４号住居竈全景（西から）

7　２区７号住居全景（南から）

8　２区７号住居竈全景（西から）

1　３北区浅間Ｂ軽石下全景（北から）

2　３北区浅間Ｂ軽石下全景（南から）

3　３北区浅間Ｂ軽石下全景（北から）

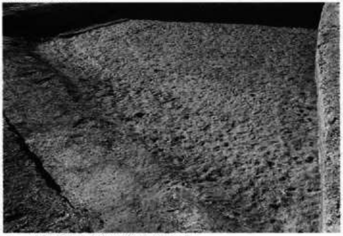
4　３北区浅間Ｂ軽石下全景（南西から）

5　３北区浅間Ｂ軽石下土層断面Ａ－Ａ′

6　３北区浅間Ｂ軽石下土層断面Ｃ－Ｃ′東半部（北から）

7　３北区浅間Ｂ軽石下土層断面Ｂ－Ｂ′南端部（北から）

8　３北区浅間Ｂ軽石下土層断面Ｂ－Ｂ′中央部（西から）



1　3中区浅間B軽石下全景（東から）

2　3中区浅間B軽石下全景（西から）

3　3中区浅間B軽石下北壁土層断面D－D′（南東から）

4　3中区浅間B軽石下B層

5　3南区浅間B軽石下全景（北から）

6　3南区浅間B軽石下全景（南から）

7　3南区浅間B軽石下土層断面E－E′（北から）

8　3南区浅間B軽石下土層断面E－E′西端（北東から）

1　４区浅間Ｂ軽石下西半部全景（東から）

2　４区浅間Ｂ軽石下西半部全景（南西から）

3　４区浅間Ｂ軽石下西半部全景（西から）

4　４区Ｌｅ～ｍ－０ライン土層断面（南東から）

5　４区浅間Ｂ軽石下１号溝全景（南から）

6　４区浅間Ｂ軽石下埋没谷土層断面（南から）

7　４区４号溝全景（北拡張区）（北から）

8　４区４号溝土層断面（南から）

1　１区23号掘立柱建物跡全景（東から）

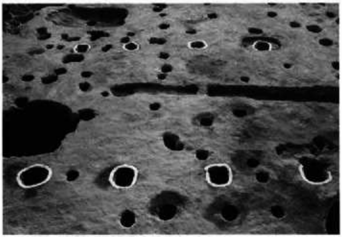
2　１区27号掘立柱建物跡全景（東から）

3　１区29号掘立柱建物跡全景（東から）

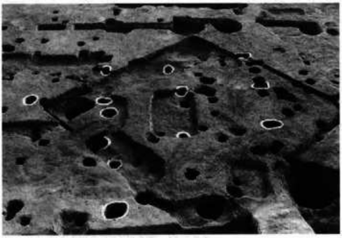
4　１区30号掘立柱建物跡全景（北から）

5　１区26号掘立柱建物跡全景（北東から）

6　１区10号掘立柱建物跡全景（北から）



7　１区11号掘立柱建物跡全景（北から）



8　１区７号掘立柱建物跡全景（北から）

1　1区11・19号溝全景（南から）

2　1区12・17・14号溝全景（南東から）

3　1区12・17号溝全景（南東から）

4　1区12・17号溝全景（北西から）

5　1区13号溝全景（北東から）

6　1区14・19号溝全景（南東から）

1　１区14号溝全景（南東から）

2　１区15・18号溝全景（北から）

3　１区16号溝（13・15号井戸）全景（南西から）

4　１区18号溝全景（北西から）

5　１区18号溝全景（南西から）

6　１区19号溝全景（南東から）

1　1区20号溝土層断面（北から）

2　1区20号溝全景（北から）

3　1区20号溝全景（南から）

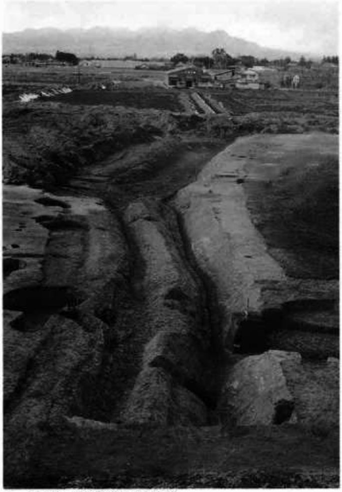
4　1区21号溝区画全景（北から）

5　1区21号溝北辺全景（東から）

6　1区21号溝東辺全景（北から）

7　1区21号溝区画内全景（北東から）

8　1区37号溝全景（西から）



1　１区40・41号溝全景（東から）

2　１区40・41号溝西半全景（西から）

3　１区59号溝全景（北から）

4　１区42・43号溝全景（南から）

5　１区62号溝全景（北から）

1　1区68号溝土層断面（南から）

2　1区68号溝全景（東から）

3　1区68号溝南東隅全景（東から）

4　1区68号溝底面掘削痕

5　1区68号溝橋脚ピット（西から）

6　1区68号溝橋脚ピット（東から）

7　1区68号溝橋脚ピット（北から）

8　1区68号溝遺物出土状態

1　1区72号溝全景（西から）

2　1区72号溝全景（西から）

3　1区72・73号溝と14号掘立柱建物跡（南から）

4　1区73号溝全景（西から）

5　1区75号溝西半全景（西から）

1　1区75・76号溝全景（西から）

2　1区82号溝（47号井戸）全景（北から）

3　1区83号溝全景（北東から）

4　1区83号溝底面工具痕

5　1区94号溝全景（南東から）

6　1区94号溝南東隅全景（北西から）

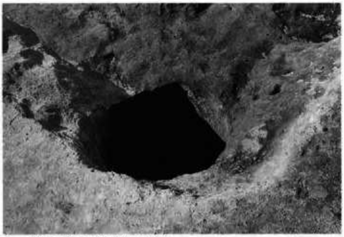
1　1区1号井戸全景

2　1区2・3号井戸全景（北西から）

3　1区2・3・4号井戸低全景（南から）

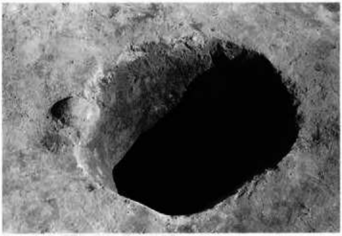
4　1区4号井戸土層断面（南から）

5　1区4号井戸全景（西から）



6　1区5号井戸全景（東から）

7　1区6・7号井戸全景（北東から）



8　1区8号井戸全景（南西から）

1　1区9・10号井戸全景（北東から）

2　1区11・12号井戸全景（南東から）

3　1区37号井戸土層断面（南から）

4　1区47号井戸土層断面（南から）

5　1区1号土坑土層断面

6　1区1号土坑全景

7　1区2A号土坑土層断面

8　1区2A号土坑全景

1　１区10Ｂ号土坑全景（北西から）

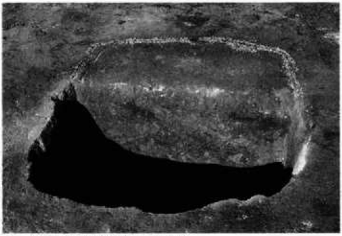
2　１区11Ａ号土坑全景

3　１区12Ｃ号土坑全景（東から）

4　１区16号土坑全景（西から）

5　１区15・17号土坑全景（北西から）

6　１区23号土坑全景（北東から）



7　１区90号土坑土層断面（南から）

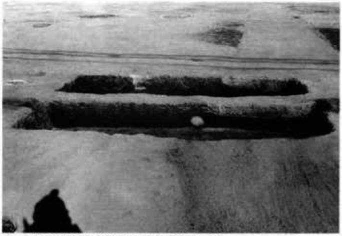
8　１区92号土坑土層断面（南から）

1　1区110号土坑土層断面（東から）

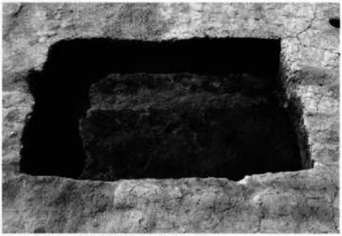
2　1区112号土坑土層断面（南から）

3　1区123号土坑土層断面（南東から）

4　1区土坑の土層観察



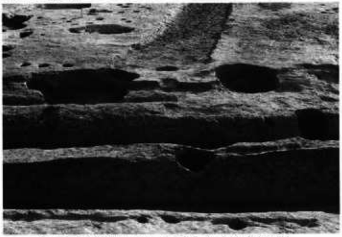
5　1区2号竪穴状遺構土層断面（西から）



6　1区2号竪穴状遺構全景（北東から）

7　1区3号竪穴状遺構周辺全景（北西から）

8　1区4・6・8・9号竪穴状遺構全景（北から）



1　1区7号竪穴状遺構（16・17号井戸）全景（北から）

2　1区8～13号竪穴状遺構全景（西から）

3　1区14～21号竪穴状遺構全景（西から）

4　1区20号竪穴状遺構土層断面（南から）

5　1区21～23号竪穴状遺構全景（西から）

6　1区24～26号竪穴状遺構全景（西から）

7　1区27・28号竪穴状遺構全景（西から）

8　1区29・30号竪穴状遺構全景（西から）

1　1区Ca～h－9～14グリッド全景（北から）

2　1区C・Da～i－11～2グリッド全景（北東から）

3　1区Cd～i－11～18グリッド全景（北西から）

4　1区C・Et～b－15～1グリッド全景（東から）

5　1区Ck～q－11～15グリッド全景（東から）

6　1区Cq～i－13～15グリッド全景（北から）

7　1区Cb・c－13・14グリッド全景（北から）

8　1区Cc～h－10～12グリッド全景（北から）

1　1区Cf・g－15～18グリッド全景（西から）

2　1区Cd・e－18・19グリッド全景（南から）

3　2区1号溝全景（南から）

4　2区1号溝土層断面A－A′（南から）

5　2区1号井戸土層断面（南東から）

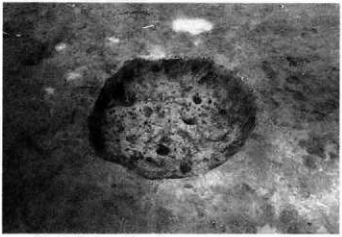
6　2区1号井戸全景（北西から）

7　2区1号井戸全景

8　2区2号井戸全景

1　2区4号土坑全景（北東から）

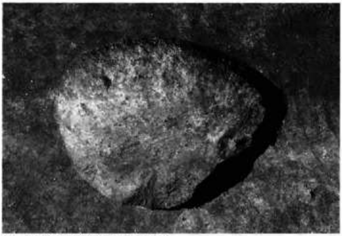
2　2区6号土坑全景（北東から）



3　2区7号土坑全景（南から）

4　2区8・9号土坑全景（北東から）

5　2区17号土坑全景



6　2区34号土坑全景（西から）

7　2区36号土坑全景（南から）

8　2区46号土坑全景（南から）

1　２区14号土坑全景（北東から）

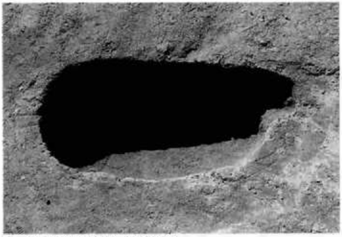
2　２区16号土坑全景（南西から）

3　２区20号土坑全景（西から）

4　２区26号土坑全景（東から）

5　２区35号土坑全景（南から）

6　２区52号土坑全景（北から）



7　２区54号土坑全景（北東から）

8　２区67号土坑全景（北東から）

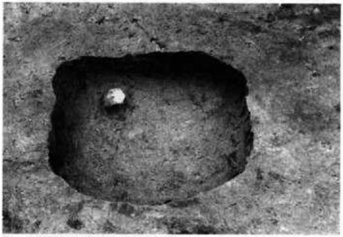
1　2区43号土坑全景（南西から）

2　2区15号土坑全景（南西から）

3　2区55号土坑全景（北から）

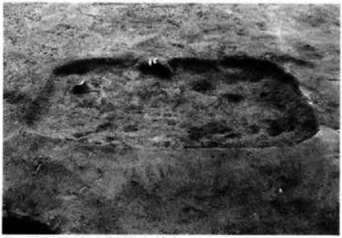
4　2区19号土坑全景（東から）

5　2区21号土坑全景（北から）



6　2区28号土坑全景（北西から）

7　2区47号土坑全景（東から）



8　2区5号土坑全景（北東から）

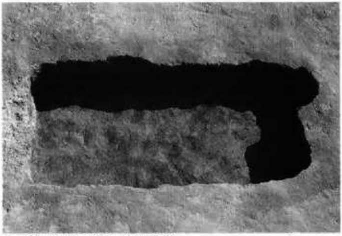
1　2区57号土坑全景（西から）

2　2区64号土坑全景（南西から）

3　2区68号土坑全景（北東から）

4　2区69号土坑全景（北東から）

5　2区71号土坑全景（北から）


6　2区72号土坑全景（北西から）

7　2区73号土坑全景（北東から）

8　2区50号土坑全景（北西から）

1　2区2号土坑土層断面（南から）

2　2区2号土坑近景（北西から）

3　2区2号土坑全景（北西から）

4　2区3号土坑土層断面（南から）

5　2区3号土坑全景（東から）

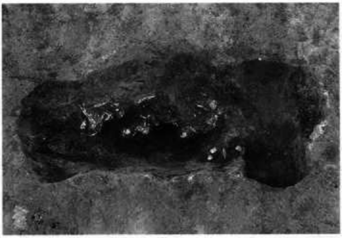
6　2区3号土坑遺物出土状態（東から）

7　2区3号土坑全景（東から）

8　2区2・3・4号土坑全景（南東から）

1　２区12号土坑土層断面（東から）

2　２区18号土坑全景（南東から）



3　２区12号土坑全景（東から）

4　２区30号土坑全景（西から）

5　２区37号土坑遺物出土状態（北東から）

6　２区37号土坑全景（北東から）

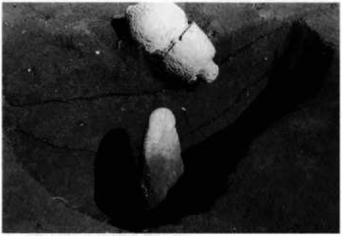
1　2区37号土坑土層断面（南から）

2　2区39号土坑土層断面（西から）

3　2区39号土坑全景（北から）

4　2区39号土坑全景（北から）

5　2区39号土坑遺物出土状態（北から）

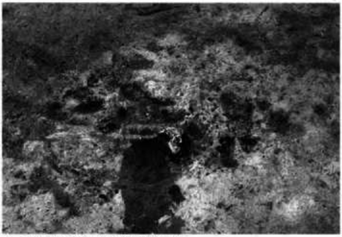


1　２区１号土坑土層断面（南から）

2　２区10号土坑土層断面（北西から）

3　２区10号土坑全景（南から）

4　２区10号土坑遺物出土状態（南から）



5　２区23号土坑全景（南東から）

6　２区25号土坑全景（東から）

7　２区27号土坑全景（東から）

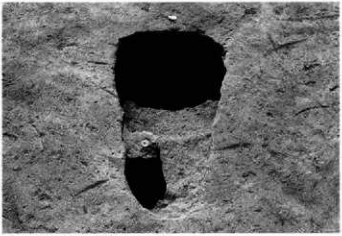
8　２区27号土坑遺物出土状態

1　2区31号土坑全景（北東から）

2　2区31号土坑遺物出土状態（北西から）

3　2区38号土坑全景

4　2区40号土坑全景（西から）



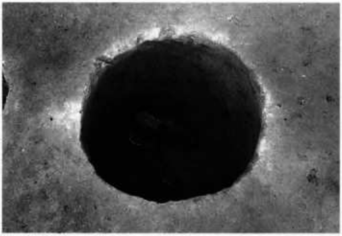
5　2区41号土坑全景（北から）

6　2区40号土坑遺物出土状態（北から）

7　2区44号土坑全景（北西から）

1　2区42号土坑土層断面（南から）

2　2区42号土坑全景（西から）



3　2区42号土坑全景（南西から）

4　2区42号土坑遺物出土状態（南から）

5　2区45号土坑土層断面（南から）

6　2区45号土坑全景（南西から）

7　2区45号土坑遺物出土状態（南西から）

8　2区48号土坑全景（北西から）

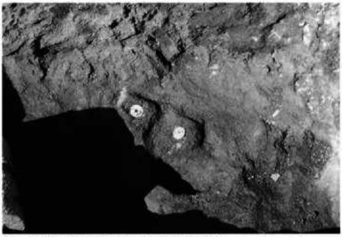
1　2区48号土坑遺物出土状態

2　2区51号土坑全景（北から）

3　2区51号土坑遺物出土状態（西から）

4　2区53号土坑全景（北東から）

5　2区61号土坑全景（北東から）



6　2区61号土坑遺物出土状態（南東から）

7　2区65・66号土坑全景（北東から）

1　2区62号土坑全景（北から）

2　2区63号土坑全景（北東から）

3　2区70号土坑全景（西から）

4　2区3号井戸骨・古銭出土状態

5　2区五輪塔出土状態

6　4区1号土坑土層断面（南から）

1区水田433

1区水田M11

2区7住334

2区7住335

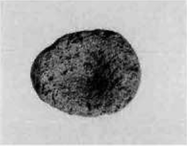
2区4住325

2区7住332

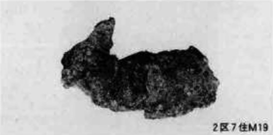
2区7住333

2区7住M16

2区7住M17



2区7住M18

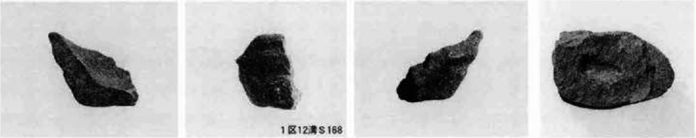

2区7住M19

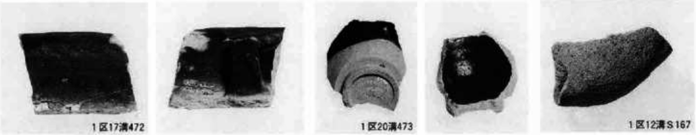
1区1溝S256

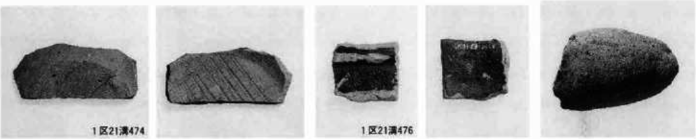
1区3溝S278

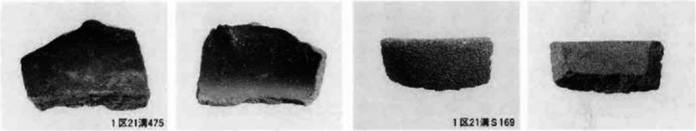
1区3溝S257

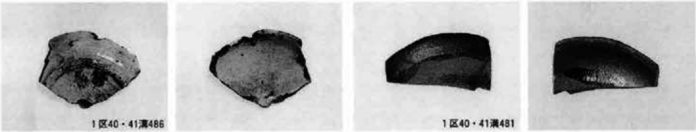
1区12溝470

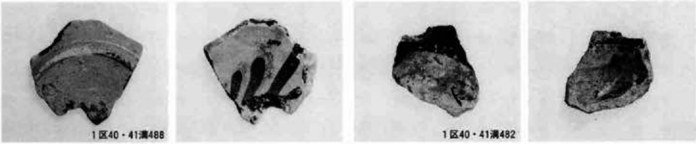

1区12溝S168

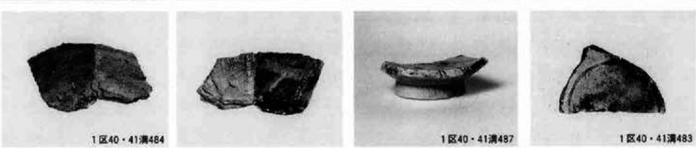

1区17溝472　1区20溝473　1区12溝S167

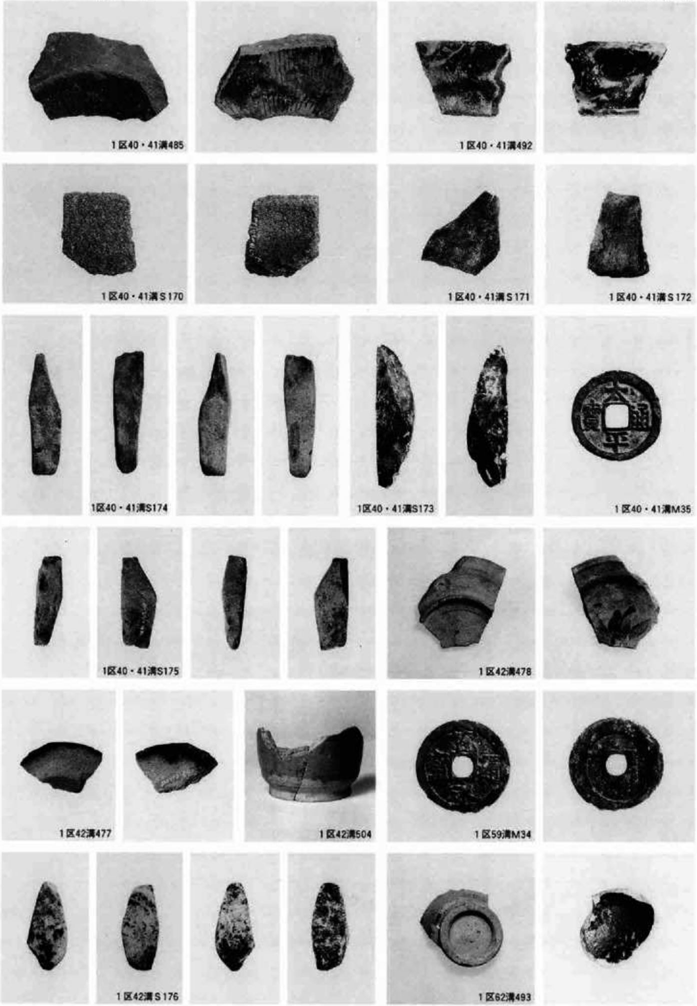

1区21溝474　1区21溝476


1区21溝475　1区21溝S169

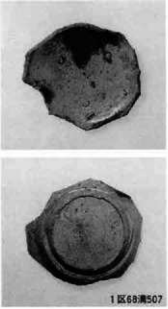

1区40・41溝486　1区40・41溝481

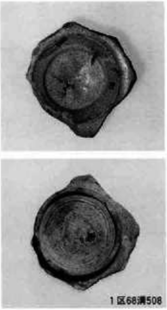

1区40・41溝488　1区40・41溝482

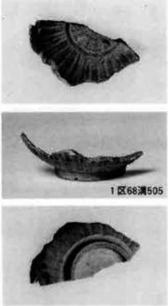

1区40・41溝484　1区40・41溝487　1区40・41溝483

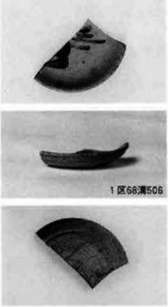


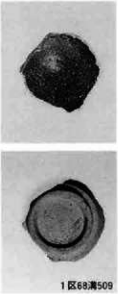
1区40・41溝485
1区40・41溝492
1区40・41溝S170
1区40・41溝S171
1区40・41溝S172
1区40・41溝S174
1区40・41溝S173
1区40・41溝M35
1区40・41溝S175
1区42溝478
1区42溝477
1区42溝504
1区59溝M34
1区42溝S176
1区62溝493

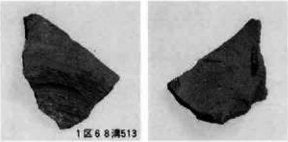

1区68溝507

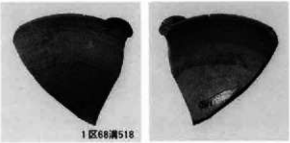

1区68溝508


1区68溝505

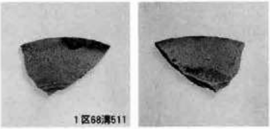

1区68溝506

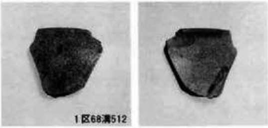

1区68溝509

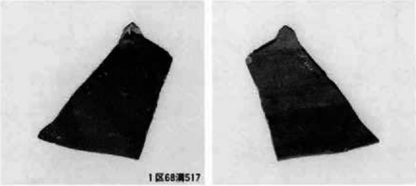

1区６８溝513

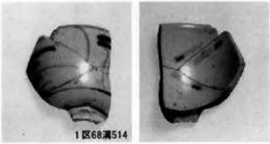

1区68溝518

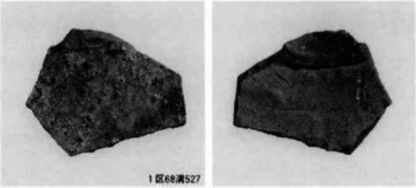
1区68溝510


1区68溝511

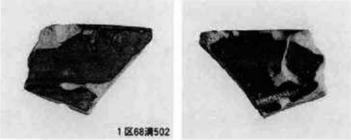

1区68溝512

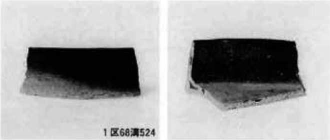

1区68溝517


1区68溝514

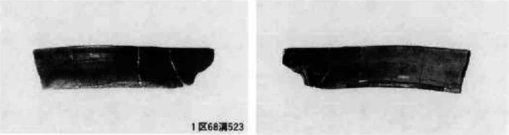

1区68溝527

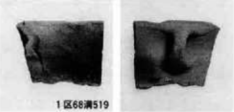
1区68溝530

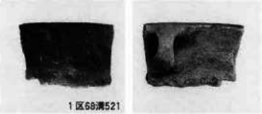

1区68溝502


1区68溝524

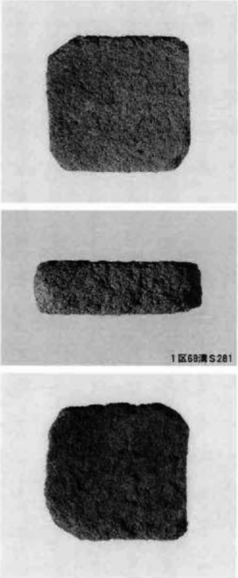
1区68溝S177

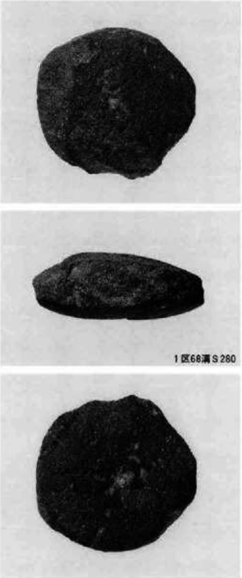

1区68溝523

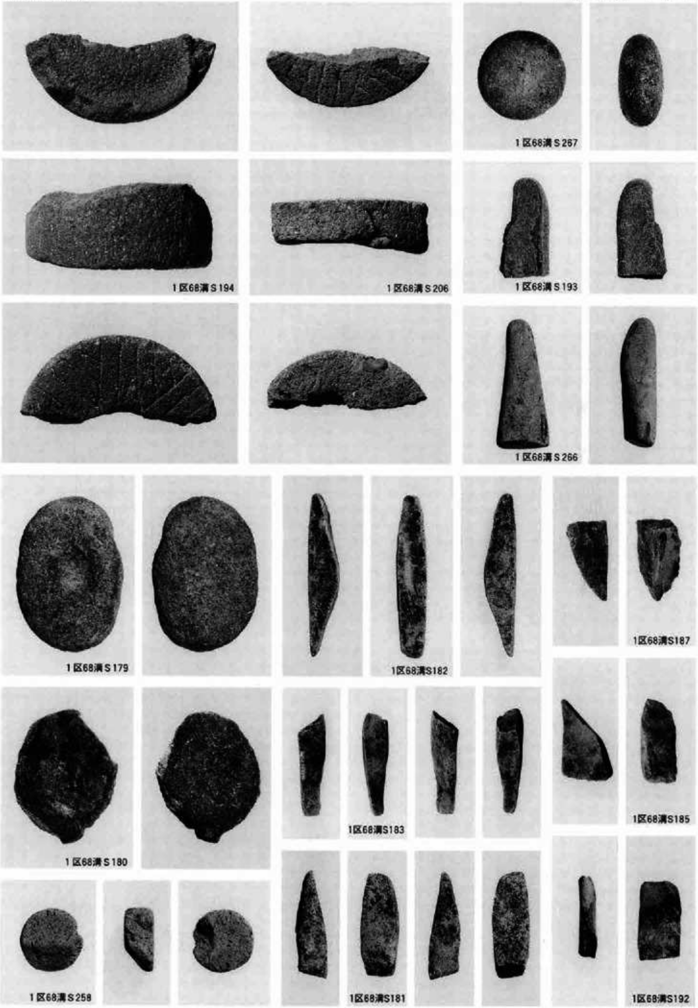

1区68溝519


1区68溝521

1区68溝S178


1区68溝S281


1区68溝S280



1区68溝S267

1区68溝S194

1区68溝S206

1区68溝S193

1区68溝S266

1区68溝S179

1区68溝S182

1区68溝S187

1区68溝S180

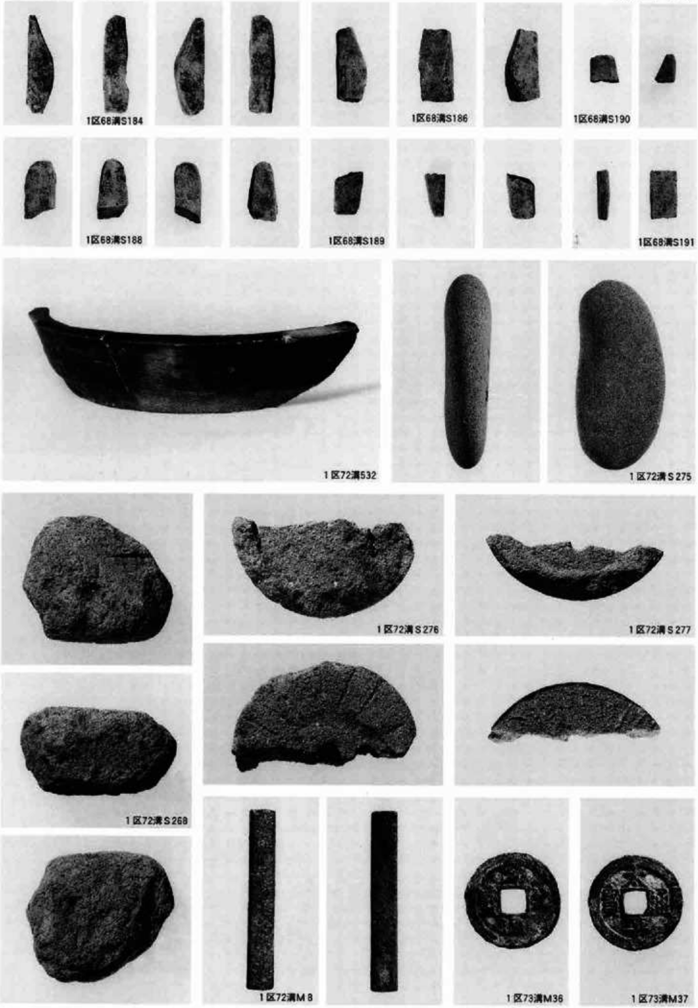
1区68溝S183

1区68溝S185

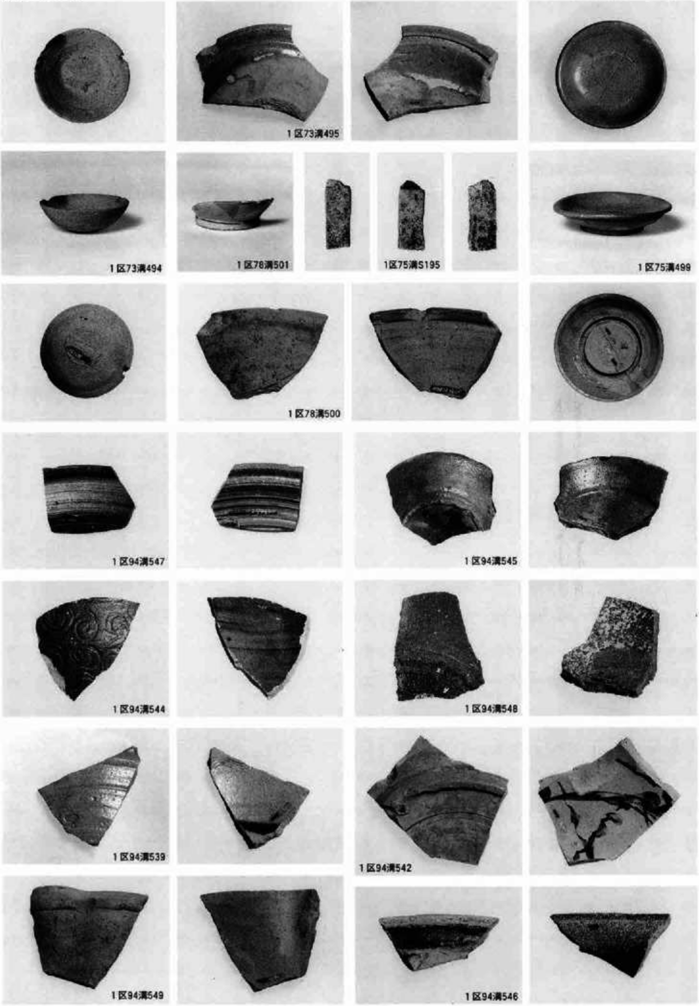
1区68溝S258

1区68溝S181

1区68溝S192



1区68溝S184
1区68溝S186
1区68溝S190
1区68溝S188
1区68溝S189
1区68溝S191
1区72溝532
1区72溝S275
1区72溝S276
1区72溝S277
1区72溝S268
1区72溝M8
1区73溝M36
1区73溝M37



1区73溝495

1区73溝494

1区78溝501

1区75溝S195

1区75溝499

1区78溝500

1区94溝547

1区94溝545

1区94溝544

1区94溝548

1区94溝539

1区94溝542

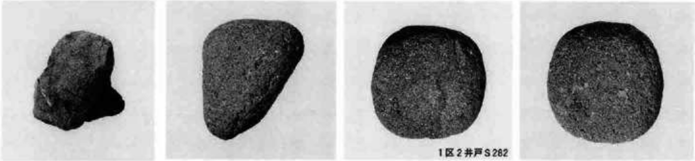
1区94溝549

1区94溝546

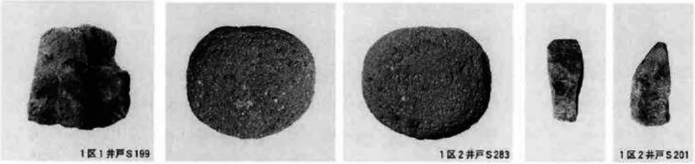
1区94溝S196

1区94溝S197

1区94溝S198



1区2井戸S282

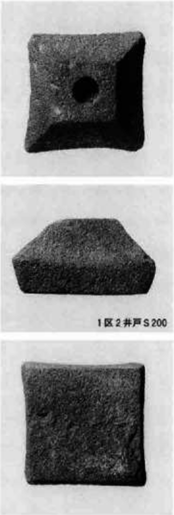


1区1井戸S199

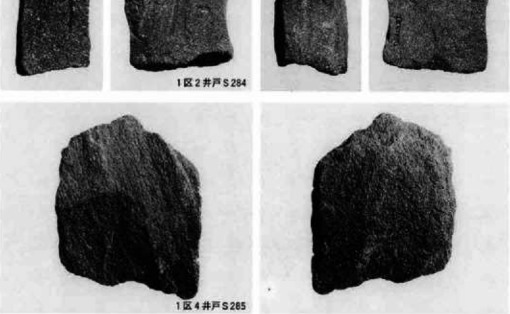
1区2井戸S283

1区2井戸S201

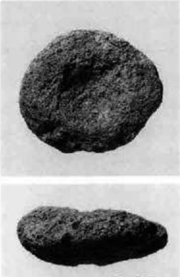
1区2井戸S284



1区2井戸S200



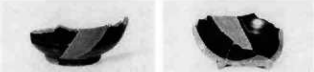
1区4井戸S285

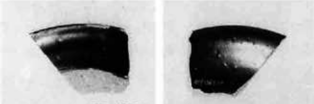

1区18井戸S202

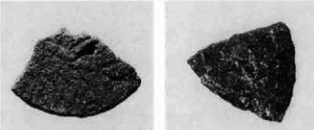
1区18井戸S286

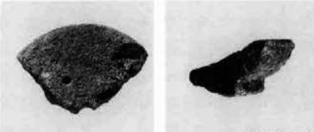
1区36井戸S287

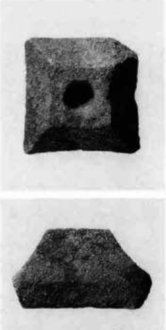
1区36井戸560

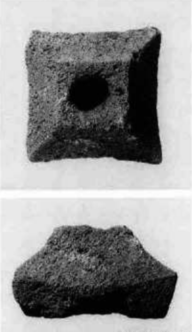

1区48井戸562

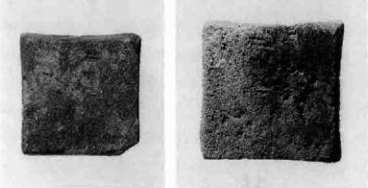

1区48井戸561

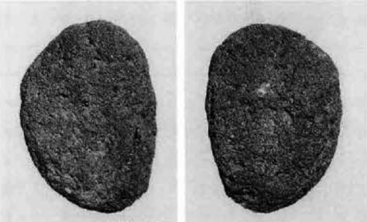

1区53井戸S288

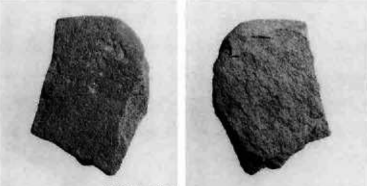

1区53井戸S289


1区48井戸S204

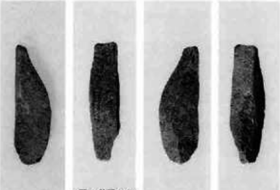

1区48井戸S205



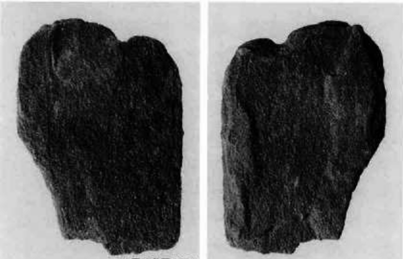

1区54井戸S290


1区54井戸S207

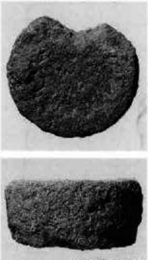
1区59井戸S291

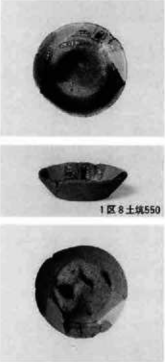

1区61井戸S292

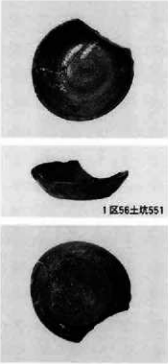
1区61井戸S293

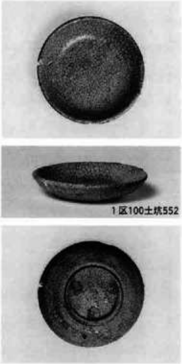

1区67井戸S294

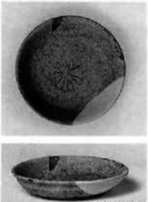
1区42土坑M25

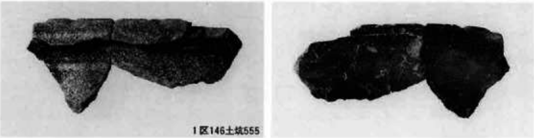

1区40土坑S165

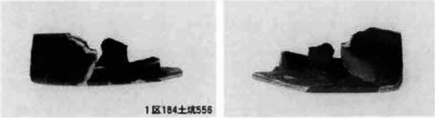

1区8土坑550

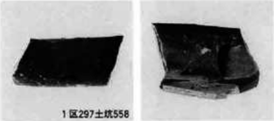

1区56土坑551

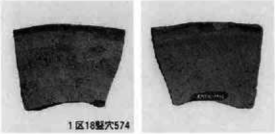

1区100土坑552


1区108土坑553


1区146土坑555


1区184土坑556

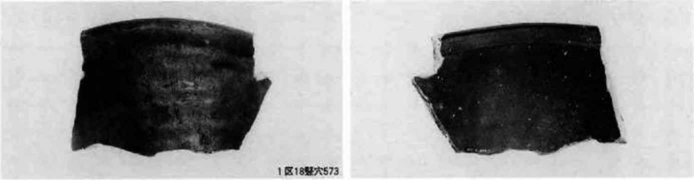

1区297土坑558

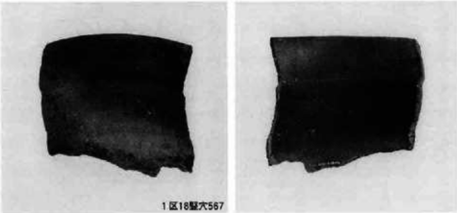

1区18竪穴574

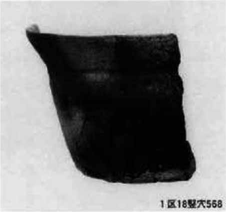
1区18竪穴569

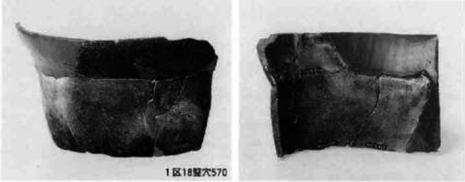
1区16竪穴S209

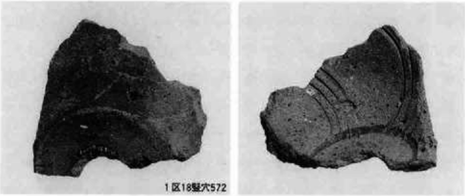
1区225土坑S166

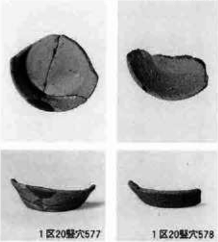

1区18竪穴573

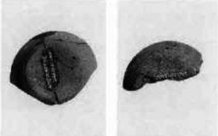

1区18竪穴567

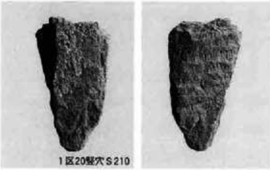

1区18竪穴568


1区18竪穴570

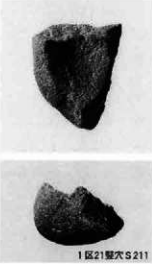

1区18竪穴572


1区20竪穴577　1区20竪穴578

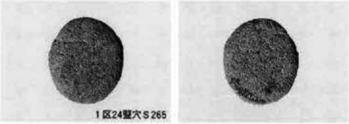



1区20竪穴S210

1区26竪穴S212

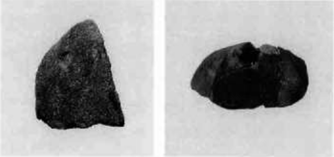

1区21竪穴S211

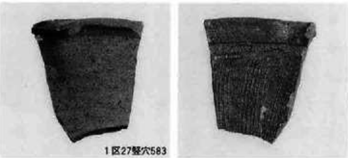
1区24竪穴581

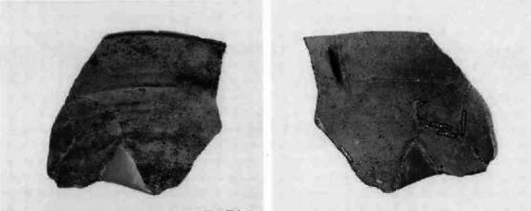

1区24竪穴S265

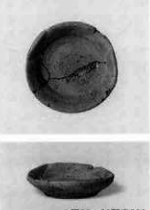
1区27竪穴585

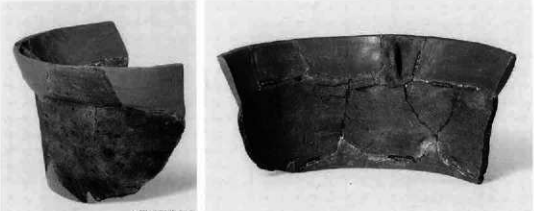
1区27竪穴584



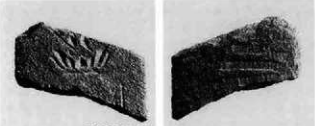

1区27竪穴583


1区27竪穴590


1区28・30竪穴589


1区29竪穴588

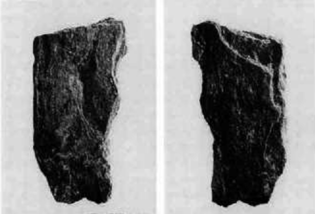
1区29竪穴587


1区29竪穴S213

1区28竪穴M40

1区28竪穴M39

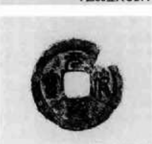
1区28竪穴M38


1区30竪穴S214

1区99土坑M28

1区99土坑M27

1区99土坑M26

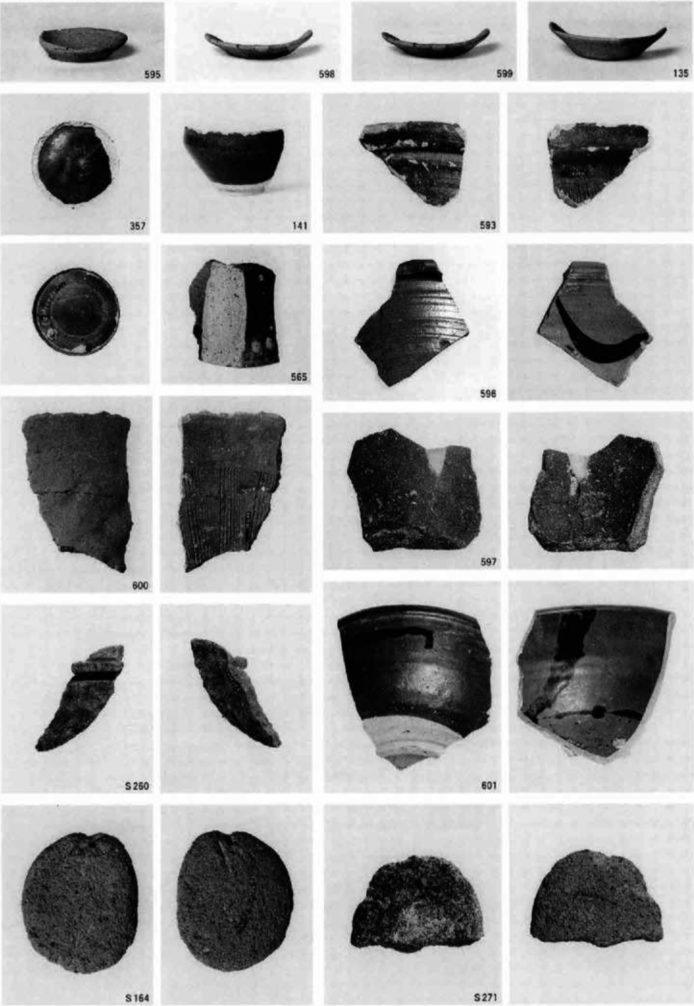

1区153土坑M32

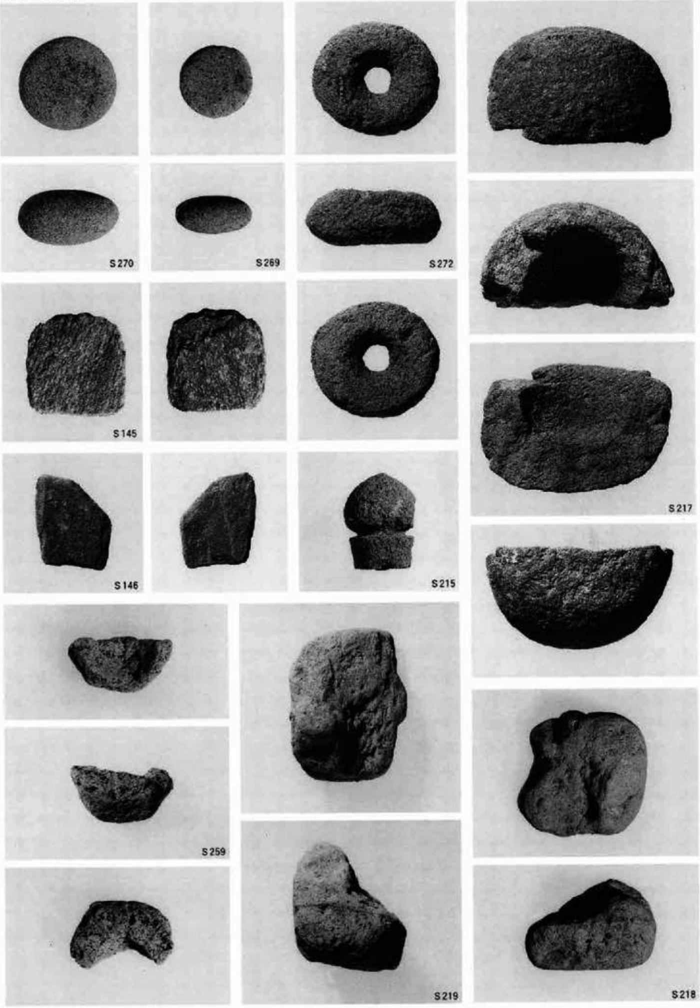
1区153土坑M33

1区99土坑M31

1区99土坑M30

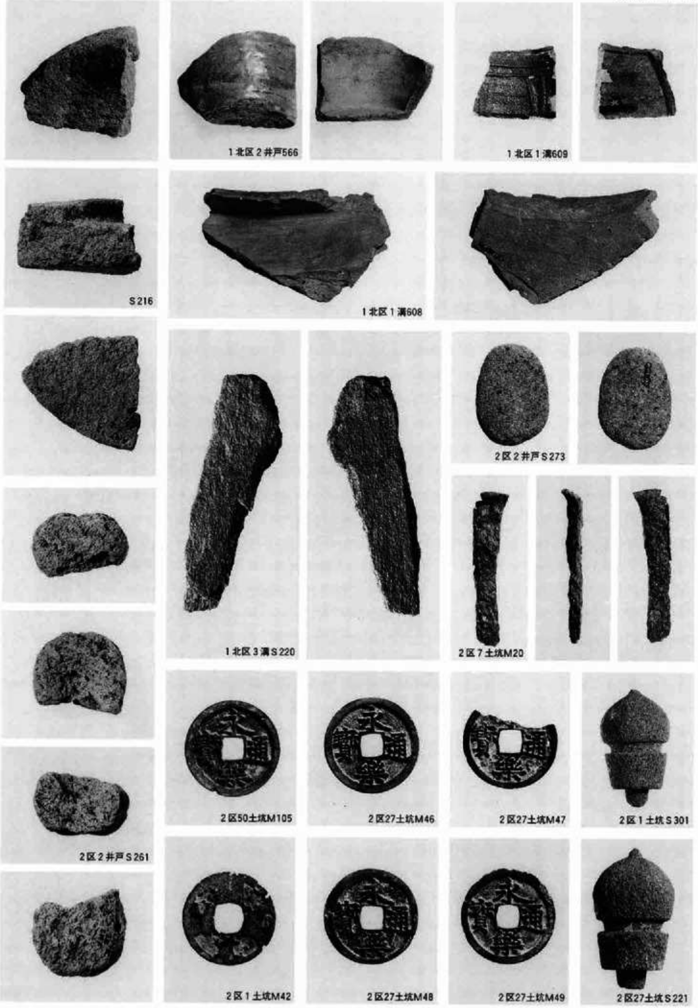
1区99土坑M29


595
598
599
135
357
141
593
565
596
600
597
S260
601
S164
S271



S270　S269　S272　S145　S146　S215　S217　S259　S219　S218

P L 52　1区遺構外　1北区溝・井戸　2区井戸・土坑出土遺物



1北区2井戸566
1北区1溝609
S216
1北区1溝608
2区2井戸S273
1北区3溝S220
2区7土坑M20
2区2井戸S261
2区50土坑M105
2区27土坑M46
2区27土坑M47
2区1土坑S301
2区1土坑M42
2区27土坑M48
2区27土坑M49
2区27土坑S221

2区31土坑605

2区31土坑M50

2区31土坑M51

2区31土坑M52

2区31土坑M53

2区31土坑M54

2区31土坑M55

2区40土坑M56

2区40土坑M57

2区40土坑M59

2区40土坑M58

2区40土坑M60

2区40土坑M61

2区40土坑M62

2区41土坑M63

2区41土坑M64

2区44土坑M66

2区44土坑M67

2区44土坑M68

2区45土坑M69

2区45土坑M70

2区45土坑M71

2区45土坑M72

2区50土坑M73

2区50土坑M74

2区50土坑M75

2区50土坑M76

2区50土坑M77

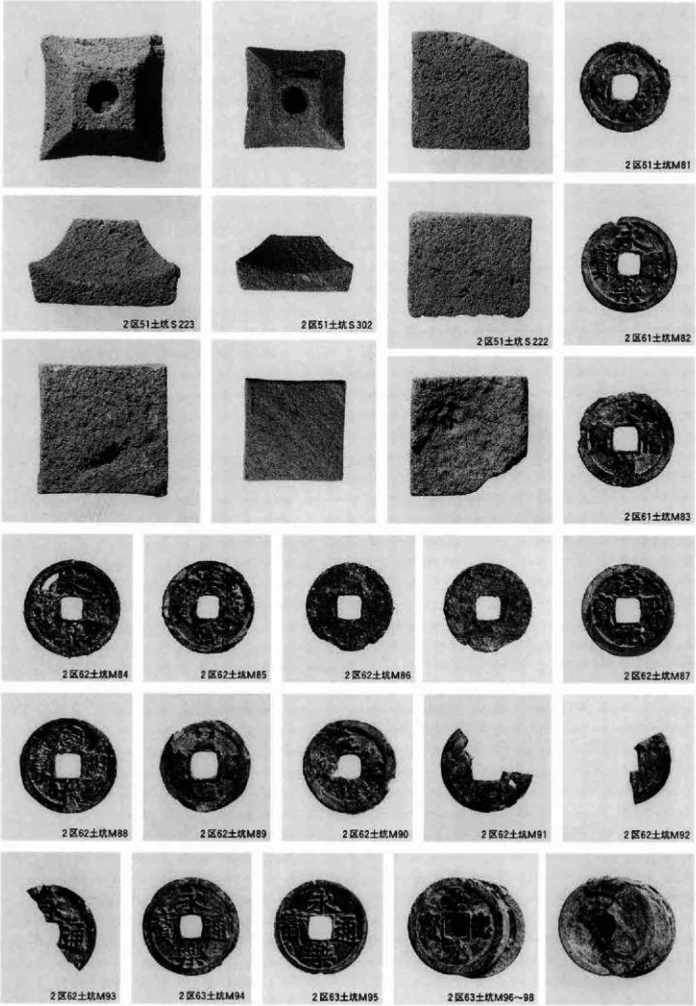
2区53土坑S224

2区53土坑S303

2区53土坑M78

2区53土坑M79

2区53土坑M80



2区61土坑M81

2区51土坑S223

2区51土坑S302

2区51土坑S222

2区61土坑M82

2区61土坑M83

2区62土坑M84

2区62土坑M85

2区62土坑M86

2区62土坑M87

2区62土坑M88

2区62土坑M89

2区62土坑M90

2区62土坑M91

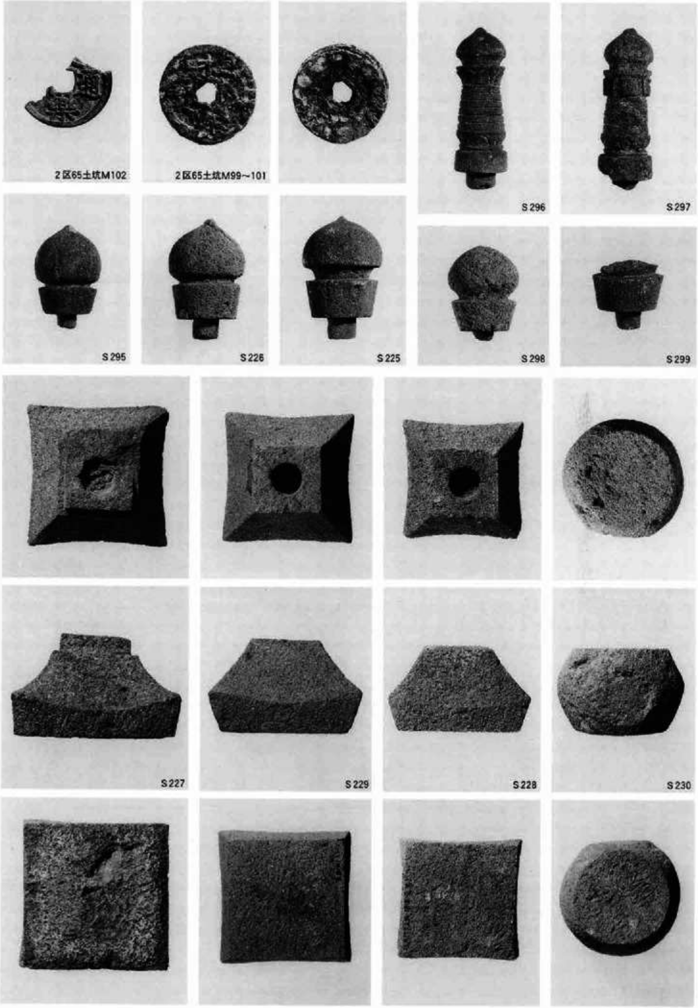
2区62土坑M92

2区62土坑M93

2区63土坑M94

2区63土坑M95

2区63土坑M96～98

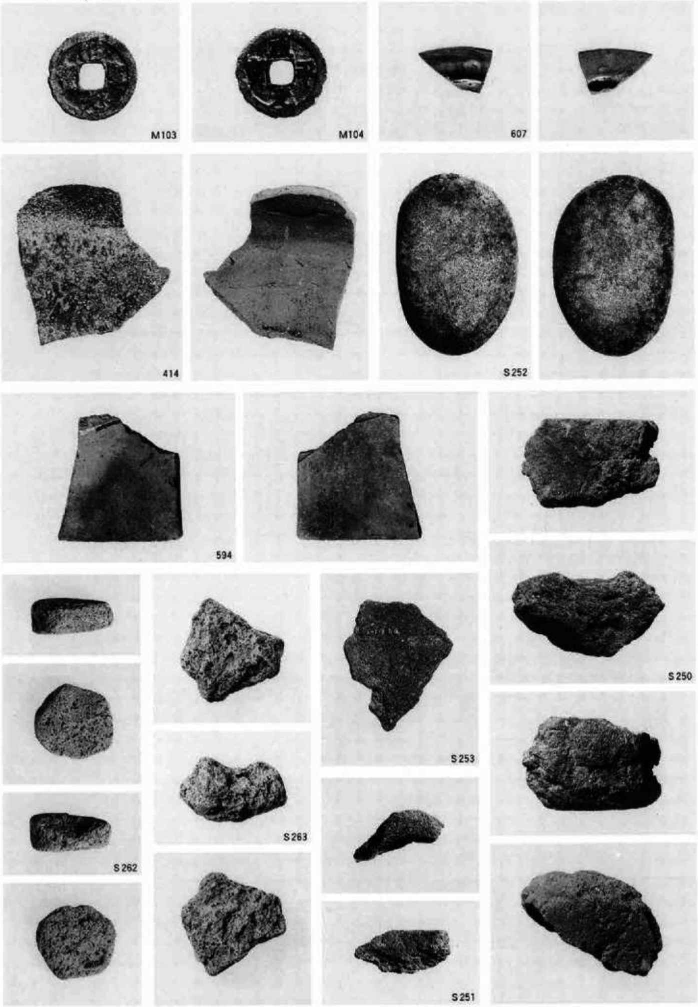


2区65土坑M102　2区65土坑M99～101

S 296　S 297

S 295　S 226　S 225　S 298　S 299

S 227　S 229　S 228　S 230



M103　M104　607　414　S252　594　S250　S253　S263　S262　S251

S254

S242

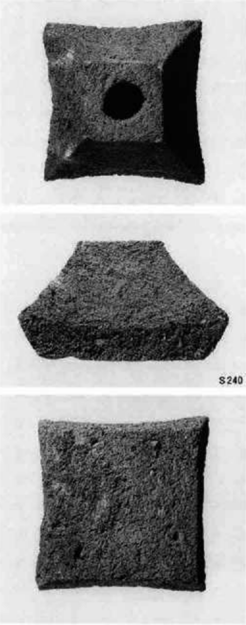
S243

S233

S241

S232

S231

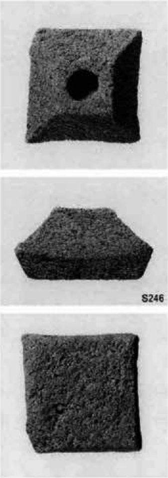


S240

S235

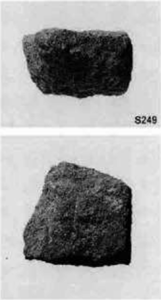
S244

S234

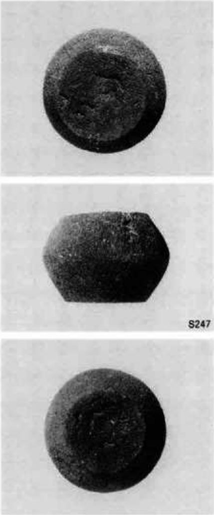

S246

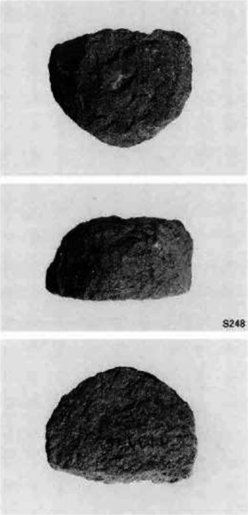
S245

S255


S249

S238


S247


S248

S 236

S 237

S 239

M41

M106

M107

M108

M109

M110

M111

M112

M113

荒砥宮田遺跡

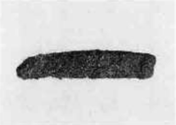
4区1溝611

4区S274

荒砥前田遺跡

5号溝23

5土坑16



9溝10

9溝9

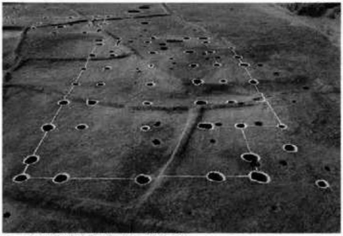
8溝M1

8溝M2

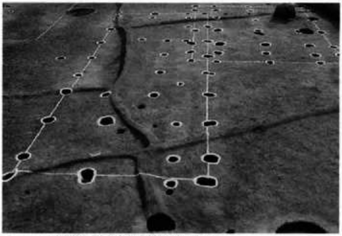
1　荒砥前田遺跡から荒砥宮田遺跡西方を望む（南から）

1　荒砥前田遺跡から荒砥宮田遺跡東方を望む（南西から）

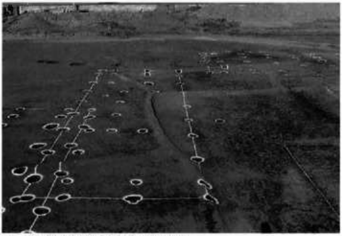
2　掘立柱建物跡群（北から）



3　2号掘立柱建物跡全景（東から）

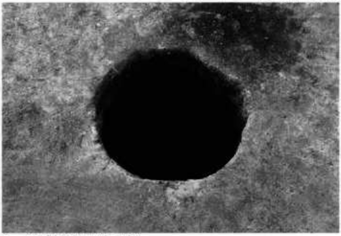


4　1・3号掘立柱建物跡全景（北から）



5　3号掘立柱建物跡全景（南から）

1　1号井戸全景（東から）

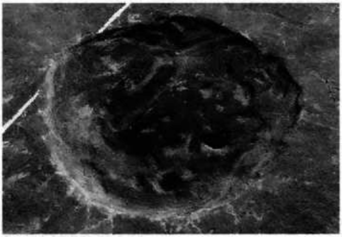


2　2号井戸全景（東から）

3　6・7A・7B号溝土層断面（北から）

4　6・7A・7B号溝全景（南から）

5　1号土坑全景（北から）



6　2号土坑全景（北から）

7　3号土坑全景（東から）

1　浅間B軽石下水田全景（東から）

2　浅間B軽石下水田　アゼ近景（東から）

3　浅間B軽石下水田　アゼ近景（南から）

4　浅間B軽石下水田　作業風景（手前は洪水層下水田・南から）

5　浅間B軽石下水田　北壁土層断面（白色層浅間B軽石・南から）

6　浅間B軽石下水田　東壁土層断面C－C′（西から）

7　1～3号溝全景（東から）

8　浅間B軽石下水田　東壁土層断面D－D′（西から）

1　洪水層上畠検出状態（東から）

2　洪水層上畠全景（北から）

3　洪水層上畠土層断面と畝間溝（南から）

4　洪水層上畠土層断面（南から）

5　洪水層下水田全景（西から）

1　洪水層下水田全景（東から）

2　洪水層下水田　５号溝全景（東から）

3　洪水層下水田　５号溝近景（北東から）

4　洪水層下水田　５号溝脇のアゼ（北東から）

5　洪水層下水田　５号溝土層断面

6　洪水層下水田の帯状区画（西から）

1　洪水層下水田　アゼ沿いの水路１（北から）

2　洪水層下水田　アゼ沿いの水路１近景（東から）

3　洪水層下水田　アゼ沿いの水路２全景（東から）

4　洪水層下水田　アゼ脇の精査作業（東から）

5　洪水層下水田　直線的にのびるアゼ（西から）

6　洪水層下水田の区画

1　洪水層下水田の区画

2　洪水層下水田の傾斜

3　洪水層下水田　調査状態

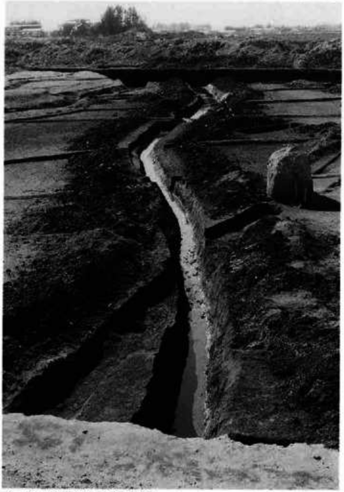
4　洪水層下水田耕作土下の榛名二ツ岳火山灰（北から）

5　基本土層A地点（北から）

6　基本土層B地点（東から）

1　8号溝全景（南から）

2　8号溝土層断面Ｂ－Ｂ′（南から）


3　9・10号溝全景（北から）

4　10号溝土層断面（南から）

5　11号溝全景（南西から）

6　4号土坑全景（東から）

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第336集

荒砥宮田遺跡Ⅱ

古代・中近世の調査

昭和58年度県営圃場整備事業荒砥北部
地区に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書

荒砥前田遺跡

弘仁9年洪水被災の
水田と復旧畠の調査

昭和56年度県営圃場整備事業荒砥南部
地区に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書

平成16年9月24日　印刷
平成16年9月30日　発行

編集・発行／群馬県教育委員会
〒371-8570　群馬県前橋市大手町1丁目1番1号
電話（027）223－1111（代表）

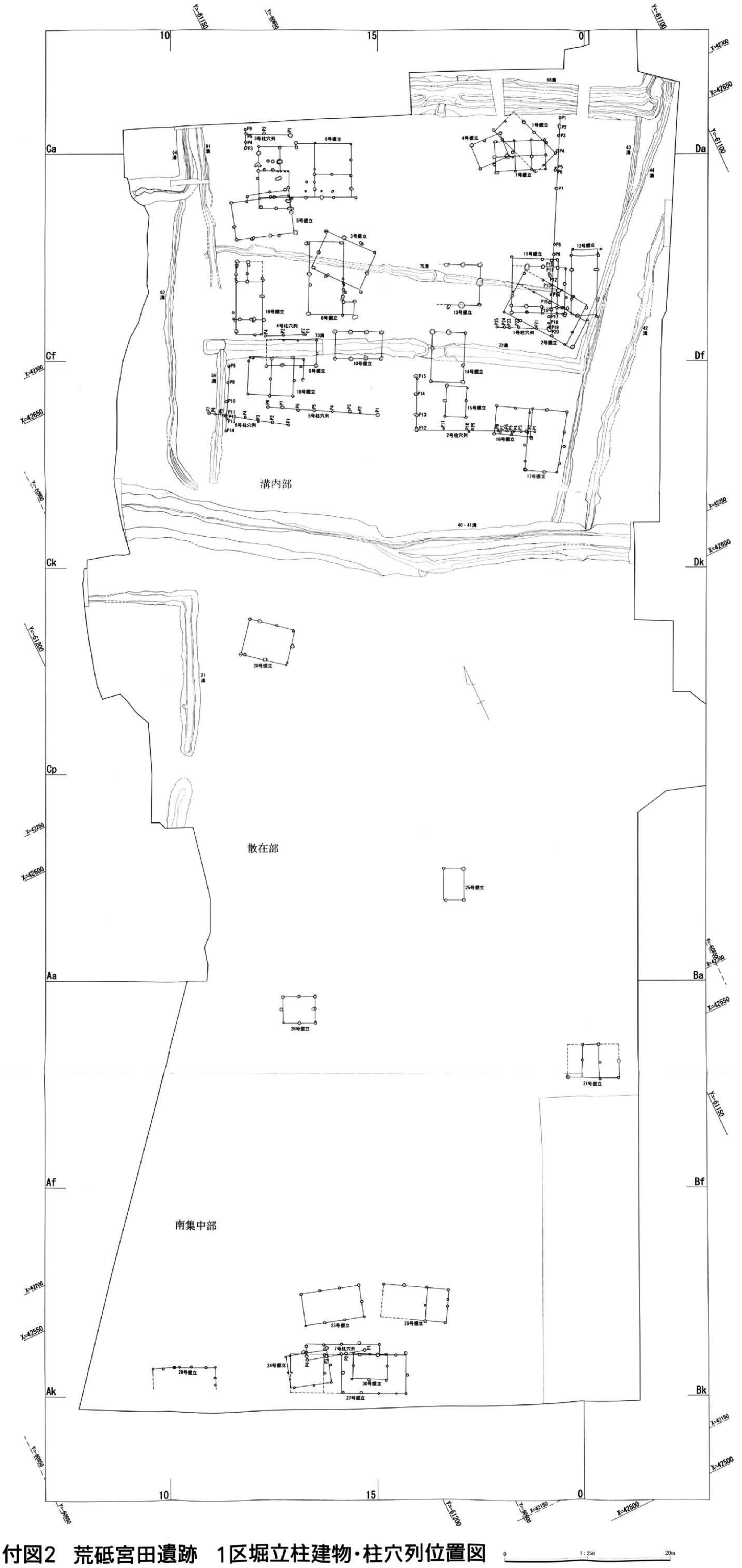
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-8555　群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2
電話（0279）52－2511
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／松本印刷工業株式会社

付図1　荒砥宮田遺跡　1区・1北区中近世遺構全体図

遺構名のうち番号のみは土坑を示す。

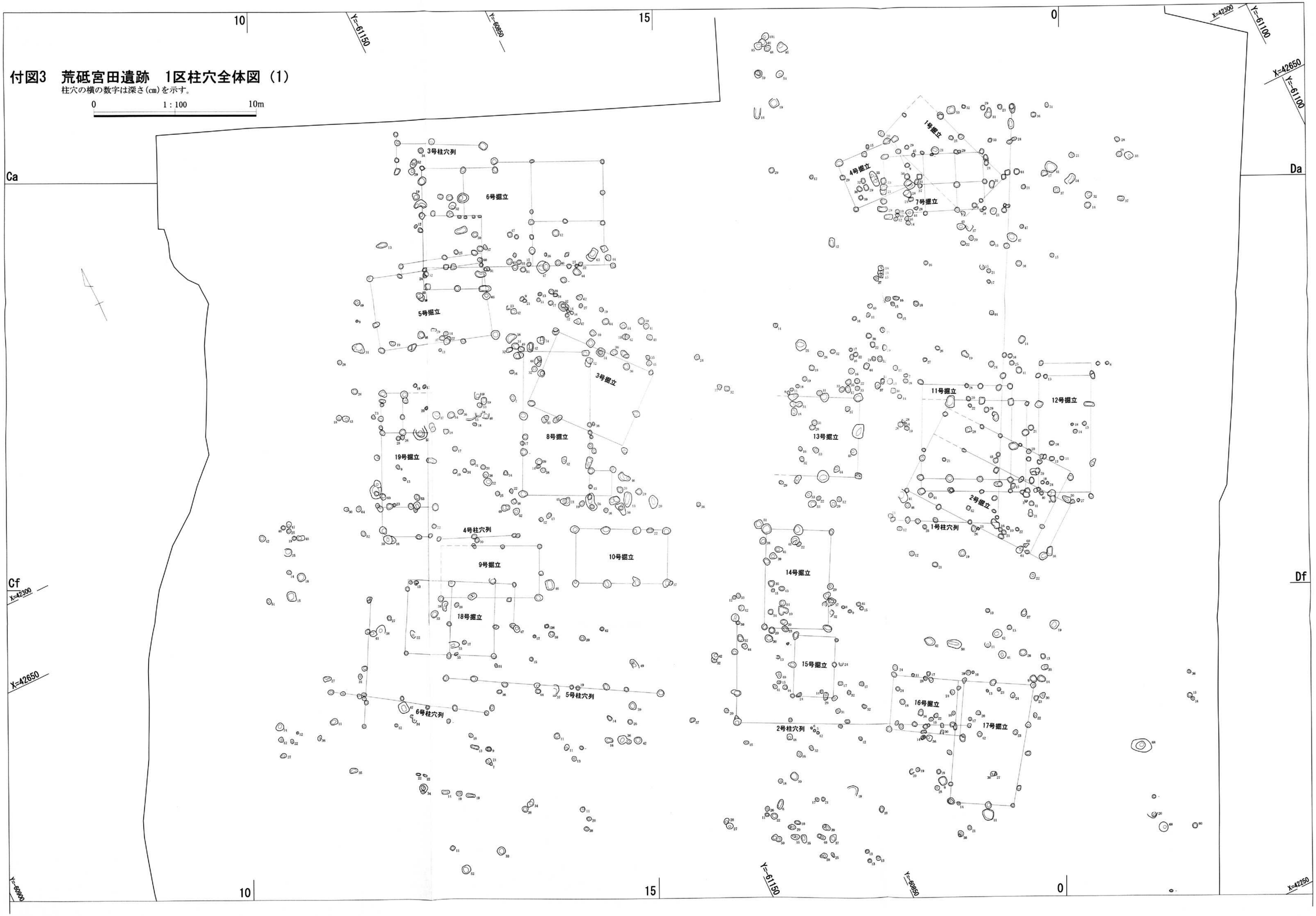
0　1：300　20m

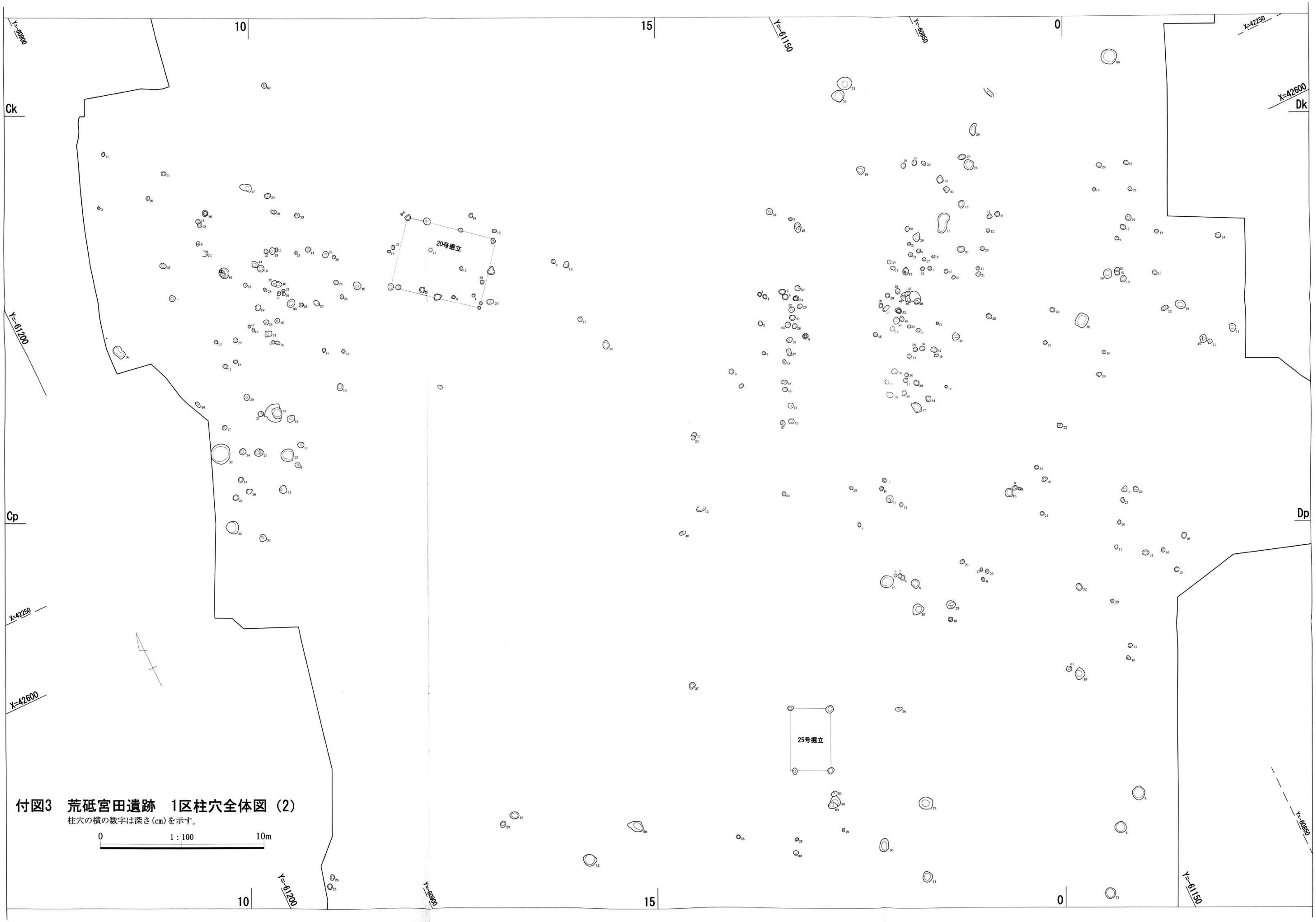


付図2　荒砥宮田遺跡　1区堀立柱建物・柱穴列位置図

付図3　荒砥宮田遺跡　1区柱穴全体図（1）

柱穴の横の数字は深さ(cm)を示す。





付図3　荒砥宮田遺跡　1区柱穴全体図（2）

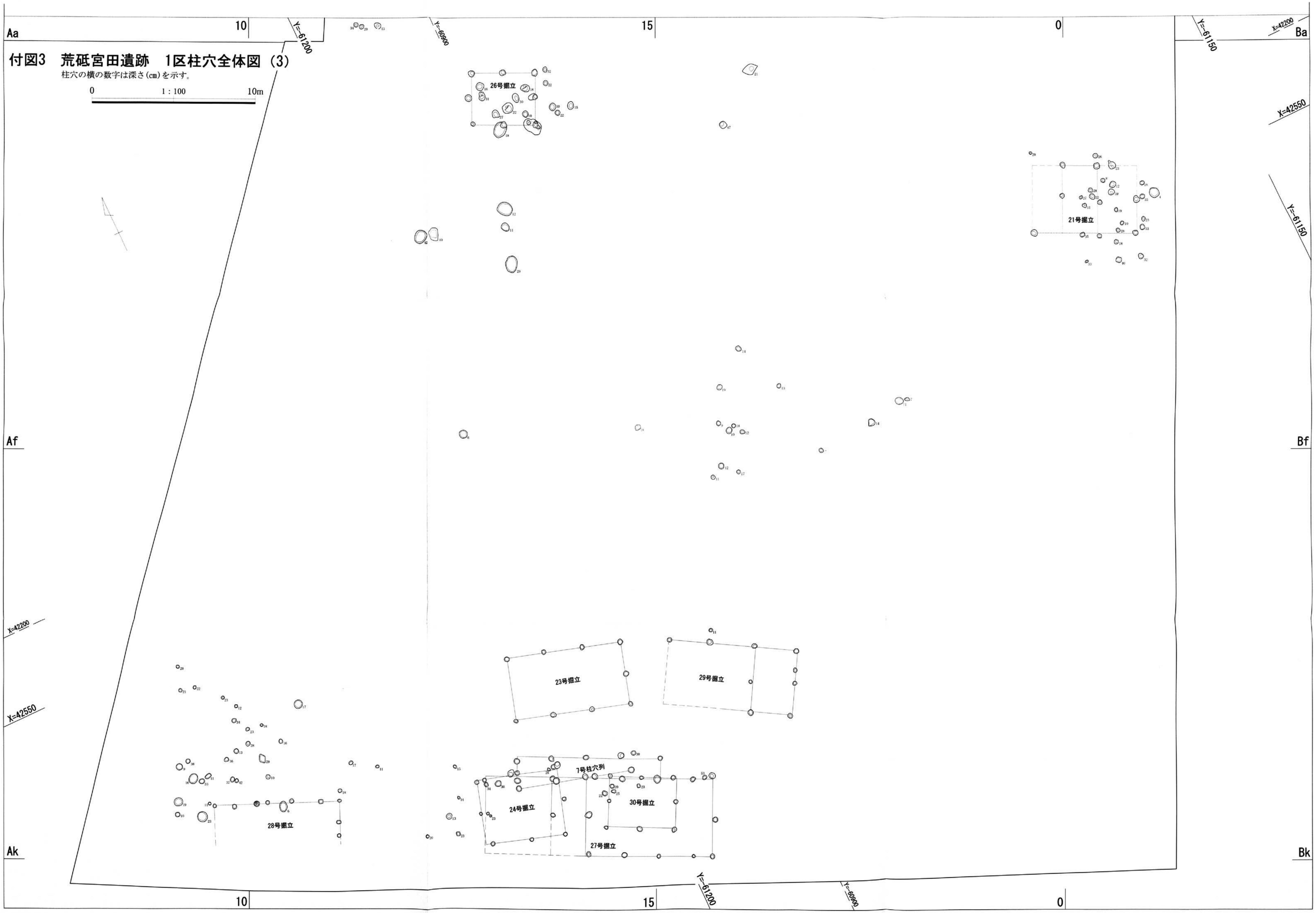
柱穴の横の数字は深さ(cm)を示す。

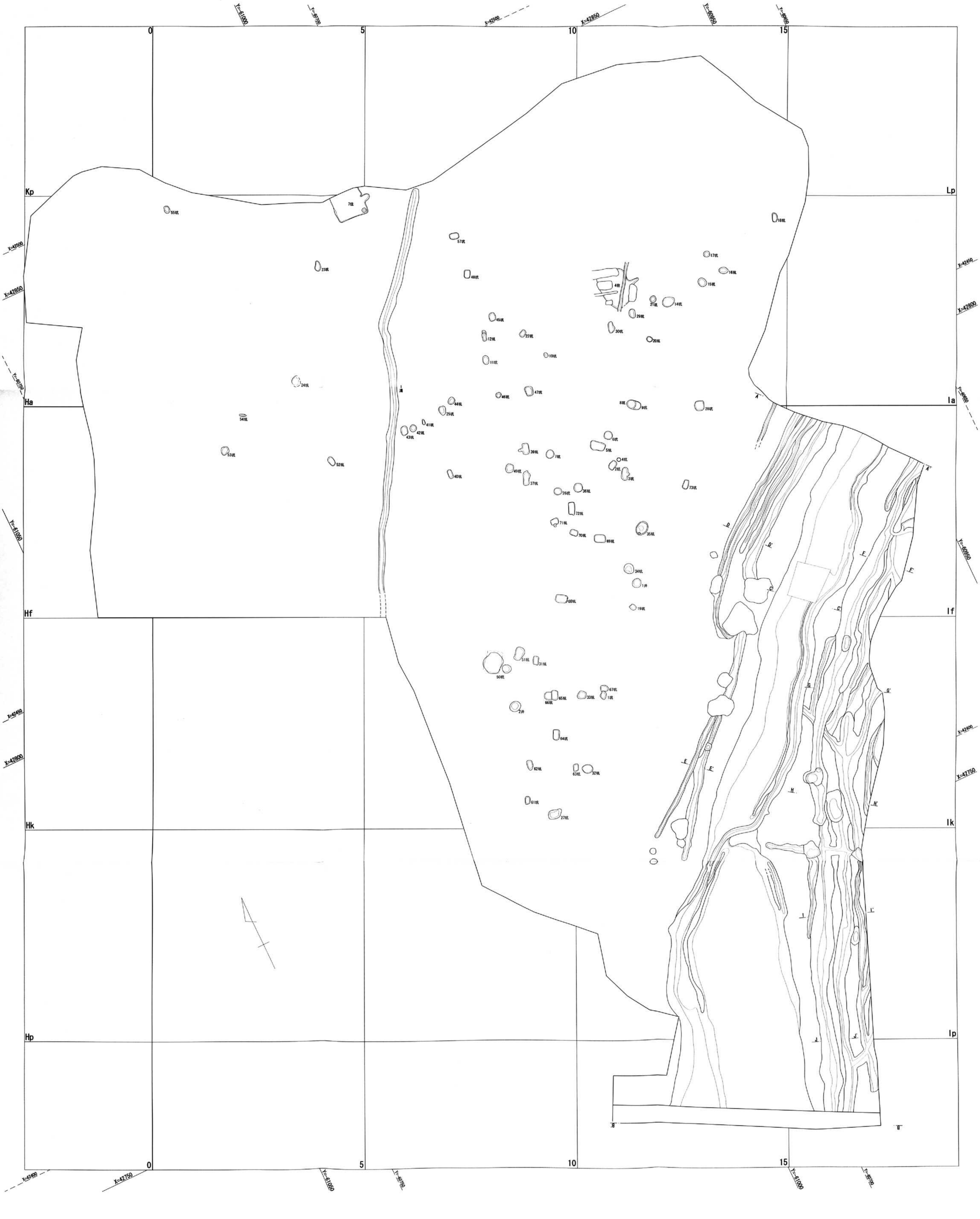
0　1：100　10m

付図3　荒砥宮田遺跡　1区柱穴全体図（3）

柱穴の横の数字は深さ(cm)を示す。

0　1：100　10m





付図4　荒砥宮田遺跡　2区古代・中近世遺構全体図

0　1：200　20m